

葦津珍彦著作目録

松田 義男 編
改訂 2019年 6月 22日
2016年 7月 27日

目次

1. 著書
2. 共著
3. 評論等(新聞・雑誌掲載)

凡例

* 葦津珍彦(1909～1992年)の著作を、「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。初出が新聞・雑誌掲載の場合は、初出の注記として収録書を「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」に記載した。原則として、収録文が初出の場合のみ「2. 共著」に記載した。

* 叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をく >に示した。

* 単行書の内容および連載評論で副題が各回で異なる場合【 】に示した。

* 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の朝・夕刊がある場合、夕刊のみ[夕刊]と注記した。

なお、雑誌『新勢力』には巻次に乱れがあり、1978年1月号は第23巻第1号であるが第22巻1号となっていて、1979年12月号が第23巻10号に、1980年、1981年が第24巻、第25巻になっている。本目録では1978年1月号から1979年12月号までは通号表記(213～231号)とし、1980年を第24巻とした。

* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。

* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。

* 連載は、初回掲載に一括した。

* 収録書は、初出の注記として[]に記した。下記収録書の略号は下記の通り。

『神社新報選集 昭和廿六年版』神社新報社、1951年=>『選集昭 26年版』

『神社新報選集 昭和三十一年版』神社新報社、1956年=>『選集昭 31年版』

『神社新報選集 昭和三十六年版』神社新報社、1961年=>『選集昭 36年版』

『神社新報選集 昭和四十一年版』神社新報社、1966年=>『選集昭 41年版』

『神社新報選集 昭和四十六年版』神社新報社、1971年=>『選集昭 46年版』

『神社新報選集 昭和五十一年版』神社新報社、1976年=>『選集昭 51年版』

『神社新報選集 昭和五十六年版』神社新報社、1981年=>『選集昭 56年版』

『神社新報選集 昭和六十一年版』神社新報社、1986年=>『選集昭 61年版』

『神社新報五十年史(下)』神社新報社、1981年=>『50年史(下)』

『天皇・神道・憲法』<葦津珍彦選集 第1巻>神社新報社、1996年=>『選集 1』

『維新の継承者として』<葦津珍彦選集 第2巻>神社新報社、1996年=>『選集 2』

『時局・人物論』<葦津珍彦選集 第3巻>神社新報社、1996年=>『選集 3』

* ペンネーム(白旗士郎、南船北馬、矢島三郎、矢嶋三郎、赤坂一郎、相模壮一、くさなぎ・たける等)、無署名・英語名については< >に注記した。本著作目録における無署名文の採録については、次ページの「注記 本著作目録における無署名文の採録について」、参照。

* 編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。そのうち『神社本庁図書室蔵書目録[増補改定版]』(神社本庁教学研究所、1998年)に記載のあるものは、<神社本庁所蔵>と注記し、図書番号を付記した。同図書室蔵書は一般の閲覧を許可していないので調査は実施できなかった。

* その他、編者の注記を適宜[]または< >に記した。

謝辞

本著作目録作成に際しては、文元英方・野田和昭編「葦津珍彦著作目録」(『葦津珍彦先生追悼録』小日本社、1993年)369～380頁、神社本庁教学研究所資料室・葦津珍彦選集編集委員会編「葦津珍彦著作目録」(『葦津珍彦選集(第三卷)』神社新報社、1996年)785～820頁、神社本庁教学研究所資料室編『神社本庁図書室蔵書目録[増補改定版]』(神社本庁教学研究所、1998年)、牟禮仁編「葦津珍彦主要著作収載論説一覧」(『次代へつなぐ葦津珍彦の精神と思想』神社新報社編・刊、2012年)1～13頁を参照したほか、石川県立図書館、大阪府立中央図書館、大谷大学附属図書館、岡山県神社庁、岡山大学附属図書館、京都大学人文科学研究所・法学部図書室・文学研究科図書館、熊本県立図書館、県立長崎図書館、皇学館大学附属図書館、高野山大学図書館、国立国会図書館、金光図書館、花園大学情報センター、広島大学中央図書館、福岡市総合図書館、横浜国立大学附属図書館より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

注 1 本著作目録における無署名またはペンネームによる著作について

『新勢力』・『小日本』における無署名またはペンネームによる著作については、「葦津珍彦著作目録」(『葦津珍彦選集(第三卷)』)、以下「著作目録」(『選集(第三卷)』)と略記)にしたがった。

「著作目録」(『選集(第三卷)』)では、『新勢力』掲載の無署名 26 篇、「矢島三郎/矢島生/矢島」8 篇、「赤坂一郎」7 篇、「白旗士郎」3 篇、「相模壮一」3 篇が採録されている。本著作目録では、「相模壮一」1 篇を追録した。同じく、『小日本』では、無署名 26 篇、「赤坂一郎/赤坂」21 篇、「南船北馬」8 篇、「矢島三郎」2 篇、「くさなぎ・たける/くさなぎのたける」3 篇、「さがみふみを」2 篇、「A」2 篇、「相模」1 篇が採録されている。本著作目録では、「さがみふみを」23 篇、「赤坂一郎」10 篇、「くさなぎのたける」2 篇、「矢島三郎」1 篇を追録した。

下記 1 篇は、葦津珍彦の著作の可能性はあるが、断定できないので採録しなかった。

「外交五十年」幣原喜重郎『小日本』[復刊]1、1976年11月1日<相模次郎>

「著作目録」(『選集(第三卷)』)では、『神社新報』掲載著作は採録対象外とされているが、本著作目録では著作として確認できるものはすべて採録した。

『神社新報』における無署名「社説」・「論説」については、著書『共産思想の追放』『日本の君主制』『時の流れ』『神国の民の心』『天皇 昭和から平成へ』に収録されている、「社説」19 篇・「論説」1 篇、『新勢力』に転載されている「論説」1 篇を採録した。同じく、無署名の「教養講座」1 篇(『国民精神昂揚運動資料集 第二集』(神社本庁、1969年)収録)、「公民教室」3 篇(『天皇 日本人の精神史』、『日本人が虐殺された現代史』(新人物往来社、1973年)、『革命と反革命・ロシア革命史話(抄)・平和革命路線の破綻』(神道政治連盟、1973年)収録)を採録した。

下記 7 篇は、葦津珍彦の著作の可能性はあるが、断定できないので採録しなかった。

外人起草の日本国憲法 制定されるまでの経過[「解説」]『神社新報』327、1953年3月2日<無署名>

神道とヒューマニズム『神社新報』421、1955年3月7日<相模新太郎>

現代の時局と憲法問題[「公民教室」]『神社新報』1282～1286、1973年5月7、14、21、28日、6月3日<無署名>

戦後問題としての国語問題[「公民教室」]『神社新報』1290～1292、1973年7月2、9、16日<無署名>

一世一元制の法制化を[「公民教室」]『神社新報』1324～1326、1974年3月18、25日、4月1日<無署名>

神道指令の亡霊追放を 津地震祭・最高裁判決の意義[「教養講座」]『神社新報』1485～1491、1977年8月29日、9月5、12、19、26日、10月3、17日<無署名>[『選集昭56年版』収録]
祭神の神格と在世中的人格『神社新報』1824、1984年10月29日<相模志郎>

葦津が担当していた『神社新報』時評欄「時局展望」・「時局通信」・「時の流れ」については、村松嘉津がフランスから寄稿した「ローマ法王庁とクレムリン」(第806号、昭和38年4月13日)を除き、すべて採録した。

葦津の回想によると「時の流れ」三十三年、本紙創刊当時は「時局展望」と題してゐたが、このコラムに執筆すること約一千五百回、創刊当時の「主幹は大坪重明兄で、社説は、主として大坪主幹が書いて、私もしばしば執筆したが、このコラムは準社説的な形で、すべて私のみが書いた」(「時の流れ三十三年 コラム記者の回想挨拶(上)」『神社新報』第1572号、昭和54年7月2日、1頁)とされる。以下、「時の流れ」欄の変遷を確認しておく。

『神社新報』紙に「時局展望」欄が創設される第29号(昭和22年1月20日)から第45号(5月12日)までは「葦津生、矢嶋生、矢嶋三郎」の署名で7篇を執筆している。無署名での執筆はなく、葦津以外の執筆もない。第46号以後、「時局展望」は休載となり、第61号(9月8日)から「週間展望」欄が設けられ、分野別に、政治は矢部周、経済は島田晋作、国際は長谷川了・長谷川進一が執筆している。葦津の執筆は第89号(昭和23年3月22日)から第128号(昭和24年1月3日)まで「週間展望 政治」「週間展望 国際」「週間展望」を8篇、うち、1篇は白旗士郎、6篇は矢嶋三郎、矢嶋生、矢嶋の署名、1篇のみ無署名である。

第130号(昭和24年1月24日)から「時局展望」が復活するが、無署名と矢嶋生・矢嶋生の署名で執筆、無署名が通常となるのは、第147号(5月23日)以後である。「時局展望」は第568号(昭和33年4月19日)で終了し、第569号(4月26日)から「時の流れ」となる。

昭和39年7月、『神社新報』紙の「社告」で「論説委員」葦津珍彦の休職、「時の流れ」の休載が告げられる(第864号、昭和39年7月4日)。「時の流れ」は第864～876号(7月4日～10月10日)が休載となり、第877号(10月17日)から再開される。その後、1042号(昭和43年3月30日)から1077号(同年12月21日)まで「時の流れ」は「時局通信」となり、翌44年から再び「時の流れ」にもどる。

「時の流れ」から「時局通信」に変わった第1042号(昭和43年3月30日)は「三郎」と署名(「矢嶋三郎」の「三郎」と推定した)。「時の流れ」が復活した第1078号(昭和44年1月4日)は「寄稿筆者」葦津珍彦とある。第1573号(昭和54年7月9日)、「時の流れ三十三年 コラム記者の回想挨拶(下)」をもって「時の流れ」は終了する。

ちなみに、『神社新報』紙における毎年の「賀状」で、葦津の肩書を確認すると、昭和25年は「総務」(第176号、1月2日、1頁)、昭和26年から昭和31年までは「主筆」(第224号、昭和26年1月1日、4頁。第461号、昭和31年1月7日、7頁)、昭和32年から「囑託」(第508号、昭和32年1月5日、7頁)として「論説委員」(第508号、昭和32年1月5日、3頁)をつとめている。昭和43年3月末で神社新報社を退社し(「神社新報退社の辞」『神社新報』第1040、1041号、昭和43年3月16、23日)、以後は「社友」(第1071号、昭和43年11月2日、2頁)としての寄稿となる。

注2 先行著作目録の誤記訂正について

「著作目録」(『選集(第三巻)』)に採録されている下記文献①は、葦津珍彦の著作ではない。②は書名の誤記、③は掲載誌の誤記。④は刊行年・月の誤記。⑤は論文タイトルの誤記。⑥は記載に混乱があるように思われる。⑦は、「葦津珍彦主要著作収載論説一覧」(『次代へつなぐ葦津珍彦の精神と

思想』神社新報社編・刊、2012年、以下「収載論説一覧」と略記)に記載されている、初出または収録書の誤記である。それぞれ、=>以下が正しい。

- ①『神宮制度改正要綱』財団法人伊勢神宮奉賛会、1959年5月=>佐藤尚武談

憲法における天皇制の問題『思想』1962年5月=>小松茂夫「憲法における天皇制の問題—憲法調査会編『憲政運用の実際』を読んで—」『思想』455、1962年5月

維新政策問答『新勢力』1970年2月=>毛呂清輝「維新政策問答」『新勢力』15-2、1970年2月5日

戦後天皇制論の方法『神道学』1971年11月=>永藤武「戦後天皇制論の方法—「思想の科学」での葦津・橋川論争をめぐって—」『神道学』71、1971年11月

- ②尊皇攘夷とは?『語りつぐ昭和史(上)』講談社、1975年8月=>尊皇攘夷とは?〔語りつぐ戦後史〕『思想の科学[第5次]』76、1968年6月1日〔対談：鶴見俊輔〕〔鶴見俊輔編『語りつぐ戦後史2』(思想の科学社、1969年)、『語りつぐ戦後史(上)』<講談社文庫>(講談社、1975年)、鶴見俊輔『近代とは何だろうか 鶴見俊輔座談』(晶文社、1996年)収録。「尊皇攘夷を語る」と改題『神道的日本民族論』収録]

- ③神道・占領政策への対応と抵抗『思想の科学』1977年1月=>1977年1月にインタビューを受け、思想の科学研究会編『共同研究 日本占領軍 その光と影 下巻』(現代史出版会、1978年)に収録されているが、『思想の科学』には掲載されていない。

- ④明治維新の精神的温床『不二』1962年3月、10月=>『不二』17-3、1962年3月25日

「日本の犯罪論」を消滅せよ—朝日新聞「標的」の暴論—『新勢力』1967年9月=>『新勢力』13-8、1968年9月5日<白旗士郎>

チェコ占領から学ぶもの『世界と日本』1973年12月=>『世界と日本』8-11、1968年12月10日

- ⑤波乱を予想させる中国問題『新勢力』1971年2月、台北か北京か『新勢力』1971年2月=>台北か北京か 波乱を予想させる中国問題『新勢力』16-2、1971年2月15日

- ⑥『皇位と神宮』神社本庁調査部、1958年11月、『神宮と国家』神社本庁調査部、1958年11月、『神宮と憲法』神社新報社、1963年=>皇位と神宮『神宮と国家』<神社制度調査資料4>神社新報社政教研究室編、神社本庁調査部、1957年11月30日〔初出は『日本憲法確立同盟研究彙報』2-10、1957年10月1日。「多少の改訂」を加えて、神社新報社政教研究室編『神宮と憲法』(神社新報社、1963年7月25日)収録]

『神宮と皇位と』神社本庁、1960年12月=>『神宮と皇位と 政府の公式見解表明まで』<神社制度調査資料7>神社本庁調査部、1960年12月10日〔「神宮と皇位」と改題『神道的日本民族論』『みやびと覇権』収録]

『神宮と皇位と』神社本庁、1960年12月=>『神宮と皇位と』の誤記と解し、本著作目録では採録していない。

靖国神社国家護持と現在の憲政実例『浪漫』1974年8月=>靖国神社国家護持と現在の憲政実例『英霊の怒り』塙三郎編、浪漫、1974年8月30日。編者未見とされている『浪漫』1974年8月に掲載はない。また、『英霊の怒り』が共著に採録されていないことから、雑誌『浪漫』と浪漫発行書籍とを混同したのではないかと思われる。

- ⑦日本の浪人と中国革命『新勢力』臨時増刊、『明治維新研究第四集、1963年3月、『選集2』収録=>維新の精神と東洋の解放—日本ナショナリズムの発展—『新勢力』8-8<『明治維新研究第四集』>、1963年8月5日〔「日本の浪人と中国革命」と改題『明治維新と東洋の解放』『選集2』収録]

伊藤芳男君の横顔—汪精衛が深く信頼した日本人『新勢力』1976年8月、『小日本』1984年11月、『選集2』収録=>地下活動に終始した故伊藤芳男君の横顔『新勢力』17-4、1972年4月15日〔「伊藤芳男君の横顔—汪精衛が深く信頼した日本人」と改題『小日本』58、1984年11月1日に転載、『小日本』から『選集2』収録]

日韓民族の不幸な歴史—虚像の前に卑屈な中曾根首相—『新編日本史のすべて 新しい日本史教科書の創造へ』(原書房、1987年)、『選集2』収録=>日韓民族の不幸な歴史—虚像の前に卑屈

な中曽根首相－『祖国と青年』95、1986年8月1日[『新編日本史のすべて 新しい日本史教科書の創造へ』(原書房、1987年)収録、同書から『選集2』収録]

上杉一枝大人を追悼－憂国の情に徹した神道人長老－『神社新報』1975年2月24日、「神道政治連盟と上杉初代会長回想」と題して『神政連二十五年のあゆみ』(1990年6月)、『選集3』収録＝>神道政治連盟と上杉初代会長回想『神政連のあゆみ(神道政治連盟)戦後の精神運動の柱として』(神道政治連盟、1990年6月13日[『選集3』収録]。収録書は、「著作目録」(『選集(第三巻)』)に採録されている。『神政連二十五年のあゆみ』(1990年6月)は発行が確認できないし、そもそも書名と刊行年とが一致していない。神道政治連盟の発足は1969年11月8日である(『神社新報』1119、1969年11月15日)。そして「神道政治連盟が創立されてから、今年は二十年になる」で始まる収録文は、当然、『神社新報』1367、1975年2月24日)を初出とするものではない。

1. 著書

- *『日本民族の世界政策私見』<太平洋パンフレット第1輯>日の丸組、1934年12月[『神道的日本民族論』『昭和史を生きて』収録]
- 『比律賓に於ける独立運動の概要』<太平洋パンフレット第2輯>改造日本社 1935年7月5日<南船北馬>【1序説、2比律賓の住民と文化、3スペインの支配からアメリカの支配へ、4アメリカ合衆邦統治下に於ける比律賓独立運動経過、5所謂「比島独立法案」の経済的根拠、6ホーズ・ヘアカツテング法とマクダファイ・タイデング法、7今後の比律賓、資料(比律賓に於ける合衆邦政府は全世界の前に告発せらる(サクダリスタスの機関紙から)、比律賓独立戦争と我徒の態度—独立派志士を米邦官憲に渡すな「太平洋」同人)】
- *『視察報告記 上海戦線より帰りて』1938年1月[『無題の論集 青春の日忘れがたし他』<私家版>(島田和繁、1967年)収録、久保田文治編『萱野長知・孫文関係史料集』(高知市民図書館、2001年)抄録]
- *『日華和平の基本問題』1938年8月[『論集』収録]
- *『三国同盟反対につき同志への書簡』1940年9月[西澤泰夫「葦津先生を偲ぶ」(葦津珍彦先生追悼録編集委員会編『葦津珍彦先生追悼録』小日本社、1993年)中に抄録]
- 『一日本人の言葉—ナチスの蒙を啓く—』兄弟会、1940年11月11日[「『余の闘争』を読む」と改題『論集』(兄弟会、1942年)収録。「日本の神道とナチス精神」と改題『神道的日本民族論』収録、『新勢力』21・6・7、1976年7月15日に転載、『昭和史を生きて』収録]
- *『万邦無比論の一端』[「はしがき」『一日本人の言葉 補筆』(兄弟会、1941年3月20日)で言及]
- 『私有財産と私的企業』兄弟会、1941年2月11日<吉川永三郎>[『論集』収録]
- 『一日本人の言葉 補筆』兄弟会、1941年3月20日<吉川永三郎>[「神道とナチスは断じて異なる」と改題『神道的日本民族論』収録、最初の「私有財産」論に関する問答を省略して『昭和史を生きて』収録]
- 『論集』兄弟会、1942年1月1日【敵国降伏の信仰、永遠の神話—立論的方法的序想、歴史的必然と創造の精神、基督教聖書を読む、『余の闘争』を読む、楠公を想ふ、私有財産と私的企業、論集付録(比律賓独立闘争と我徒の態度 独立派志士を米邦官憲に渡すな、日華和平の基本問題、歴史の示す革命家の資質)】
- 『臣民の権利』報国新報社、1942年12月1日<白旗士郎>
- *漢字、仮字と国学者、発表形態未詳、1945年<白旗士郎>[高井和大「美しい国語」(『葦津珍彦先生追悼録』小日本社、1993年)中に「資料」として全文掲載。また、同資料154ページで「国語変革論批判」(『報国新報』)の参照を求めている]
- *『神社制度変革ニ対スル私見』1945年10月25日[「前編神社本庁設立前史 3民間三団体の活動」(『神社本庁十年史』神社本庁、1956年5月18日)収録]
- *『第三帝国への道』1946年
- *『帝国の光栄を失墜させる為政者に対する糾弾と、失へる光栄を恢復せんとする未来の同胞に対する訴への書』1947年4月
- *『終戦始末記』<神社新報社非公開文書>1947年4月17日【はじめに、1大東亜戦争の概説、2戦争目的も不明確なままに、3重臣閣僚の責任、4降伏後の国体政体の変革、5憲法改訂への圧力、6マッカーサー憲法の押し付け、7第三帝国への道、参考・矢島文書の一部】[『選集3』収録]
- *『日本国憲法は如何にして作られたか』<神社新報社非公開文書>1948年

* 『御願』 1948年12月<神社新報社秘録資料> [『神道的日本民族論』収録]

『共産思想の追放』 神道青年全国協議会書記局編、神社新報社、1949年8月5日【主張 一すぢの道に行きよ、解説批判 1 共産主義者は民族文化を守るか、2 宗教と共産主義、3 共産主義者の暴力革命論について、4 議会主義政党と共産党、時評 1 中国内戦の新段階と中共の対外政策、2 国際共産主義者ソ連赤軍支持を表明す、3 北大西洋同盟とスペイン政府の立場、4 西独政府の樹立と独逸国家主義の動き、5 蔣・キリノ会談と太平洋同盟の前途、6 共産党の合法性は失はれるであらうか】

* 『天皇意思と一般意思』 神社新報社、1952年1月<非公開文書、神社新報社の社内報として役職員及び神社本庁の理事にのみ頒布> [『みやびと覇権』 『日本の君主制』収録]

* 『天皇・民族・神道』 神道青年全国協議会書記局、1953年1月【まえがき、1 神道と民族主義、2 あらゆる民の心を】 [『神道的日本民族論』収録]

『天皇・神道・憲法』 神社新報社、1954年12月15日【序説、1 憲法の前文、2 皇位の基礎、3 皇位継承法、4 神道(神器の相承、大嘗祭の儀、元号の事、宗教活動、宗教教育、公金の支出、神宮神社の制度)、5 統治権(統治権の総攬、反対論の検討、憲法制定権、その他の天皇大権、憲法改正限界説)] [『選集 1』収録、「皇位継承法」を『日本の君主制』(葦津事務所、2005年)付録として収録]

『憲法はこのまゝでよいか』 神社新報社政教研究室、1955年2月[同文を『綜合文化』1-3、1955年7月1日に掲載]

『近代政治と良心問題』 神社新報社、1955年6月5日【1 民主主義と政教分離、2 社会主義の思想、3 ソヴェートの政治思想、4 現代民主政治と人生観、5 政治と良心、6 日本史に於ける政治と宗教、7 現代日本の政治、8 神道的人生観のために、付録 アジアの解放と神道日本、あとがき】 [「付録 アジアの解放と神道日本」、「あとがき」を除き『選集 3』収録]

『現代神社の諸問題』 神社新報社、1955年【1 連合軍の日本占領、2 神道指令下る、3 神社本庁の創立とその性格、4 神社本庁の歩み、5 戦後神道教学問題、6 戦後神社の新現象、7 現代神道人の主張(上)、8 現代神道人の主張(下)] [『選集 1』、井上順孝編『社会の変容と宗教の諸相』<リーディングス 戦後日本の思想水脈 6>(岩波書店、2016年)収録]

『神社新報編集室記録』<創刊十周年記念出版> 神社新報社、1956年5月20日【第1篇 神社新報編集拾遺(はじめに、靖国神社廃止論に反対する一占領下の検閲と新報一、新憲法、新典範への批判、折口、岸本両博士と国家神道、国語の正統保持と紀元節問題、神宮祭主御就任の事情、追放令と社社人一勅令第一号の重圧一、宮川総長から長谷総長へ一微妙複雑な人事問題一、祝詞、祭式の改訂と占領政策、反共啓蒙の活動、式年遷宮奉賛と本社の動き、高階総長、宗教法人法案に不満、鷹司統理、元号廃止反対を表明、朝鮮動乱と平和運動、宗教法人審議会問題で政府に抗争一長谷氏の見解、総長と一致せず一、参議院選挙と宮川、高階両氏、総長選挙で吉田派、平田派紛糾す、吉田総長憲法問題を重視す一神職有志の後援にて政教研究室発足一、神宮皇学館の設立、自衛隊問題で政府に抗争、神社法と靖国法案の最近の動き)、第2篇 亡き人々をしのびて(故吉田茂大人の追想、故緒方竹虎大人の追想)、付録 編集室資料(米人に現御神を説く、平和と安全保障に関する意見書、靖国法案に対する基本態度)] [「故吉田茂大人の追想」、「故緒方竹虎大人の追想」は『選集 3』収録]

『宗教法人法改正の前提』<神社制度調査資料 1> 神社本庁調査部、1957年5月12日【1 宗教自由と法人認証制度、2 宗教法人の性格一財団と社団一、3 国民の良識と宗教法人法の改正】 [『神道的日本民族論』 『選集 1』 『神道と国家』<現代神道研究集成 9>(神社新報社、1998年)収録]

* 『中華革命とロシア革命』<内外維新叢書第7輯> 内外維新研究所、1958年5月[中華革命と日本浪人一その思想と人を語る一(『不二』12-6、1957年7月25日)、ロシア革命への新考察(『不二』13-2、3、1958年2月25日、3月25日)を収録か]

『国法と宗教』<神社制度調査資料 5> 神社本庁調査部、1958年8月20日【国法と宗教(1 戦没者

墓地は何故宗教施設とされていないか、2 憲法が宗教教育を禁止している理由は何か、3 宗教活動と非宗教活動のボーダーラインは何か)、続国法と宗教(1 真の宗教と疑似宗教を分つ美濃部博士の分類基準、2 天国と地上とを分つ米國憲法の立法精神、3 宗教と世界観とを同列にワイマール憲法の考へ方、4 宗教と非宗教の論点は何か、伊勢の神宮の国家的性格)【初出は『神社新報』573、575、1958年5月31日、6月14日、『神道的日本民族論』収録、「追記」を付記して、政教関係を正す会編『法と宗教』(経済往来社、1972年12月10日)、『政教分離に関する資料集』(政教関係を正す会、1983年)収録】

『三笠宮殿下へ御忠告』国民の祝日研究会、1959年4月5日【抵抗の剣、国の祝日と宗教、政治と学問自由の圧迫、忠勇なる戦没将兵】[「三笠宮殿下へ御忠告」と改題『神道的日本民族論』収録]

『伊勢神宮の制度改正について』【講演速記】<神社制度調査資料6>神社本庁調査部、1959年9月25日【伊勢神宮の制度改正とは何か、現在の神宮は一宗教私法人、天皇の御参拝は国事である、日本国体の再確認、憲法違反でない、他の神社はどうなるか、江戸時代の大嘗祭復興、結語】[『神道的日本民族論』『遷宮論集 第六十一回神宮式年遷宮記念』(神社本庁、1995年)収録]

『神宮と皇位と 政府の公式見解表明まで』<神社制度調査資料7>神社本庁調査部、1960年12月10日【はじめに、文部省宗教法人審議会での問題、神宮制度の調査研究、自民党宗教法人問題特別委員会、をはりに、参考文書】[小野祖教『神道をめぐる憲法問題 冠婚葬祭は政教分離の外』(国学院大学小野教授研究室、1968年8月10日)収録、「神宮と皇位」と改題『神道的日本民族論』『みやびと覇権』収録]

『士民のこゝろば—信頼と忠誠との情理—』神社新報社、1961年5月5日【はしがき、非合理なるものへの憧れ—信頼と忠誠との情理—、神苑の決意—政治とテロとの宿縁—、集団暴力の理論—全学連と安保闘争—、神道と日本の皇室、自衛隊に名誉を、民主主義と人間不信の思想、民主制度と専門官僚、日本土着の民権思想、右翼の先蹤(維新と革命)、右翼ハイ・ティーン、スターリン没後のソ連共産主義、社会主義的情熱の冷却、ニュー・フロンティアの外交—とくに中国と台湾の問題について—、台湾民族の歴史】[『選集 3』収録][再刊:<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 4>(葦津事務所、2005年7月30日)。

『天皇・祭祀・憲法』<神社制度調査資料8>神社本庁、1962年1月25日【天皇制と憲法(1 国政上の天皇、2 皇位継承法について、3 天皇の祭儀について)、天皇の祭祀と建国の精神】[天皇制と憲法(4 日本の国防)を追加、「付録」に「天皇の祭祀と建国の精神」と「日本国憲法の不当性」(憲法の会)を収録して『増補改訂版 天皇・祭祀・憲法』(神社本庁、1968年10月1日)。1962年版を『日本の君主制』収録]

『天皇制への疑問と解答』内外維新研究所、1962年6月15日<県立長崎図書館所蔵>【1 天皇制は戦争の原因か、2 天皇の戦争責任はどうか、3 国体と天皇の関係はどうか、4 終戦で国体は変わったのか、5 主権在民と天皇の関係はどうか、6 天皇が存在しなくても、日本はやってゆけるか、7 君主制の衰退は世界史の法則か、8 天皇と神道は不可分か、9 天皇にも信教の自由があつてよいのではないか、10 熱心な皇室尊崇は皇室の御迷惑か、11 皇族は国民の税金で贅沢をして居るのか、12 日本の国体は資本主義的か社会主義的か】[大東塾出版部、1972年<熊本県立図書館所蔵>、大東塾出版部、1979年10月<神社本庁所蔵 155>]

『国体問答』神社新報社、1962年6月15日【1 天皇制は戦争の原因か、2 天皇の戦争責任はどうか、3 国体と天皇の関係はどうか、4 終戦で国体は変わったのか、5 主権在民と天皇の関係はどうか、6 天皇が存在しなくても、日本はやってゆけるか、7 君主制の衰退は世界史の法則か、8 天皇と神道は不可分か、9 天皇にも信教の自由があつてよいのではないか、10 熱心な皇室尊崇は皇室の御迷惑か、11 皇族は国民の税金で贅沢をして居るのか、12 日本の国体は資本主義的か社会主義的か】[『日本の君主制』収録。『日本の君主制』から「国体問答」より」と題して1~6までを『保守の思想』<戦後日本思想大系 7>(筑摩書房、1972年)収録、4、5を『選集 1』収録]

『皇位継承と祖宗の神器』<「皇位継承と三種の神器について」内閣憲法調査会に提出した意見書の印刷版>1962年6月[『憲法調査会資料[2]』(憲法調査会事務局、1959-1962年)、憲政資料室所

蔵『佐藤達夫関係文書』収録。*『皇位継承と祖宗の神器 憲法調査会資料』〈兄弟文庫叢刊 2〉(兄弟文庫、1962年7月)〈神社本庁所蔵 155〉刊。『神社本庁二十年史』(神社本庁、1967年)「第十七年史(昭和三十七年)」の記事「葦津珍彦氏、皇位継承と三種の神器について内閣憲法調査会に意見書を提出する(六月十三日)」中に全文掲載]

『明治維新と東洋の解放』新勢力社、1964年7月【1 明治維新と国体意識、2 明治新政権に対する抵抗の潮流、3 明治における右翼と左翼の源流、4 日本の浪人と中国革命、5 満州事変から大東亜戦争へ】[復刊：皇学館大学出版部、1995年][1,3~5を『選集 2』収録]

*『維新問答』神社新報社、1965年3月〈神社本庁所蔵 210.61〉[維新問答『新勢力』10-1、1965年1月5日を刊行か]

『大アジア主義と頭山満』〈日本人のための国史叢書 4〉日本教文社、1965年4月25日【はじめに、明治維新と大アジア主義、玄洋社創立までの事情、玄洋社、屈辱条約に反対す、韓国独立党と玄洋社—頭山満と金王均の親交—、中国革命家孫文、日本に来たる、日露戦争への道(上)、日露戦争への道(下)、中国革命同盟会成る、辛亥革命の前後、第二革命で孫文日本へ亡命す、亡命者ボースを救援す、第三革命の時代、満洲問題のもつれ(上)—その歴史事情について—、満洲問題のもつれ(下)—その近代化と変貌—、頭山・孫文の神戸会談、追録—昭和時代、晩年の頭山満とその周辺】[改訂版：日本教文社、1972年7月30日][「満洲問題のもつれ」を黒竜倶楽部編『国土内田良平伝』(原書房、1967年10月20日)付録3に収録、「明治維新と大アジア主義」、「韓国独立党と玄洋社」、「日露戦争への道」を『葦津珍彦論文選集「日本近代と天皇思想」』収録、改訂版の「玄洋社創立までの事情」から「亡命者ボースを救援す」までを『選集 2』収録。初版の復刊：葦津珍彦の主張普及発行人会編「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 5>葦津事務所、2005年9月30日]

『明治維新と現代日本』〈神社本庁明治維新百年記念叢書 1〉神社本庁明治維新百年記念事業委員会(非売品)、1966年4月1日【1 明治維新と現代工業の繁栄、2 日本国の統一と独立を求めて—尊皇攘夷の意味するもの—、3 近代国家建設の諸条件—五ヶ条の御誓文、4 維新の発展、明治の文明開化、5 明治維新百年記念と現代日本】

『日本の君主制 天皇制研究』神社新報社、1966年4月29日(新勢力社、1966年4月29日)【はじめに 天皇制研究とはなにか、1 国民統合の象徴、2 共和革命の独裁者と帝王意識、3 明治維新と東洋王朝の亡滅、4 天皇・祭祀・憲法、天皇の祭祀と建国の精神、5 明治民権家の天皇制理論—福沢諭吉と中江兆民—、中江兆民の憲法解釈、6 国体問答、7 占領時代の天皇・国体論(天皇意思と一般意思、明治天皇の御神徳を敬仰し奉る、新日本国憲法の制定に際して、神器と大嘗祭の規定なき新しき皇室典範の成立、国体論の将来—新憲法未決の問題—、天皇陛下と東京裁判の判決、天皇陛下万歳、天智天皇を欽慕し奉る、明治天皇と神道精神、皇太子様の御近況と将来の御教育の方針、湊川神社の復興、皇大神宮の御遷宮と皇居の御造営に就いて、皇大神宮の御遷宮と皇居の御造営に就いて、天皇と道德の関係、菅原道真公の清節、神宮と天皇陛下)】[2を加筆補正し「帝王、大統領、独裁者」と改題、5を補筆して『天皇 日本人の精神史』収録。5,6を『選集 1』収録][増補改訂版『日本の君主制 天皇制の研究』〈「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 1〉(葦津事務所、2005年4月10日)]

*『無題の論集 青春の日忘れがたし他』〈私家版〉島田和繁、1967年1月〈神社本庁所蔵 174.1〉
【青春の日忘れがたし、視察報告記・上海戦線より帰って、有馬良橋大将、頭山満先生、父、葦津耕次郎、畏友伊藤芳男君、など】[書名がないため、「著作目録」(『葦津珍彦先生追悼録』)では『無題私家版論文集』とし、「著作目録」(『葦津珍彦選集(第三巻)』)では収録文の表題をとって『青春の日忘れがたし』とする。同書から「有馬良橋大将」「頭山満先生」「父、葦津耕次郎」を収録している『葦津珍彦選集(第三巻)』では『無名の書』といい、「はじめに」(『昭和史を生きて』)では『無題の書』と呼ぶ。『神社本庁図書室蔵書目録[増補改訂版]』では『論集』と記載している。以上は推定である]

*『靖国神社国家護持のために』神社新報社政教研究室編、1967年2月[『神道的日本民族論』収録][神社新報社、1971年〈神社本庁所蔵 174.1〉]

『ロシヤ革命史話』新勢力社、1967年9月【1日本人のロシヤ革命予想、2二月革命－政治誤算の積み重ね、3王朝の滅亡とテロの精神史、4十月革命への道、5十月革命とその後】[『選集3』収録]

*『神社と宗教について GHQ と神社新報社員の討議経過』神社新報社政教研究室、[1968年]〈神社本庁所蔵 174.1〉

『神道的日本民族論』神社新報社、1969年1月3日【1神道的日本民族論(日本民族の世界政策私見、日本神道とナチス精神、神道とナチスは断じて異なる、明治、靖国社頭のちかひ、民族精神復興のきざし、「光栄」誌の諸論文(1天皇陛下、2流行的民族論への批判、3祖国を守るもの、4夢でないもの、5日本のバックボーン)、紀元節論争背後の思想、韓国紀行、楠公論私説、尊皇攘夷を語る、2皇室と神道(御願ひ、天皇・民族・神道、東宮殿下御成婚の波紋、三笠宮殿下への御忠言)、3神道と宗教と政治(政教分離の思想、日本の国政と神道)、4国法について(神道指令と帝国憲法の改正、国法と宗教、宗教法人法改正の前提、皇室典範と皇位継承法)、5伊勢神宮と靖国神社(神宮と国家、伊勢神宮の制度改正について、神宮と皇位、靖国神社国家護持のために、靖国神社国家護持案の討論の前提、靖国神社国家護持・私説、靖国神社国家護持 再説)、6英語論文(The Shinto and Nationalism in Japan, A Symbol of National Unity)] [「日本民族の世界政策私見」、「日本神道とナチス精神」、「神道とナチスは断じて異なる」を『昭和史を生きて』〈昭和を読もう〉葦津珍彦の主張シリーズ 6〉(葦津事務所、2007年)収録]

『武士道－戦闘者の精神』徳間書店、1969年5月15日【はしがき、戦国乱世の武士道－後藤又兵衛、真田幸村、木村重成、安政大獄から赤間ヶ関蹶起へ－高杉晋作とその師吉田松陰、薩長連合の政治史－桂小五郎、西郷隆盛および坂本龍馬、明治思想史における右翼と左翼の源流－中江兆民、頭山満、幸徳秋水、内田良平、日露戦役の国際的武士道－広瀬武夫、横川省三、沖偵介、東亜保全政策の理想－近衛霞山、康有為、梁啓超、昭和維新の思想的諸潮流－橋本欣五郎、井上日召、北一輝、忘れ得ぬ人－前田虎雄大人を想ふ】[『選集2』収録、新版：神社新報社、2002年]

*『今泉定助先生を語る その思想と人間』日本大学今泉研究所、1969年9月〈神社本庁所蔵 171.4〉

*『今泉定助先生を語る 続編 その思想と人間』日本大学今泉研究所、1969年9月〈神社本庁所蔵 171.4〉

『維新への展望 義勇奉公精神の恢弘』新日本協議会東京都支部連合会、1969年9月1日【亡国的乱世から維新への道、左翼は分裂し革命の力はない、保守党の精神空白の由来、乱世を克服した日本の歴史、維新の道を展望する保守党と維新者の間】

*『維新への展望 乱世の危機を克服して維新へ』〈神社本庁時局対策資料 第1集〉神社本庁時局対策本部、1969年9月〈神社本庁所蔵 174.1〉

*『公明党糾弾論とその批判』〈神社本庁時局対策資料 第3集〉神社本庁時局対策本部、1970年5月〈神社本庁所蔵 174.1〉

『忠誠とはなにか』[3月講演於研修会]〈国民精神昂揚運動資料集 第4集〉神社本庁、[まえがき 1971年5月20日]【忠にあこがれる精神伝統、忠誠を不合理とする思想、多様多彩な忠誠の道、楠氏一門忠烈の精神】[初出は「陛下への忠誠とはなにか」『世界と日本』11・3、1971年4月1日、「忠誠とはなにか」と改題『近代民主主義の終末』収録]

*『日本国交問題の考へ方』〈神社本庁時局対策資料第5集〉神社本庁時局対策本部、1971年6月〈神社本庁所蔵 174.1〉

*『祭祀と統治の間』神道政治連盟、1971年6月〈神社本庁所蔵 174.1〉[『祖国と青年』67、1984年3月1日に転載、加筆して「神聖をもとめる心－祭祀と統治との間－」と改題『近代民主主義の終末』『選集1』収録、「神聖をもとめる心－祭祀の統治への影響－」と改題『天皇 昭和から平成へ』収録]

*『忠誠の心理と論理』神道政治連盟、1972年1月〈神社本庁所蔵 155〉

『近代民主主義の終末 日本思想の復活』日本教文社、1972年2月15日【はしがき、1近代民主主義の終末(一票の無力さの実感、近代民主主義破綻の論理)、2日本思想の心理と論理(憲法思想と政治の力学、忠誠とはなにか、神聖をもとめる心―祭祀と統治との間)、3近代日本国の思想史(明治維新と日本ナショナリズム、満洲事変から大東亜戦争へ)】[3を『葦津彦論文選集「日本近代と天皇思想」』収録、1を『選集3』収録][再刊: <「昭和を読もう」葦津彦の主張シリーズ 3> 葦津事務所、2005年5月30日]

『天皇 日本人の精神史』神社新報社、1973年4月29日【序、第1部(対話―皇室の精神史、日本天皇と外国の元首、対話―天皇と戦争責任、革命と反革命)、第2部(帝王、大統領、独裁者―その底流をなす社会心理―、明治民権家の天皇制理論、中江兆民の帝国憲法解釈)】[「対話―皇室の精神史」を「皇室の精神史―対話―」と改題、「日本天皇と外国の元首」とともに『みやびと覇権』収録、「対話―皇室の精神史」を『対話』皇室文明史」と改題、若干の加筆・削除を加えて『天皇 昭和から平成へ』収録]

* 『異郷の同胞を祖国へ 中国地区未帰還邦人の調査団派遣を』神道政治連盟、1973年5月<神社本庁所蔵 369.37>

『革命と反革命・ロシア革命史話(抄)・平和革命路線の破綻』神道政治連盟、1973年<神社本庁所蔵 316.5>

『皇室の高貴なる精神の伝統』<皇学館大学講演叢書第28輯>皇学館大学出版部、1974年6月15日

* 『独裁とクーデター』鹿島武夫編、1974年8月<神社本庁所蔵 310>

* 『新勢力創立二十周年記念 葦津先生御講演』大昭会、1975年5月<神社本庁所蔵 155>

『永遠の維新者』二月社、1975年9月13日【前記、1維新の理想 未完の変革(永遠の維新者 西郷隆盛と西南役(1 征韓論争、2 反専制政府諸勢力の合流、3 西郷、決然と立つ、4 西南役所感)、明治新政権にたいする抵抗の思想と潮流)、2 孤戦と連合 内戦の政治力学(禁門の変前後、薩長連合の政治史)、3 明治の精神 明治国家の形成とナショナリズム(1 維新史における天皇意識、2 天皇制と明治ナショナリズム)】[1-1、3-1 を『葦津彦論文選集「日本近代と天皇思想」』収録、1-1、1-3 を『選集2』収録][再刊: 葦書房、1981年、<「昭和を読もう」葦津彦の主張シリーズ 2> 葦津事務所、2005年]

『現代社会思潮と日本文明―特にネオ・ファシズムの危機―』<神社本庁時局対策資料 第14集> 神社本庁時局対策本部、1976年5月20日【1 民主主義時代のピークは終わった、2 新独立国は、すべて民主国でない、3 自由民主国の成立しない理由、4 ソ連中国型独裁の強み弱み、5 西欧民主主義の保守的ねばり強さ、6 社会民主主義と現体制の枠組、7 ファシズムと体制枠外の人民、8 ファシズムは伝統文明の敵、9 真の自由―日本の文明史、10 復古の思想と国際新知識】

* 『山田顕義と日本法学』<日本精神講座十年祭記念講話> 日本大学今泉研究所、1978年

『大日本帝国憲法制定史』明治神宮編、サンケイ新聞社、1980年3月15日[大日本帝国憲法制定史調査会の委嘱により原案執筆]

『みやびと覇権 類纂天皇論』日本教文社、1980年2月11日【はしがき、第I部(1 天皇陛下、2 天皇意思と一般意思、3 国民統合の象徴、4 みやびと覇権)、第II部(1 日本の天皇と外国の元首、2 日本型放伐思想史の展開、3 皇室の精神史―対話―)、第III部(1 紀元節論争背後の思想、2 東宮殿下の御成婚の波紋、3 神宮と皇位、4 祖宗の神器、不文の大法、5 最高裁憲法判決の法理、6 一世一元制の意義―精神文化の視点に立つて、7 元号と天皇―上山春平氏に答へる―、8 帝国憲法の史的意義―真の立法史と外人の助言真相、9 日本国の光栄と独立―ヤルタ、ポツダムからの解放)】[I-1~4、II-1 を『葦津彦論文選集「日本近代と天皇思想」』、I-3、II-3、III-8 を『選集1』収録]

『時の流れ―戦後三十有余年の時評集―』神社新報社、1981年5月27日

- * 『葦津家小伝』 私家版、1982年7月
 - * 『葦津家小伝付録わかさくら』 私家版、1982年
 - * 『「現皇室法の研究」試論』 神社新報社法律・会計調査会研究会編、神社新報社、1983年3月<神社本庁所蔵 323.158>
 - * 『水泡に消ゆ』 私家版、1983年7月[『老兵始末記』と改題『昭和史を生きて』収録]
 - * 『神祇制度思想史につき管見一本庁講師教学委員辞任に際して』 1983年9月[阪本是丸『近代の神社神道』(弘文堂、2005年)、参照]
 - * 『佐助谷文箱』 私家版、1984年
 - * 『国体の復活－世界を瑞穂の国に－』 世界日報社、1985年7月17日<神社本庁所蔵 155> 【国史とただの歴史のちがひ、神武天皇の古伝承、天照大御神の神話、神々に恵まれた「国体」、国体の重さ、畏るべきはエゴイズム、国体の語が死語化した事情、「孝は百行の基」、切支丹禁制、真のインターナショナルをめざす国体精神】[「世界を瑞穂の国へ」と題して『天皇 昭和から平成へ』抄録]
 - * 『宗教法入法とその税制－将来の展望と基礎的思考』 神社新報法律研究会、1985年11月<神社本庁所蔵 165.9> [『選集 1』収録]
- 『神国の民の心』 現代古神道研究会、島津書房、1986年5月1日 【著者序文、1 古神道と近世国学神道、2 祈る心と怨む心と、3 仁者無敵、4 神国意識を高めよ、5 御在位六十年に際し切望す、6 日本国体についての一私見、7 私も神道人の中の一人である、8 神武天皇－神道的伝承、9 皇祖天照大御神－神道神話、後書きに代へて】 [1、7、9を『選集 1』収録、9を「皇祖天照大御神－神道論私説」と改題『天皇 昭和から平成へ』収録、「著者序文」「後書きに代へて」を除き『昭和史を生きて』収録]
- 『国家神道とは何だったのか』 神社新報社、1987年4月29日 【序－「国家神道とは何だったのか」の発行にいたる事情、第1部(1 新しい史論の試み、2 神道の雄飛から難関への十年、3 仏教、特に真宗と明治政権、4 真宗、島地黙雷の進言工作)、第2部(5 勝安房、福沢諭吉の新知識、6 明治十年前後の神道後退、7 神道諸流派の動揺、8 神道人の祭神論争、9 山田彰義の神社非宗教制)、第3部(10 帝国憲法制定当時の事情、11 井上毅の政教分離主義、12 神祇官興復運動と神社局、13 消極主義の神社局)、第4部(14 神社局の思想とその批判者、15 大正昭和の右翼在野神道、16 戦中非常時の国家神道、17 国家神道に対する評論、18 本史論試みの目的)] 【解題 I「神道人」葦津珍彦と近現代の神社神道(藤田大誠)、II『国家神道とは何だったのか』と国家神道研究史(斉藤智朗)、国家神道関係主要参考文献目録を付して『新版 国家神道とは何だったのか』(神社新報社、2006年)刊]
- 『天皇 昭和から平成へ』 <神社新報ブックス 6> 神社新報社 1989年2月24日 【緒言、1 現代世界の国家構造解説、2 天皇の祭りと統治の関係、3 神聖をもとめる心－祭祀の統治への影響、4『対話』皇室文明史、5 祭りと祭り主、6 皇祖天照大御神－神道論私説、7 世界を瑞穂の国へ、8 戦争責任論の迷妄、9 昭和から平成へ(天皇陛下崩御－奉悼のことば、祖宗の神器御承継－万世一系の荘厳なる古儀、平成の元号定まる－日本文化の伝統を守り、平成の新帝への忠誠)】
- * 『葦津珍彦論文選集「日本近代と天皇思想」』 日本青年協議会、1990年7月 【第1部 日本近代とナショナリズム(明治維新と大アジア主義、征韓論争、韓国独立党と玄洋社、日露戦争への道、満州事変から大東亜戦争)、第2部 占領・戦後の時代と思想(占領下の日本、講和後の日本、独立回復への時代)、第3部 日本近代と天皇思想(明治維新期の天皇意識、明治維新と日本ナショナリズム、日本の天皇と外国の元首、天皇陛下、天皇意志と一般意志、国民統治の象徴、みやびと覇権)】
- 『一神道人の生涯－高山昇先生を回想して』 1992年7月17日 【はじめに、九州へ赴任して志固まる、皇典講究所時代、暗雲晴れて巖島宮司へ、伏見稲荷神社に転任され、上州長脇差し、晩年の先生、追記】

『天皇・神道・憲法』葦津珍彦選集編集委員会編<葦津珍彦選集第1巻>、神社新報社、1996年6月10日【第1部天皇(国民統合の象徴、明治民権家の天皇制理論—福沢諭吉と中江兆民—、皇室の精神史—対話—、神聖をもとめる心—祭祀と統治の間—、国体問答(抄)、みやびと覇権、かくれたる民の心を—戦後における天皇論—、国王の光栄と威厳、万世一系と革命説—日本思想史における放伐論の展開、御在位六十年に際し切望す、非史の帝)、第2部神道・政教 第1章 神道論(私も神道人の中の一人である 古神道と近世国学神道、皇祖天照大御神—神道神話、神道教学についての書簡)、第2章 国家神道論・政教関係論(帝国憲法時代の神社と宗教、現代神社の諸問題、皇位と神官、宗教法人法改正の前提、宗教法人とその税制—将来の展望と基礎的思考)、第3部皇室法・憲法 第1章 明治の皇室典範・帝国憲法論(明治憲法の制定史話(抄)、明治、帝国憲法の史的意義—真の立法史と外人の助言真相、大元帥の統帥と軍政の間—皇軍終末秘話—)、第2章 日本国憲法の批判と改憲論(新日本国憲法の制定に際して、天皇・神道・憲法、国民主権論とその批判、憲法の思想と政治の力学)、第3章 現行皇室法の批判的研究(神器と大嘗祭の規定なき新しき皇室典範の成立、現行皇室法の批判的研究)、第4章 特筆すべき功績(靖国神社と平和の理想、祖宗神器、不文の大法—剣璽御動座の古儀復古す、憲法二十条解釈確定す—(最高憲法判決の法理))】[本書から、「神道教学についての書簡」を『神道教学研究編』<現代神道研究集成 8>(神社新報社、1999年)、「国民統合の象徴」を『神道と国家』<現代神道研究集成 9>(神社新報社、1998年)収録]

『維新の継承者として』葦津珍彦選集編集委員会編<葦津珍彦選集第2巻>、神社新報社、1996年9月1日【第1部史論(明治維新と国体意識—維新史における天皇意識—、禁門の変前後、永遠の維新者、明治思想史における右翼と左翼の源流、政党権力興亡史、満州事変から大東亜戦争へ)、第2部大アジア主義(李承晩大統領の反日教育—諸外国の独善的教育思想、中華革命と日本浪人—その思想と人を語る、『大東合邦論』と日露合邦、日本の浪人と中国革命、大アジア主義と頭山満、韓国紀行、天皇制と明治ナショナリズム—近代国家成立期における—考察—、悲痛なる先人の書簡資料、韓国の人心と日本の知識人、筑前玄洋社史評論、征韓論争、続読史余談—頭山満論—、伊藤芳男君の横顔—汪精衛が深く信頼した日本人—、日韓民族の不幸な歴史—虚像の前に卑屈な中曾根首相—)、第3部戦闘者の精神(武士道—戦闘者の精神、日本と共に戦った人々—鎌倉山人聞き書き)】

『時局・人物論』葦津珍彦選集編集委員会編<葦津珍彦選集第3巻>、神社新報社、1996年11月3日【第1部葦津の時局論(近代政治と良心問題、土民のことば—信頼と忠誠との情理—、近代民主主義の終末、終戦始末記、ロシヤ革命史話)、第2部葦津の人物論(吉田茂大人の追想、緒方竹虎大人の追想、剛直な法学者 井上孚廬先生、神社の法学者大石義男先生、神道政治連盟と上杉初代会長回想、小野祖教大兄の追想、竹内好さんの風格、市井三郎さん追悼文、有馬良橘大将、頭山満先生、父、葦津耕次郎、今泉定助先生を語る—その思想と人間—、神道学史上の今泉定助先生)】

『日本の君主制 天皇制の研究』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 1>(葦津事務所、2005年4月10日【『日本の君主制』(神社新報社、1966年)に、「はじめに 天皇制研究とはなにか」を付し、「付録」として『天皇・神道・憲法』(神社新報社政教研究室、1954年)から皇位継承に関する部分を収録】

『永遠の維新者』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 2>葦津事務所、2005年4月29日【『永遠の維新者』(二月社、1975年、葦書房、1981年)の復刊]

『近代民主主義の終末 日本思想の復活』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 3>葦津事務所、2005年5月30日【『近代民主主義の終末 日本思想の復活』(日本教文社、1972年)の再刊]

『土民のことば—信頼と忠誠との情理—』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 4>葦津事務所、2005年7月30日【『土民のことば—信頼と忠誠との情理—』(神社新報社、1961年)の再刊]

『大アジア主義と頭山満』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ 5>葦津事務所、2005年9月30日【『大アジア主義と頭山満』(日本教文社、1965年)の再刊]

『昭和史を生きて 神国の民の心』<「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズ>葦津事務所、2007年1月11日[『老兵始末記』、『神道的日本民族論』(抄)、『神国の民の心』(島津書房、1986年)を収録]

刊行年未詳・原稿コピー版

- * 『日本人の忠誠心について』 日本大学今泉研究所
- * 『教育出版社教科書「公民」についてのノート』
- * 『皇室祭祀関係大綱方針に関する聞き書き』
- * 『ヤルタ・ポツダム体制打倒の論』 [原稿コピー版]
- * 『星野輝興糾弾始末記』 [原稿コピー版]
- * 『日本戦略私論聞き書き』 [原稿コピー版]

2. 共著

序文『躍進台湾の現勢』山本昌彦著、改造日本社、1935年5月15日

東洋復興の敵は大英帝国なることを銘記せよー伊エ紛争に関連してー『日本民族の理想精神』<太平洋パンフレット 第3輯>「太平洋」同人、1935年9月25日<「太平洋」同人>

サクダリストスを紹介する『日本民族の理想精神』<太平洋パンフレット 第3輯>「太平洋」同人、1935年9月25日<「南船北馬」>

*亡父葦津耕次郎の追想『故葦津耕次郎遺稿ー国難に直面して、我政府当局の反省を望む』日の丸組、1940年7月<神社本庁所蔵 304>[前文をそえ「父、葦津耕次郎」と題して『無題の論集 青春の日忘れがたし他』]に収録、同書から『選集 3』収録]

亡父一周年祭に際して『葦津耕次郎翁追慕録』あしや会、1941年6月15日

*神道人の信条『同憂通信』神道青年全国協議会、1952年<神社本庁所蔵>

*万世の太平『続 同憂通信』神道青年全国協議会、1953年3月<神社本庁所蔵>

*The Shinto and Nationalism in Japan 『The Shinto Bulletin』Shinto Bunka-Kai、1953年3月<神社本庁所蔵>[『神道的日本民族論』収録]

政教分離の思想『宗教と国家』<神道教養選書 3>中央書籍、1954年3月10日【1 政教分離の思想、2 政教分離思想の起源とその発展について、3 列国の政教分離憲法、その制定の事情について、4 日本国憲法と宗教儀式、外国の実情との比較、5 日本国憲法と教育問題、外国の実情との比較、6 政教分離思想に対する現代の反省と将来の展望】[『神道的日本民族論』『政教分離に関する資料集』(政教関係を正す会、1983年)収録]

社会主義論『現代の思潮(下)』<神道教養選書 5>中央書籍、1954年7月30日【はしがき、1 初期の社会主義思想、2 無政府主義の思想、3 マルクス・エンゲルスの思想、4 カウツキー対レーニン、スターリン、5 将来の問題】

皇位と神宮『神宮と国家』<神社制度調査資料 4>神社新報社政教研究室編、神社本庁調査部、1957年11月30日[初出は『日本憲法確立同盟研究彙報』2-10、1957年。「多少の改訂」を加えて、神社新報社政教研究室編『神宮と憲法』(神社新報社、1963年7月25日)収録。『神宮と国家』から、小野祖教『神道をめぐる憲法問題 冠婚葬祭は政教分離の外』(国学院大学小野教授研究室、1968年8月10日)、『遷宮論集 第六十一回神宮式年遷宮記念』(神社本庁、1995年)、『選集 1』収録。『神宮と国家』を『神道的日本民族論』収録]

紀元節論争背後の思想『神武天皇紀元論 紀元節の正しい見方』日本文化研究会編、立花書房、1958年3月31日[『神道的日本民族論』『みやびと覇権』収録]

神道指令と帝国憲法の改正『千家尊宣先生還暦記念神道論文集』神道学会、1958年9月19日[『神道的日本民族論』収録]

*天皇の神聖不可侵と日本の神話『天皇制は是か非か』谷口雅春編、日本教文社、1963年4月<神社本庁所蔵 313.61>

『宮川宗徳ーその伝記と遺稿』宮川宗徳大人伝記刊行会、1964年1月12日[「例言」によると「神社本庁時代から奉賛会理事長時代にいたる間の神道人の足跡」に関する草稿を渋川謙一と執筆]

帝国憲法時代の神社と宗教『明治維新 神道百年史 第二巻』神道文化会、1966年9月30日[『選集 1』収録]

*神宮式年遷宮の準備について『神宮式年遷宮の準備について』神社本庁、1967年4月<神社本庁所蔵>

韓国の学生と語るー対日不信感の根源ー『アジアに架ける橋』白井為雄編<日本青年講座叢書 1>、

- 日本政治資料調査会、1967年12月1日
- 故高山昇大人[「特別寄稿」]『花相似たるも 愛惜の人びと』幡掛正浩著、兄弟文庫、1967年8月17日
- 明治維新と現代日本『明治維新』神社新報社、1968年3月14日
- 楠公論私説『大楠公』湊川神社社務所、1968年4月1日[『神道の日本民族論』収録]
- 印象に残る人々[付録 回想・長く峻しかった道]『紀元節奉祝会小史』紀元節奉祝会、1968年4月20日
- 明治人の神道人を回想する『明治維新 神道百年史 第五巻』神道文化会、1968年4月30日[座談会：阪本健一、岡田米夫、西田広義]
- *神社の国家性と宗教性『国民精神昂揚運動資料集 第一集』<神職教養シリーズ 9>神社本庁、1968年6月<神社本庁所蔵 170.8>
- *神道人と現下の国情『国民精神昂揚運動資料集 第二集』<神職教養シリーズ 10>神社本庁、1969年3月<神社本庁所蔵 170.8>[神道人と現下の国情[「教養講座」]『神社新報』1090、1091、1969年4月5、12日【(上)現代の思想的危機の源流、(下)「明治の精神」恢弘こそ】<無署名>と同文か]
- 明治史の研究に期待一脈々と生きつづける日本人共通の心の立場『明治の文明開化・事始め 華ひらく 日本文化の伝統』金園社、1969年7月1日
- 今泉定助先生を語る－その思想と人間－[伝記篇]『今泉定助先生研究全集 第一巻』日本大学今泉研究所編・刊、1969年9月11日[『選集 3』収録]
- 今泉定助先生の世界皇化論[研究篇]『今泉定助先生研究全集 第一巻』日本大学今泉研究所編・刊、1969年9月11日
- 神道政策と神社復興『吉田茂』吉田茂伝記刊行編輯委員会、1969年12月9日[座談会：秋岡保治、伊達巽、角南隆、勝間田清一、富岡盛彦]
- 神宮と国法『神宮・明治百年史 下巻』神宮司庁、1970年3月31日
- 現代日本の思想的危機『国民精神昂揚運動資料集 第三集』<神職教養シリーズ 11>神社本庁、1970年6月15日
- 刊行のことば／あとがき『葦津耕次郎追想録』私家版[編・刊]、1970年6月30日
- 公害問題と神道人の態度『公害問題と神道人の態度』<神社本庁時局対策資料第4集>神社新報政教研究室、1970年11月30日[はしがきの日付][座談会：西田広義、渋川謙一、稲葉稔、川井清敏]
- 神道と政治[講演(於1970年9月神政連中央本部主催「宗教と政治」に関する研修会)]『宗教と政治』神道政治連盟、[上杉一枝「はしがき」1971年1月20日]
- 山東立志工業学校長村岡夫妻の自決－中国人生徒五百人の号泣－『殉国の教育者 三島精神の先駆』浅野晃編、日本教文社、1971年3月5日<執筆者名は記されていない>
- 日本のこころ『若人のために』<国民精神研修叢書第1集>国民精神研修財団、1971年3月1日
- *序文『偏歴断層』吉川永三郎著、私家版、1971年3月
- 万世一系と革命説－日本思想史における放伐論の展開－『天皇 日本のいのち』日本教文社、1971年4月15日[『選集 1』収録]
- 松陰の対幕府思想[「吉田松陰の世界」]『吉田松陰全集 月報 5』<『吉田松陰全集』第1巻(第5回配本)月報>大和書房、1972年12月20日[新装復刻版：大和書房、2012年]
- 『明治天皇詔勅謹解』明治神宮編、講談社、1973年1月20日

『Woodard「神道指令史」批判報告』神社新報政教研究室、1973年6月[共同研究者：西田広義、
 渋川謙一]

近代民主主義の終末『日本を見つめる』＜美しき日本の再建のために1＞日本教文社、1973年8月
 5日

日本の維新と外国の革命－神宮御遷宮の秋に思ふ『神国の理想 第六十回神宮式年遷宮記念論文集』
 神社本庁編・刊、1973年12月1日[「日本型放伐思想史の展開」と改題『みやびと覇権』収録]

待望の書『統帥権について デモクラシーと国防軍』三瀧信吾著＜国民新聞シリーズ第7集＞国民
 新聞社、1973年12月20日

台湾の歩んだイバラの道『台湾をふりかえれ』おりじん書房、1974年8月1日

靖国神社国家護持と現在の憲政実例[『英霊の怒り』塙三郎編、浪漫、1974年8月30日【1真珠湾
 にある白亜の記念館、2憲法の法理と運用について勉強しているのか、3靖国神社の主たる施設
 の国有化】[『靖国問題をどうすべきか』（善本社、1977年8月15日）再録]

古くからの愛読者『林房雄評論集 4月報4』浪漫、1974年8月

小野博士との思ひ出『神道教学論攷 小野祖教博士古稀記念号』＜『神道宗教』75～79合併号特集＞
 神道宗教学会、1975年3月31日

あとがき『英国と日本』田尾憲男著、交通研究所、1975年5月20日

韓国の異変は必ず怒涛となって日本に波及する－「日本を守るために」避けねばならぬ道は何か－
 [日本を守る会発行『日本を守る研究情報』より転載]『日韓問題を探る』＜神社本庁時局対策資
 料 第12集＞神社本庁時局対策本部、1975年7月20日

陛下と大東亜戦争『昭和史の天皇・日本』日本を守る会編、日本教文社、1975年11月10日

日本におけるマルクス主義者の思想と行動『日本におけるマルクス主義批判論集』＜国文研叢書
 17＞国民文化研究会、1976年3月10日[対談：戸田義雄]

雄弁家の黙示的熱意『上杉一枝 神社本庁長老』上杉一枝翁をしのぶ会、1976年3月25日

かくれたる民の心を－古代文化と伝統の中に生きる天皇と日本人－『現代維新の原点 天皇御在位満
 五十年記念出版』現代古神道研究会編、新人物往来社、1976年7月2日【1民の声を求める御心、
 2日本文化の起源と発展、3明治維新と西欧文化の流入、4戦後における天皇論、追録ノート「天
 皇と政治」について】[4を「かくれたる民の心を－戦後における天皇論－」と題して『選集1』収録]

近代民主主義の終末『戦後民主主義を考える』京都産業大学志学会執行委員会、1976年9月25日

神道・占領政策への対応と抵抗 私の証言[ききて：久米茂・佃実夫(1977年1月14日於鎌倉・葦津
 氏邸)]『共同研究 日本占領軍 その光と影 下巻』思想の科学研究会編、現代史出版会、徳間書店
 (発売)、1978年9月10日

国民主権論とその批判『改憲の大義』大石義雄編、嵯峨野書院、1979年8月15日[『選集1』収録]

*神政連と上杉会長『神政連十年史』神道政治連盟、1979年11月8日＜神社本庁所蔵 170.6＞

川面凡児大人の命追慕[「五十年祭記念論文」]『川面凡児先生五十年祭記念会報』稜威会、1979年11
 月23日

*偉大な功業『生長の家に寄せる各界著名人の声 光のこだま』生長の家本部編・刊、1979年

たらちねの親のみまへにありとみし夢のをしくも覚めにけるかな『わが仰ぎまつる明治天皇御製』
 明治神宮・明治神宮崇敬会編、明治神宮(非売品)、1980年3月25日[[わが仰ぎまつる明治天皇
 御製]『明治神宮－明治天皇八十年祭・ご生誕百四十年祭記念－』＜別冊歴史研究 神社シリーズ＞
 (新人物往来社、1992年5月10日)収録]

葦津珍彦氏「談話ノート」『頭山満翁正伝』葦書房、1981年10月10日

- *神道指令と皇室祭祀『神社本庁教学研究室研究資料』神社本庁教学研究室、1985年6月<神社本庁所蔵 176.1>
- *忠誠の心理と論理『大楠公六百五十年祭記録』楠神社、1985年8月<神社本庁所蔵 175.77>
- 誤認の歴史を改めさす為『西郷隆盛は征韓論者にあらず』<季刊『玄洋』特別号外版>玄洋社記念館、1986年4月1日
- 日本人の企業意識と信仰『企業の神社』<神社新報ブックス 5>神社新報社、1986年5月1日[座談会：鈴木満男、宮永国子、宇野正人]
- 神社新報の誇りと反省『神社新報選集 補遺』神社新報社、1986年6月1日<<無署名>>
- 新報記事の作成者たち[談、文責在記者]『神社新報選集 補遺』神社新報社、1986年6月1日
- 皇祖皇宗への御祈り深く『昭和の民のこころ—天皇陛下に捧げる各界奉祝の声—』天皇陛下御在位六十年奉祝委員会編・刊、1987年4月29日
- 序文『国民精神統一読本 神道の手引書』戸松慶議著、総合文化協会、1987年10月1日
- 政教の分立と宗教の自由—日本と欧米の精神史の異同—『神道と現代 上巻』神道文化会創立四十周年記念出版委員会編、神道文化会、1987年11月3日[『神道と国家』<現代神道研究集成 9>(神社新報社、1998年)収録]
- マスコミの公平と言論自由『日本の安全と進路』池見猛・民族科学研究所編、池見学園、1987年11月20日
- 皇室典範研究『現行皇室法の批判的研究 共同研究』神社新報社、1987年12月15日[「現行皇室法の批判的研究」と題して共同研究の「前篇」全10章のうちから下記6章、「皇室法の沿革」、「現行の皇位継承法」、「皇室経済法」(一)(二)、「皇室内廷の法的意義」、「皇室の祭儀」を『選集 1』収録]
- 国体と天皇の御祭り『靖国神社 創立百二十年記念特集』<別冊『歴史研究』神社シリーズ>新人物往来社、1989年10月17日
- 昭和の平田篤胤『影山正治全集 第六巻 月報第六号』影山正治全集刊行委員会、1990年3月25日 [『不二』49-5、1994年5月25日に転載]
- 神道政治連盟と上杉初代会長回想『神政連のあゆみ(神道政治連盟) 戦後の精神運動の柱として』神道政治連盟、1990年6月13日[『選集 3』収録]
- 朴鉄柱君悲痛の生涯—その心理の根底にあるもの—『朴鉄柱大人を偲ぶ—或る「親日」韓国人の生涯—』マルゲン、1991年1月25日
- 山県大式建碑のことなど『市民の論理学者 市井三郎』思想の科学社、1991年10月30日[「市井三郎さん追悼文 山県大式建碑のことなど」と改題『選集 3』収録]
- 子らへ／関東大震災に際して、父から賞められた話／社会主義時代—父と子の悲劇—／父と私の人生観／「葦牙」の神道思想[未公開原稿 5篇]『葦津珍彦先生追悼録』小日本社、1993年12月25日
- 天皇の神聖と日本国の統治[昭和47年6月18日講義(於東伏見稲荷神社参集殿)]『源泉への回帰 今泉定助先生五十年祭記念誌』新生創版、1994年9月11日

未詳

- *『中国台湾情勢概況報告書』
- *報告書前文『米国西部宗教法人調査—主として税制の現状』神社新報社法律研究会
- *『葦津耕次郎文書—宮中重大事件に就いて』

3. 評論等(新聞・雑誌掲載)<1977 篇>

1932(昭和 7)年

〔同志通信〕『改造戦線』14、5月20日

1935(昭和 10)年

*比律賓独立戦争と我徒の態度—独立派志士を米国官憲に渡すな『太平洋』5月<「太平洋」同人>〔『比律賓に於ける独立運動の概要』『論集』〔『無題の論集 青春の日忘れがたし他』〕収録〕

*比律賓に於ける独立運動の概要『青年運動』〔復刊 2-7〕、7月

1940(昭和 15)年

一日本人の言葉—日本人的責任に就いて『鉄心』6-8、10月15日〔「楠公を想ふ」と改題『論集』収録〕〔同誌の「編輯後記」では「篤実にして、且つ熱烈なる新時代の国学研究家、葦津珍彦氏の『一日本人の言葉』を、本号よりしばらく連載の予定である」とあるが、6巻9号以下の刊行は確認できない。同誌の発行所は〔満州国〕治安部参謀司〕

1941(昭和 16)年

日本民族の世界観『皇国時報』784、785、7月1、11日<白旗四郎〔第2回連載では、白旗士郎〕>
永遠の神話—立論の方法的序想—『皇国時報』789、8月21日<白旗四郎>〔『論集』収録〕

1942(昭和 17)年

古典・民族・人類『維新公論』6-9、10月25日<白旗士郎>

思想を混乱せしむる者『維新公論』6-10、11月25日<白旗士郎>

明治大正時代諸戦役の意義『維新公論』6-11、12月15日<白旗士郎>

1943(昭和 18)年

*宗教思想の批判と公葬問題の解決『報国新報』1022、2月7日

帝国議会の任務『維新公論』7-2、2月8日<白旗士郎>

天皇親政と独裁政治『維新公論』7-3、3月8日<白旗士郎>

*大日本仏教連合会に対する反批判『報国新報』1028、3月28日<白旗士郎>〔米持格夫編『聖戦下の忠霊公葬問題』<皇国同志会叢書 第5輯>(皇国同志会、1944年5月25日)収録〕

承詔必謹と神代史観『公論』6-5、5月1日<白旗士郎>

東亜連盟思想の検討—新生国家独立の意義に就いて—『公論』6-9、9月1日<白旗士郎>

忠霊公葬問題『公論』6-10、10月1日<白旗士郎>〔座談会：平田盛胤、松永材、幡掛正治、武藤

包州、志村陸城、安曇磯興]

*安藤紀三郎閣下に対する進言書、掲載紙誌未詳[神杉靖嗣「星野輝興・弘一の神道学説をめぐって」(國學院大學研究開発推進センター編『昭和前期の神道と社会』弘文堂、2016年)pp.196-197に引用]

1945(昭和 20)年

国民義勇隊の構想『朝日新聞』3月22日[「四元義隆」名で発表、岡本準水「葦津先生の思ひ出」(『葦津珍彦先生追悼録』小日本社、1993年)p.120、参照]

時事有感『公論』8-5、5月1日「白旗士郎」

1946(昭和 21)年

靖国神社と平和の理想[「社説」]『神社新報』9、9月2日「無署名」[『選集昭26年版』『時の流れ』『選集1』『50年史(下)』『靖国問題入門 ヤスクニの脱神話化へ』<KAWADE道の手帖>(河出書房新社、2006年)、『検証神社本庁六十年 先人の足跡—『神社新報』の紙面から—』(神社新報社、2008年)収録]

秋祭り[「随想」]『神社新報』13、9月30日

新日本国憲法の制定に際して[「社説」]『神社新報』15、10月14日「無署名」[『選集昭26年版』『日本の君主制』『時の流れ』『50年史(下)』『選集1』収録]

明治天皇の御神徳を敬仰し奉る[「社説」]『神社新報』16、10月21日「無署名」[『選集昭26年版』『日本の君主制』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

1947(昭和 22)年

神道の本質確保『神社新報』27、1月6日「矢島三郎」

暴風来の赤信号—正月の新聞から—『神社新報』28、1月13日「矢島生」

神器と大嘗祭の規定なき新しき皇室典範の成立[「時局展望」]『神社新報』29、1月20日「葦津生」[『日本の君主制』『時の流れ』『50年史(下)』『選集1』収録]

自信なき各派 連立政権工作の挫折[「時局展望」]『神社新報』30、1月27日「矢嶋生」

国体論の将来 新憲法未解決の問題[「時局展望」]『神社新報』33、2月17日「矢嶋生」[『選集昭26年版』『日本の君主制』『時の流れ』収録]

神道の平和性と民族的性格[「文化」]『神社新報』33、34、2月17、24日「矢嶋三郎」

二外電の教訓 英の石炭飢饉と中国のインフレ[「時局展望」]『神社新報』35、3月3日「矢嶋生」

平和の理想と剣の権威 桜井匡氏に答ふ[「文化」]『神社新報』37、3月17日「矢嶋三郎」

国際情勢の進展 米国外交政策の決意[「時局展望」]『神社新報』40、4月7日「矢嶋生」

政党政治の前途 選挙法改正が齎すもの[「時局展望」]『神社新報』41、4月14日「矢嶋生」

神社本庁に対する質問書『肇国』9-5、5月1日

神道と經典—長谷外余男氏に質す—『神社新報』43・44、5月5日[『神道教学研究編』<現代神道研究集成8>(神社新報社、1999年)収録]

依然三党が鼎立 歴史的総選挙後の政界[「時局展望」]『神社新報』45、5月12日<<矢嶋生>>[『選集昭26年版』収録]

お互の切磋琢磨[「祝肇国創刊壹百号」]『肇国』9-6、6月1日

現代宗教としての神道の研究『神社新報』50～52、54～56、6月16、23、30日、7月14、21、28日[鼎談会：岸本英夫、岩越元一郎][『選集昭26年版』『神道教学研究編』<現代神道研究集成8>(神社新報社、1999年)収録]

一年の記録 ゼネスト禁庄からルームマン声明まで『神社新報』73～76、12月1、8、15、22日<<無署名>>[「昭和二十二年の回顧 ゼネスト禁庄からルームマン声明まで」と題して『選集昭26年版』収録]

1948(昭和23)年

アヒムサの聖雄 ガンジーを語る『神社新報』84、85、2月16、23日<<矢嶋三郎>>

芦田新内閣成立 難航を重ねた組閣工作[「週間展望 政治」]『神社新報』89、3月22日<<矢嶋三郎>>

南北対立の新段階 独立朝鮮の政治情勢[「週間展望 国際」]『神社新報』97、5月24日<<矢嶋三郎>>[『選集昭26年版』『時の流れ』収録]

外資導入と日本経済の再建[「週間展望 政治」]『神社新報』99、6月7日<<矢嶋三郎>>

神社本庁誕生の性格と将来への展望『肇国』10-8・9、10、8月11日、11月1日

中共赤軍の勝利と日本警察力の強化[「週間展望 政治」]『神社新報』121、11月15日<<矢嶋>>[『選集昭26年版』収録]

国会解散を前に各政党の動向を見る[「週間展望」]『神社新報』122、11月22日<<矢嶋生>>

東京裁判判決の反響[「週間展望」]『神社新報』122、11月22日<<無署名>>[『時の流れ』収録。「占領下と講和独立直後の一東京裁判の風景」(『祖国と青年』104、1987年5月1日)に転載]

天皇陛下と東京裁判の判決[「週間展望」]『神社新報』123、11月29日<<白旗生>>[『選集昭26年版』『日本の君主制』『時の流れ』『50年史(下)』収録。「占領下と講和独立直後の一東京裁判の風景」(『祖国と青年』104、1987年5月1日)に転載]

一年の記録『神社新報』124～127、12月6、13、20、27日<<矢嶋生>>[最終回のみ<<矢嶋生>>]【参賀記帳の大衆二重橋を渡る、伊太利と朝鮮で赤色大攻勢成らず、国家公務員法とマッカーサー書簡、東京裁判判決と米国大統領の選挙】[「昭和二十三年の回顧」と題して『選集昭26年版』収録]

1949(昭和24)年

中国革命の前途 連合政権への動き[「週間展望」]『神社新報』128、1月3日<<矢嶋生>>[『選集昭26年版』収録]

新国務長官の登場とトルーマンの対ソ外交[「時局展望」]『神社新報』130、1月24日<<矢嶋生>>

民自断然勝ち共産また躍進[「時局展望」]『神社新報』131、1月31日<<矢嶋生>>[『選集昭26年版』収録]

転換期に立つ本年の日本経済[「時局展望」]『神社新報』133、2月14日<<無署名>>

スターリン声明と米ソ外交の行方[「時局展望」]『神社新報』134、2月21日<<矢嶋生>>

二十年祭を前に川面凡児翁をしのぶ『神社新報』134、2月21日[『選集昭26年版』収録]

米軍の日本撤退説 当局公式に否定す[「時局展望」]『神社新報』135、2月28日<<無署名>>

中国内戦の新段階と中共の対外政策[「時局展望」]『神社新報』136、3月7日<<無署名>>[『共産思想の追放』収録]

国際共産主義者ソ連赤軍支持を表明す[「時局展望」]『神社新報』137、3月14日<<無署名>>[『共産思想の追放』『時の流れ』収録]

民主人民政府の樹立へ 共産党猛進するか[「時局展望」]『神社新報』138、3月21日<<矢島生>>[「議会議政党と共産党」と改題『共産思想の追放』収録、初出を『時の流れ』収録]

北大西洋同盟とスペイン政府の立場[「時局展望」]『神社新報』139、3月28日<<矢島生>>[『共産思想の追放』収録]

北平会談の前途と蔣總統復活の流説[「時局展望」]『神社新報』141、4月11日<<矢島生>>

日本政府の公約問題[「時局展望」]『神社新報』141、4月11日<<矢島生>>

国会阿波丸事件の賠償請求権放棄を決す[「時局展望」]『神社新報』142、4月18日<<無署名>>[『選集昭26年版』『50年史(下)』収録]

共産主義者は民族文化を守るか[「思想講座」]『神社新報』142、143、4月18、25日<<矢嶋三郎>>[『共産思想の追放』収録]

共産思想に対する宗教人の二つの態度[「時局展望」]『神社新報』143、4月25日<<無署名>>

宗教と共産主義[「思想講座」]『神社新報』144～146、5月2、9、16日[『共産思想の追放』収録]

西独政府の樹立と独逸国家主義の動き[「時局展望」]『神社新報』145、5月9日<<無署名>>[『共産思想の追放』『時の流れ』収録]

人民解放軍進出し台湾の地位重大化する[「時局展望」]『神社新報』146、5月16日<<矢島>>

日本はいかにして平和を守るべきか[「時局展望」]『神社新報』147、5月23日<<無署名>>

共産主義者の暴力革命説について[「思想講座」]『神社新報』147～149、5月23、30日、6月6日<<矢嶋三郎>>[『共産思想の追放』収録]

フランコ政権と国際的反共戦線[「時局展望」]『神社新報』148、5月30日<<無署名>>

中共解放軍遂に上海市を占領す[「時局展望」]『神社新報』149、6月6日<<無署名>>

公安条例と大学法案 反対デモとストライキ[「時局展望」]『神社新報』150、6月13日<<無署名>>

自由平等の理想と社会共産主義[「思想講座」]『神社新報』150、152、6月13日、7月4日<<白旗士郎>>

良き習慣と前例を残す長谷事務総長と語る『神社新報』151、6月27日

一すぢの道に生きよ[「社説」]『神社新報』154、7月18日<<無署名>>[『共産思想の追放』収録]

下山国鉄総裁の惨死事件をかく考える[「時局展望」]『神社新報』154、7月18日<<無署名>>[『選集昭26年版』収録]

蔣・キリノ会談と太平洋同盟の前途[「時局展望」]『神社新報』155、7月25日<<無署名>>[『共産思想の追放』収録]

共産党の合法性は失われるであらうか[「時局展望」]『神社新報』155、7月25日<<無署名>>[『共産

思想の追放』収録]

- 極東諸国の情勢と所謂 9 月革命説[「時局展望」]『神社新報』156、8 月 1 日<<無署名>>
- 大学の赤色教授は追放されるだらうか[「時局展望」]『神社新報』156、8 月 1 日<<無署名>>
- 赤岩栄著キリスト教と共産主義 プロテスタントの新しい牧師たち[「書評」]『神社新報』156、157、8 月 1、8 日
- ピオ十二世の破門令 反共運動の新展開[「時局展望」]『神社新報』157、8 月 8 日<<無署名>>
- 欧州諸国に於ける王政復古の運動[「時局展望」]『神社新報』158、8 月 22 日<<無署名>>[『選集昭 26 年版』『時の流れ』収録]
- カトリックの神父と反共問題を語る『神社新報』158、8 月 22 日
- 風雲急を告ぐ ソ連対ユーゴー[「時局展望」]『神社新報』159、8 月 29 日<<無署名>>
- 微妙な転換を示す太平洋同盟の展望[「時局展望」]『神社新報』160、9 月 5 日<<無署名>>
- マッカーサー声明と対華貿易の将来[「時局展望」]『神社新報』161、9 月 12 日<<無署名>>
- 三八度線の緊張と朝鮮人連盟の解散[「時局展望」]『神社新報』162、9 月 19 日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 最近の出版界と読書人の思想動向[「時局展望」]『神社新報』163、9 月 26 日<<無署名>>[『選集昭 26 年版』収録]
- 仁者無敵[「社説」]『神社新報』164、10 月 3 日<<無署名>>[『神国の民の心』『昭和史を生きて』収録]
- 中華人民共和国、列国の承認を得るか[「時局展望」]『神社新報』164、10 月 3 日<<無署名>>
- 東欧共産政権の宗教迫害について[「時想」]『神社新報』164、166、167、10 月 3、17、24 日<<矢島三郎>>[『選集昭 26 年版』収録]
- 原子兵器の競争は平和をもたらすか[「時局展望」]『神社新報』165、10 月 10 日<<無署名>>
- 共産勢力の退潮と赤化教授の追放[「時局展望」]『神社新報』166、10 月 17 日<<無署名>>
- 媾和の成立を待つ 日独両国民の心理[「時局展望」]『神社新報』168、11 月 7 日<<無署名>>
- 近ごろの世界で注目すべき宗教情報[「時局展望」]『神社新報』169、11 月 14 日<<無署名>>
- 講和条約の接近と日本国家将来の運命[「時局展望」]『神社新報』170、11 月 21 日<<無署名>>
- エリザベス王女、戦後派風潮に警告[「時局展望」]『神社新報』171、11 月 28 日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 講和問題論議と吉田首相の態度[「時局展望」]『神社新報』172、12 月 5 日<<無署名>>
- 世界の第三勢力印度のネール首相[「時局展望」]『神社新報』173、12 月 12 日<<無署名>>[『選集昭 26 年版』収録]
- 反共最後の拠点台湾島の帰属問題[「時局展望」]『神社新報』174、12 月 19 日<<無署名>>
- 園田、松谷代議士の恋愛と結婚について[「時局展望」]『神社新報』175、12 月 26 日<<無署名>>

1950(昭和 25)年

- 昭和廿五年を迎へて 講和条約の展望[「時局展望」]『神社新報』176、1月2日<無署名>
- フリーメーソン日本人社会に進出[「時局展望」]『神社新報』178、1月23日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
- 野坂理論批判の波紋 日本共産党動揺す[「解説」]『神社新報』178、179、1月23、30日<白旗士郎>[『選集昭26年版』収録]
- 社会党遂に分裂す[「時局展望」]『神社新報』179、1月30日<無署名>
- 国会の売国者論争 救国者はいずこに[「時局展望」]『神社新報』180、2月6日<無署名>
- 天皇陛下に対しソ連裁判を要求す[「時局展望」]『神社新報』181、2月13日<無署名>
- 政府の給与白書と保守政党的将来[「時局展望」]『神社新報』182、2月20日<無署名>
- 参議院文部委員会 元号廃止を提案か[「時局展望」]『神社新報』183、2月27日<無署名>[『選集昭26年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]
- 英国の総選挙は何を意味するか[「時局展望」]『神社新報』184、3月6日<無署名>
- 秀才官僚の悲劇、池田勇人の破綻[「時局展望」]『神社新報』185、3月13日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
- 最高裁判所長官とカトリックの立場[「時局展望」]『神社新報』186、3月20日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
- 王冠再び輝くか 白国々王の復位[「時局展望」]『神社新報』187、3月27日<無署名>
- 反革命最後の拠点台湾攻防戦の近況[「時局展望」]『神社新報』188、4月3日<無署名>
- 神道人と社会問題 わかき同志におくる『神社新報』188、189、4月3、10日
- 二つの平和方式の対立と論争の発展[「時局展望」]『神社新報』189、4月10日<無署名>
- 徳田要請問題で重要証人自殺す[「時局展望」]『神社新報』190、4月17日<無署名>
- 天皇陛下万歳[「社説」]『神社新報』191、4月24日<無署名>[『選集昭26年版』『日本の君主制』『50年史(下)』収録]
- ホー・チミンの反仏抗争進展す[「時局展望」]『神社新報』191、4月24日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
- 神道と時局問題『宗教時報』4-5、5月1日
- 日本国の中立と沖縄の軍事基地[「時局展望」]『神社新報』192、5月1日<無署名>
- 日本国憲法の政教分離制度『神社新報』192、5月1日<矢嶋三郎>
- 日本共産党最近の注目すべき新動向[「時局展望」]『神社新報』193、5月8日<無署名>
- キリスト教のニューズいろいろ[「時局展望」]『神社新報』193、5月8日<無署名>
- 極左の民族運動と青年学生の心理[「時局展望」]『神社新報』194、5月22日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
- 講和会議に関する朝野両党の論点[「時局展望」]『神社新報』195、5月29日<無署名>
- 選挙にどう現はれるか 地方税と国民の態度[「時局展望」]『神社新報』196、6月5日<無署名>

- 日本共産党に対し解散の断下るか[「時局展望」]『神社新報』197、6月12日<無署名>
- 国民大衆の政治批判 参議院選挙の結果[「時局展望」]『神社新報』198、6月19日<無署名>
- 言論、出版の自由とその責任について[「時局展望」]『神社新報』199、6月26日<無署名>
- 朝鮮半島の戦乱と日本共産党の前途[「時局展望」]『神社新報』200、7月3日<無署名>
- 朝鮮赤軍の進出に国連の武力制裁発動[「時局展望」]『神社新報』201、7月10日<無署名>
- 国軍再建の流説と警察予備隊の創設[「時局展望」]『神社新報』202、7月17日<無署名>[『選集昭
26年版』収録]
- 印度ネール首相 平和解決への試み[「時局展望」]『神社新報』203、7月24日<無署名>
- 義勇軍問題につき論議しきりに起る[「時局展望」]『神社新報』204、7月31日<無署名>[『時の流
れ』収録]
- 臨時国会を終へて政府言明を検討す[「時局展望」]『神社新報』205、8月14日<無署名>
- トルーマン大統領マッカーサー元帥[「時局展望」]『神社新報』206、8月21日<無署名>[『選集昭
26年版』収録]
- 人類共通の道徳に反抗する共産主義[「解説」]『神社新報』206、207、8月21、28日<矢嶋三郎>
- 地方に移り行く 日本共産党の動き[「時局展望」]『神社新報』207、8月28日<無署名>
- 政府の外交白書とアジアの民族問題[「時局展望」]『神社新報』208、9月4日<無署名>
- 世界の人々の眼は台湾島に集中する[「時局展望」]『神社新報』209、9月11日<無署名>
- 日本人は果して再軍備を望むか[「時局展望」]『神社新報』210、9月18日<無署名>
- 国連軍仁川上陸新動向注目さる[「時局展望」]『神社新報』211、9月25日<無署名>
- 鳴尾騒擾事件から競輪禁止論起る[「時局展望」]『神社新報』211、9月25日<無署名>[『選集昭 26
年版』収録]
- 天智天皇を欽慕し奉る[「社説」]『神社新報』212、10月2日[『選集昭 26年版』 『日本の君主制』
収録]
- 西独の再武装と宿命的な仏独関係[「時局展望」]『神社新報』212、10月2日<無署名>
- 共産党の地下活動と警察の追究に就て[「時局展望」]『神社新報』213、10月9日<無署名>[『選集
昭 26年版』収録]
- 明治天皇と神道精神[「社説」]『神社新報』214、10月23日<無署名>[『選集昭 26年版』 『日本の
君主制』 『50年史(下)』収録]
- ネール印度首相の平和構想のねらい[「時局展望」]『神社新報』214、10月23日<無署名>
- 民族の独立と平和 社会党の外交政策[「時局展望」]『神社新報』215、10月30日<無署名>
- 西独逸再軍備と西欧軍強化の進展[「時局展望」]『神社新報』216、11月6日<無署名>
- 中国人民政府の背後に糸ひくもの[「時局展望」]『神社新報』217、11月13日<無署名>
- 米国中間選挙の外交政策への影響[「時局展望」]『神社新報』218、11月20日<無署名>
- 日本の再武装と軍事基地の問題[「時局展望」]『神社新報』219、11月27日<無署名>
- 西独逸の再武装とドイツ人の反対論[「時局展望」]『神社新報』220、12月4日<無署名>

妥協交渉か戦争か 米英両巨頭会談[「時局展望」]『神社新報』221、12月11日<無署名>
国連と安全保障 吉田首相の新見解[「時局展望」]『神社新報』222、12月18日<無署名>
フランコ何処へ行く[「時局展望」]『神社新報』222、12月18日<無署名>
平和憲法改訂の是非 来年の重要課題たらん[「時局展望」]『神社新報』223、12月25日<無署名>

1951(昭和26)年

日本人の将来とアジアの民族主義[「時局展望」]『神社新報』225、1月8日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
“先づ祖国同胞愛の育成 再武装意味なし”[談、「宗教人に訊く 再武装問題」]『神社新報』226、1月22日
皇太子様の御近況と将来の御教育の方針[「時局展望」]『神社新報』226、1月22日<無署名>[『選集昭26年版』『日本の君主制』『時の流れ』収録]
台湾の国民政府軍 大陸へ反抗上陸か[「時局展望」]『神社新報』227、1月29日
再武装論を批判す[「時局展望」]『神社新報』228、2月5日<無署名>[『選集昭26年版』『50年史(下)』収録]
自由、民主、社会各党の再軍備に対する態度[「時局展望」]『神社新報』229、2月12日<無署名>
共産党の大衆運動と非合法化への展望[「時局展望」]『神社新報』230、2月19日<無署名>
永世中立の理想から太平洋条約への転換[「時局展望」]『神社新報』231、2月26日<無署名>
赤色平和運動と宗教人の態度[「時局展望」]『神社新報』232、3月5日<無署名>
人生観を求める警察予備隊の青年[「時局展望」]『神社新報』233、3月12日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
吉田首相国会で紀元節復活を言明[「時局展望」]『神社新報』234、3月19日<無署名>[『時の流れ』収録]
歴史に問題を残して幣原喜重郎氏永眠す[「時局展望」]『神社新報』235、3月26日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
再武装論批判—特に建軍の精神について—『肇国』13-4、4月1日
治安状況の危機と警察予備隊の強化[「時局展望」]『神社新報』236、4月2日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
風雲急を上げるユーゴーの情勢[「時局展望」]『神社新報』237、4月9日<無署名>
精神の威力—ヨーロッパの民衆抵抗—『神社新報』237~239、4月9、23、30日<矢島三郎>[『選集昭26年版』収録]
日本を去り行くマッカーサー元帥[「時局展望」]『神社新報』238、4月23日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
靖国神社々頭で老將軍の談を聞く[「時局展望」]『神社新報』239、4月30日<無署名>[『選集昭26年版』収録]
飢餓せまる印度へ 米ソ連中共の援助[「時局展望」]『神社新報』240、5月7日<無署名>

政府・軍隊・警察[「時局展望」]『神社新報』240、5月7日<<無署名>>

地方選挙の結果とその後の政局の動き[「時局展望」]『神社新報』241、5月14日<<無署名>>

亜細亜の宗教とナショナリズム『神社新報』242～245、5月21、28日、6月4、11日<<白旗士郎>>

世界平和を脅かす二つの大きな黒雲[「時局展望」]『神社新報』243、5月28日<<無署名>>

*万世一系『光栄』1、発行月日未詳<<神社本庁所蔵>>

*天皇陛下[巻頭言]『光栄』2、5月<<神社本庁所蔵>>[『神道の日本民族論』『みやびと覇権』収録]

*流行的民族論への批判『光栄』2、5月<<神社本庁所蔵>>[『神道の日本民族論』収録]

時は流れ移りて浮ぶ人沈み行く人[「時局展望」]『神社新報』245、6月11日<<無署名>>

自由を回復せる追放者と戦後派新人の強み弱み[「時局展望」]『神社新報』246、6月18日<<無署名>>

追放解除をめぐる噂と政府及び野党の態度[「時局展望」]『神社新報』247、6月25日<<無署名>>

右と左の革命勢力に脅かされる仏国政情[「時局展望」]『神社新報』248、7月2日<<無署名>>

朝鮮動乱停戦の提案 マリク大使の一投石[「時局展望」]『神社新報』249、7月9日<<無署名>>

アメリカ政府いよいよ対日講和条約草案発表[「時局展望」]『神社新報』250、7月23日<<無署名>>

米西軍事協力の進展と右旋回する国際情勢[「時局展望」]『神社新報』251、7月30日<<無署名>>

日本政府の重大任務 海外未帰還者の人権[「時局展望」]『神社新報』252、8月6日<<無署名>>[『選集昭31年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

日本社会党の代表 コミスコ大会で棄権[「時局展望」]『神社新報』253、8月13日<<無署名>>

日米安全保障条約に対して一抹の憂念[「時局展望」]『神社新報』254、8月20日<<無署名>>

再軍備論者の主張 天皇讓位説に反対する[「時局展望」]『神社新報』255、8月27日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]

悲痛なる講和の奉告[「社説」]『神社新報』256、9月3日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

戦後派的家庭悲劇とアジア的な倫理想[「時局展望」]『神社新報』256、9月3日<<無署名>>

ヴァチカンとインド 異色の対日講和意見[「時局展望」]『神社新報』257、9月10日<<無署名>>

共産党の地下活動を真に抑圧し得るもの[「時局展望」]『神社新報』258、9月17日<<無署名>>

講和条約締結に際して 独立日本と神道精神『神社新報』258、9月17日[『選集昭31年版』収録]

日米安全保障条約は日本の独立を守るか[「時局展望」]『神社新報』259、9月24日<<無署名>>

復帰を伝えられる元将校特高の諸君へ[「時局展望」]『神社新報』260、10月1日<<無署名>>

イラン石油紛争に回教徒はどう動くか[「時局展望」]『神社新報』261、10月15日<<無署名>>

皇大神宮の御遷宮と皇居の御造営に就て[「社説」]『神社新報』262、10月22日<<無署名>>[『日本の君主制』収録]

英国軍事基地の撤収 エジプト強硬に要求[「時局展望」]『神社新報』262、10月22日<<無署名>>

天皇と道德の関係[「社説」]『神社新報』263、10月29日<<無署名>>[『日本の君主制』収録]

平和憲法と軍事基地 国会解散の秋、来る[「時局展望」]『神社新報』263、10月29日<<無署名>>

老豪チャーチル勝つ 英国保守政権の前途[「時局展望」]『神社新報』264、11月5日<無署名>
 湊川神社の復興[「社説」]『神社新報』265、11月12日<無署名>[『日本の君主制』『50年史(下)』
 収録]
 鉄のカーテンと宗教 基督教対印度教回教[「時局展望」]『神社新報』265、11月12日<無署名>
 軍備縮小の平和計画 パリ国連総会に提案[「時局展望」]『神社新報』266、11月19日<無署名>
 再軍備政策の発展と靖国神社の宗教儀礼[「時局展望」]『神社新報』266、11月19日<無署名>[『選
 集昭31年版』収録]
 大学の自由は守られるか 京都大学生の不敬騒擾[「時局展望」]『神社新報』267、11月26日<無署
 名>
 *英霊の声を聞く[巻頭言]『光栄』3、発行月日未詳<神社本庁所蔵>[西沢泰夫「悲しき日に勇気を求
 めてー戦後占領時代追想」(『新勢力』21-1、1976年1月15日)、佃実夫「さまざまな占領体験ーあ
 とがきに代えて」(思想の科学研究会編『共同研究 日本占領軍 その光と影 下巻』現代史出版会、
 1978年)に転載]
 *天皇親政と独裁政治ー明治憲法末期の回想ー『光栄』3、月日未詳<神社本庁所蔵>
 *十一月三日[巻頭言]『光栄』4、11月<神社本庁所蔵>
 *祖国を守るもの『光栄』4、11月<神社本庁所蔵>[『神道的日本民族論』収録]
 日本国憲法について 近ごろ注目すべき論争[「時局展望」]『神社新報』268、12月3日<無署名>
 明日の世界の要視察人 エルンスト・レーマー[「時局展望」]『神社新報』269、12月10日<無署名>
 暴力革命を決意す 新綱領後の日本共産党[「時局展望」]『神社新報』270、12月17日<無署名>
 講和条約と二つの中国 毛沢東の思想と漢民族[「時局展望」]『神社新報』271、12月24日<無署名>

1952(昭和27)年

大根めしの正月『神社新報』273、1月14日
 戦没遺族援護対策で橋本厚生大臣辞職す[「時局展望」]『神社新報』274、1月28日<無署名>[『時
 の流れ』収録]
 逆コースの現世相と紀元節復活への動き[「時局展望」]『神社新報』275、2月4日<無署名>[『選
 集昭31年版』収録]
 赤色テロルの新戦術か 白鳥警備課長暗殺事件[「時局展望」]『神社新報』276、2月11日<無署名>
 防衛政策の憲法論争 国会から法廷へ発展[「時局展望」]『神社新報』277、2月18日<無署名>
 菅原道真公の清節[「社説」]『神社新報』278、2月25日<無署名>[『選集昭31年版』『日本の君
 主制』収録]
 関心をひくドイツ通信 連合国への不信と反感[「時局展望」]『神社新報』278、2月25日<無署名>
 *夢でないもの[巻頭言]『光栄』5、2月<神社本庁所蔵>[『神道的日本民族論』収録]
 *門前の雀羅ーアメリカ人へ日本を語るー『光栄』5、2月<神社本庁所蔵>
 日米行政協定締結 光栄の独立か、屈辱的隷属か[「時局展望」]『神社新報』279、3月10日<無署
 名>[『選集昭31年版』『時の流れ』収録]

- 大学自由と学生運動は区別されねばならない[「時局展望」]『神社新報』280、3月17日<無署名>
 神宮と天皇陛下[「社説」]『神社新報』281、3月24日<無署名>[『日本の君主制』『50年史(下)』
 収録]
- 東京六区の補欠選挙 左右両翼共に伸びず[「時局展望」]『神社新報』281、3月24日<無署名>
 トルーマン秘録の公開 原子爆弾と良心の問題[「時局展望」]『神社新報』282、3月31日<無署名>
 *日本のバックボーン[巻頭言]『光栄』6、4月1日<神社本庁所蔵>[『神道的日本民族論』収録]
 *大義(おほきことわり)『光栄』6、4月1日<神社本庁所蔵>
- 講和発効後の難問題、憲法全面改訂論の予想[「時局展望」]『神社新報』283、4月7日<無署名>[『時
 の流れ』収録]
- 東洋人の平和思想—トルーマン大統領秘録所感—『神社新報』283、284、4月7、14日<白旗士郎>
 講和発効後の治安立法 暴力主義と思想自由[「時局展望」]『神社新報』284、4月14日<無署名>
 モスクワとワシントン 危機緩和の空気動く[「時局展望」]『神社新報』285、4月21日<無署名>
 独立回復後に来るもの 講和条約改訂への希望[「時局展望」]『神社新報』286、4月28日<無署
 名>[『選集昭31年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]
- アメリカ軍隊は果して日本の安全を保証するか[「時局展望」]『神社新報』286、4月28日<無署
 名>[『選集昭31年版』『時の流れ』収録]
- 万世の為に太平を開く 日本民族君民の断り[「時局展望」]『神社新報』286、4月28日<無署名>[『選
 集昭31年版』『時の流れ』収録]
- アジアの智慧[「独立日本と神道」]『悠久』4-1、5月1日
- 天皇陛下お言葉を賜る 独立式典 陛下と首相の政治的関係[「時局展望」]『神社新報』288、5月12
 日<無署名>[『時の流れ』収録]
- 流血の五月一日『神社新報』288、5月12日<白旗士郎>[『時の流れ』収録]
- 日本人もドイツ人も戦犯の釈放を要求する[「時局展望」]『神社新報』289、5月19日<無署名>[『時
 の流れ』収録、「占領下と講和独立直後の—東京裁判の風景」(『祖国と青年』104、1987年5月1
 日)転載]
- 宗教々団の官僚主義への抗議『国会』5-6、6月3日
- 吉田首相と重光総裁 日本政党と外務官僚[「時局展望」]『神社新報』290、6月2日<無署名>
 北京政府の虎狩りと革命発展の二つの段階[「時局展望」]『神社新報』291、6月9日<無署名>
 国家と武力—再軍備論検討の前提—『神社新報』291~293、6月9、16、23日<矢嶋三郎>
 李大統領と国会の対決 危機に立つ韓国の政局[「時局展望」]『神社新報』293、6月23日<無署名>
 朝鮮戦線の捕虜問題 戦史に例なき奇襲反抗[「時局展望」]『神社新報』294、6月30日<無署名>
 鳩山一郎氏の政局談 吉田自由党政権動揺す[「時局展望」]『神社新報』295、7月7日<無署名>
 紛糾混乱する参議院 不条理なる憲法に原因[「時局展望」]『神社新報』295、7月7日<無署名>
 破防法の国会通過と日本共産党三十年記念[「時局展望」]『神社新報』296、7月14日<無署名>
 鷹司統理各国大使館訪問 戦犯人の全面釈放要望[「時局展望」]『神社新報』298、7月28日<無署

名> [『時の流れ』収録、「占領下と講和独立直後の一東京裁判の風景」(『祖国と青年』104、1987年5月1日)転載]

イラン国の流血政変とエジプト王の退位亡命[「時局展望」]『神社新報』299、8月4日<無署名>

万世の太平—八月十五日の反省『神社新報』299~301、8月4、11、18日<矢嶋三郎>

軍隊か警察か保安庁成立す 新しい武力機関の性格[「時局展望」]『神社新報』300、8月11日<無署名>

韓国大統領選挙の結果 李承晩の制覇独裁成る[「時局展望」]『神社新報』301、8月18日<無署名> [『選集昭31年版』収録]

英国水兵の強盗裁判 日本の独立なほ道通し[「時局展望」]『神社新報』302、8月25日<無署名>

吉田首相打ち解散 錯綜する政界の前途[「時局展望」]『神社新報』303、9月8日<無署名>

全国に展開する総選挙 朝野各党の支持者語る[「時局展望」]『神社新報』304、9月15日<無署名>

モスクワ北京の動静とダレスの「大胆な政策」[「時局展望」]『神社新報』305、9月22日<無署名>

頻発する暴力騒擾事件で激化する政治闘争の傾向[「時局展望」]『神社新報』306、9月29日<無署名>

憲法、投票、市民、農民 独善的な文教官僚の言説[「時局展望」]『神社新報』307、10月6日<無署名>

自由党の勝利、左派の進出 総選挙後の政局安定せず[「時局展望」]『神社新報』309、10月20日<無署名>

資本主義国家相互の間に戦争不可避とス首相言明[「時局展望」]『神社新報』310、10月27日<無署名> [『選集昭31年版』収録]

*あらゆる民の心を『民主公論』3-?、10・11月頃[『天皇・民族・神道』『神道的日本民族論』収録]

吉田対鳩山の紛議交渉は政治的公事か派閥的私事か[「時局展望」]『神社新報』311、11月3日<無署名>

池田新通産相の経済政策 兵器の生産で外貨を獲得[「時局展望」]『神社新報』312、11月10日<無署名> [『選集昭31年版』収録]

共和党アイク大統領に当選 外交政策朝鮮戦線の前途[「時局展望」]『神社新報』313、11月17日<無署名>

温い友情と共に鋭い批判 印度のパール博士の来日[「時局展望」]『神社新報』314、11月24日<無署名> [『時の流れ』収録、「占領下と講和独立直後の一東京裁判の風景」(『祖国と青年』104、1987年5月1日)転載]

重要産業にストライキ 講和後労使勢力の動き[「時局展望」]『神社新報』315、12月1日<無署名>

政治的倫理観の欠如 池田通産相不信任決議[「時局展望」]『神社新報』316、12月8日<無署名> [『選集昭31年版』収録]

昭和廿七年の回顧[「時局展望」]『神社新報』317、318、12月15、22日<無署名> 【1 講和発効までの動き、2 吉田内閣解散を断行】 [『選集昭31年版』収録]

1953(昭和28)年

日本政治の独立と自由 前途に幾多の波乱を予想[「時局展望」]『神社新報』320、1月12日<無署名>

保安隊の重装備公開さる 日本再軍備と国際世論[「時局展望」]『神社新報』321、1月19日<<無署名>>

列国に政治的陰謀頻発す クレムリン医学者の検挙[「時局展望」]『神社新報』322、1月26日<<無署名>>

三万の同胞大陸から還る 期待される新中国真相談[「時局展望」]『神社新報』323、2月2日<<無署名>>

絶え間なき自由党内紛 政党政治に赤信号[「時局展望」]『神社新報』324、2月9日<<無署名>>

米国共和党新政権発足す 押返し政策と日本の危機[「時局展望」]『神社新報』325、2月16日<<無署名>>

鹿地亘、三橋正雄事件と国際スパイの現代的特徴[「時局展望」]『神社新報』326、2月23日<<無署名>>

朝鮮動乱と保安隊 日本人を破滅と流血から守る一線[「時局展望」]『神社新報』328、3月9日<<無署名>>

スターリン首相の死後 マレンコフ政府の前途[「時局展望」]『神社新報』329、3月16日<<無署名>> [『時の流れ』収録]

二大政党か小党の分立か 解散後の国際情勢の展望[「時局展望」]『神社新報』330、3月23日<<無署名>>

有名政治家の落選著し 総選挙後の政局依然混迷[「時局展望」]『神社新報』334、4月27日<<無署名>>

参議院の選挙に現れた政治的動向と当落の人物[「時局展望」]『神社新報』335、5月4日<<無署名>>

総選挙後の政党政治 社会党左派の進出[「時局展望」]『神社新報』336、5月11日<<無署名>> [『選集昭31年版』収録]

フランス植民地支配危し 独立解放戦と外国の援助[「時局展望」]『神社新報』337、5月18日<<無署名>>

政治経済の隷属から独立へ 国際情勢と日本経済の前途[「時局展望」]『神社新報』338、5月25日<<無署名>>

政治は個人を抑圧する ソ連邦と米国のニュース[「時局展望」]『神社新報』340、6月8日<<無署名>> [『選集昭31年版』収録]

朝鮮の休戦近し 力強い民衆の平和への意志[「時局展望」]『神社新報』341、6月15日<<無署名>>

敵国降伏と万世太平 『神社新報』341、6月15日

東独に叛乱起る ソ連占領下の民衆抵抗[「時局展望」]『神社新報』342、6月29日<<無署名>> [『選集昭31年版』『時の流れ』収録]

基地は解消するか[「時局展望」]『神社新報』343、7月6日<<無署名>> [『選集昭31年版』収録]

国連総会と李承晩政権 妥協成るか半島放棄か[「時局展望」]『神社新報』344、7月13日<<無署名>>

ベリア追放後のソ連政局 集団指導の意味するもの[「時局展望」]『神社新報』346、7月27日<<無署名>>

ソヴェトの緩和政策とスターリン最後の論文[「時局展望」]『神社新報』347、8月3日<<無署名>>

今期国会で展開された自衛論議の新しい傾向[「時局展望」]『神社新報』348、8月10日<<無署名>>

マレンコフの爆弾声明とダレス強硬政策の前途[「時局展望」]『神社新報』349、8月24日<<無署名>>

MSA・韓国経済復興 政府の長期自立経済政策[「時局展望」]『神社新報』351、9月7日<<無署名>>
歳末に一万円札発行か インフレ抑圧の諸方策[「時局展望」]『神社新報』352、9月14日<<無署名>>
韓国海軍示威行動 紛争解決の責は米国に[「時局展望」]『神社新報』353、9月21日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
不安と動揺のフランスへ ソヴェトの外交宣伝攻勢[「時局展望」]『神社新報』354、9月28日<<無署名>>
岡崎外相東南亜諸国へ アジア外交の精神的前提[「時局展望」]『神社新報』356、10月19日<<無署名>>
天明以来の大凶作か 保利農相危機を力説す[「時局展望」]『神社新報』357、10月26日<<無署名>>
日韓会談決裂す 背後に錯綜する米韓両国関係[「時局展望」]『神社新報』358、11月2日<<無署名>>
米国軍事政策の真意何処 近く東京で開く日米会談[「時局展望」]『神社新報』359、11月9日<<無署名>>
往年の近衛的新体制論と吉田首相の消極的憲法論[「時局展望」]『神社新報』360、11月16日<<無署名>>
日本社会党(左)綱領草案 党大会を前に大衆討議[「時局展望」]『神社新報』361、11月23日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
保全経済会と霊友会事件 大衆民主々義の一時代相[「時局展望」]『神社新報』362、12月7日<<無署名>>
難航をつづける日韓外交 歴史的過ちを繰り返すな[「時局展望」]『神社新報』363、12月14日<<無署名>>
興安丸の伝言—シベリアに残る帝国臣民—『神社新報』364、365、12月21、28日

1954(昭和29)年

ベリヤの銃殺と暗黒裁判 東条大将・ロ博士の場合[「時局展望」]『神社新報』367、1月18日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
世界経済の景気展望とソヴェトの社会主義経済[「時局展望」]『神社新報』368、1月25日<<無署名>>
政党は国民を代表するか 今月開かれた各党の大会[「時局展望」]『神社新報』369、2月1日<<無署名>>
中野正剛遺著建武中興史論—民主主義と自刃の思想『神社新報』369、2月1日
吉田首相国会で施政演説 教育中立論と自衛隊強化[「時局展望」]『神社新報』371、2月15日<<無署名>>
二・二六悲史の回想と近來の政党スキャンダル[「時局展望」]『神社新報』372、2月22日<<無署名>>
無限に発展する政党疑獄 検察当局者の勇断と責任[「時局展望」]『神社新報』373、3月1日<<無署名>>
西独でボン憲法改正 日本憲法改訂論の動き[「時局展望」]『神社新報』374、3月15日<<無署名>>
大達文相の食人種論とMSA協定の国会討議[「時局展望」]『神社新報』375、3月22日<<無署名>>

- 十年祭を迎へる今泉定助翁の雄姿『神社新報』375、3月22日
- マッカーシーとアイク 対決々戦の日近きか[「時局展望」]『神社新報』377、4月5日<<無署名>>
- ソヴェト同盟引揚邦人とマクマホン・ポールの言葉[「時局展望」]『神社新報』378、4月12日<<無署名>>
- 保守合同新党の性格 日本憲政の変質過程[「時局展望」]『神社新報』379、4月19日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 原爆計画競争の進展とオッペンハイマーの嫌疑[「時局展望」]『神社新報』380、4月26日<<無署名>>
- 吉田内閣、検察庁を圧迫 あくまで保守政権を守る[「時局展望」]『神社新報』381、5月3日<<無署名>>
- 平穏なりしメーデー行進 民主社会主義混迷の悩み[「時局展望」]『神社新報』382、5月17日<<無署名>>
- 海外派兵と徴兵への懸念 吉田外遊と国際情勢の急迫[「時局展望」]『神社新報』384、5月31日<<無署名>>
- 裁判所の人種平等判決でも解釈しがたい米黒人問題[「時局展望」]『神社新報』385、6月7日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
- 暴力行使と権力濫用で日本国会に危機せまる[「時局展望」]『神社新報』386、6月14日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
- 乱闘国会背後の海外勢力 解散総選挙も結局徒労か[「時局展望」]『神社新報』387、6月21日<<無署名>>
- 微妙に錯綜する政情下に M・フランス新内閣成立す[「時局展望」]『神社新報』388、6月28日<<無署名>>
- 愚かな猿真似民主論議 新国歌論と憲法改正構想[「時局展望」]『神社新報』389、7月5日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- ネール・周恩来の共同声明 米国アジア政策の再検討[「時局展望」]『神社新報』391、7月19日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
- 高野対太田の決選投票 労働組合総評の大会終る[「時局展望」]『神社新報』392、7月26日<<無署名>>
- インドシナ休戦成る 外交政策背後の歴史観[「時局展望」]『神社新報』393、8月2日<<無署名>>
- 西欧での緩和政策展開と東亜での米国的強圧政策[「時局展望」]『神社新報』394、8月9日<<無署名>>
- 革命的煽動より恐ろしい吉田首相の放言演説[「時局展望」]『神社新報』395、8月23日<<無署名>>
- 国際情報戦線に異変多し スパイ戦に弱い戦後日本[「時局展望」]『神社新報』396、8月30日<<無署名>>
- 今と昔、異なる新聞人気質 緒方副総裁の北海道談話[「時局展望」]『神社新報』397、9月6日<<無署名>>
- 英労働使節の共産国訪問 平和共存論に二つの展望[「時局展望」]『神社新報』398、9月13日<<無署名>>[『選集昭31年版』収録]
- 吉田内閣を支持するもの その政治思想の質的变化[「時局展望」]『神社新報』399、9月20日<<無署名>>

反民主的活動とは何か 思想と言葉のあいまいさ[「時局展望」]『神社新報』400、9月27日<無署名>
吉田茂、外遊に出発し鳩山重光の保守連合進む[「時局展望」]『神社新報』401、10月4日<無署名>
第七回新聞週間に際して読者批判力の向上を望む[「時局展望」]『神社新報』402、10月11日<無署名>

忠誠の念と民主民権主義 剛直政客尾崎行雄老の逝去[「時局展望」]『神社新報』403、10月18日<無署名>

天皇元首基本人権制限等 保守党憲法改正論の動き[「時局展望」]『神社新報』404、10月25日<無署名> [『時の流れ』収録]

李承晩大統領の反日教育 諸外国の独善的教育思想[「時局展望」]『神社新報』405、11月1日<無署名> [『時の流れ』『選集2』収録]

米国選挙後の対外政策と日華平和共存政策の進展[「時局展望」]『神社新報』407、11月15日<無署名>

宗教政策転換を表明せるマレンコフ政権の新動向[「時局展望」]『神社新報』408、11月29日<無署名>

吉田総裁から緒方総裁へ 自由民主の源平争覇戦[「時局展望」]『神社新報』409、12月6日<無署名>

吉田首相政権放棄の決意 日本の国政転換期に入る[「時局展望」]『神社新報』410、12月13日<無署名> [『選集昭31年版』『時の流れ』収録]

鳩山新内閣の誕生から国政転回の総選挙へ[「時局展望」]『神社新報』411、12月20日<無署名>

大学新卒業者の失業問題 大学縮少と学閥特権廃止[「時局展望」]『神社新報』412、12月27日<無署名>

1955(昭和30)年

スターリン息子死去の報とソヴェト政治展開の展望[「時局展望」]『神社新報』414、1月17日<無署名>

鳩山首相の神宮報告参拝 またしても愚かな憲法論[「時局展望」]『神社新報』415、1月24日<無署名>

少年の憧れは自衛隊へ だが不親切な当局幹部[「時局展望」]『神社新報』417、2月7日<無署名> [『時の流れ』収録]

マレンコフ首相後退す ソ連政変の原因は何か[「時局展望」]『神社新報』419、2月21日<無署名>

全国に展開される総選挙 一票の行使が役に立つか[「時局展望」]『神社新報』420、2月28日<無署名>

投票三分一の支持を得て鳩山民主党総選挙に勝つ[「時局展望」]『神社新報』421、3月7日<無署名>

ソ連政府は今や三代目内閣 興味深い周恩来の皮肉演説[「時局展望」]『神社新報』422、3月14日<無署名> [『時の流れ』収録]

貪慾なる資本の自由濫用 森下仁丹と文化放送の場合[「時局展望」]『神社新報』423、3月21日<無署名> [『選集昭31年版』収録]

不信の米ソ秘密外交記録 ヤルタ協定文書公表さる[「時局展望」]『神社新報』424、3月28日<無署名>

- 名》
- 鳩山首相の特色と弱み 愛想はいゝが公約を濫発[「時局展望」]『神社新報』425、4月4日《無署名》
- 著しい民族的智能の消耗 激しい競争試験地獄続く[「時局展望」]『神社新報』426、4月11日《無署名》
- 宗教々育国費補助を削りベルギー首都で騒擾事件[「時局展望」]『神社新報』427、4月18日《無署名》[『選集昭31年版』収録]
- 世界史上初めてのAA会議 台湾問題に世界の注目集る[「時局展望」]『神社新報』428、4月25日《無署名》
- 皇室典範と皇位継承法『神道学』5、5月1日[『神道の日本民族論』『戦後神道論文選集』(神道文化会、1973年)収録]
- 憲法の権威は失はれたが改憲運動の足どりも重い[「時局展望」]『神社新報』429、5月2日《無署名》
- 雨降るメーデーの示威 祖国愛と日本労働運動[「時局展望」]『神社新報』430、5月16日《無署名》[『時の流れ』収録]
- パオダイ帝とファルク王 民族革命に追はれる王朝[「時局展望」]『神社新報』431、5月23日《無署名》
- 国際共産運動の変質か ソ連外交の歴史的転回か[「時局展望」]『神社新報』432、5月30日《無署名》
- 右と左の理論的対決点 日本社会党の統一問題[「時局展望」]『神社新報』433、434、6月6、13日《無署名》
- ソ連外交の活発なる動き その根底にひそむ意図[「時局展望」]『神社新報』435、6月20日《無署名》
- 政教分離憲法に反抗してアルゼンチンで暴動起る[「時局展望」]『神社新報』436、6月27日《無署名》[『選集昭31年版』収録]
- 憲法はこのままでよいか『綜合文化』1-3、7月1日[『憲法はこのまゝでよいか』(神社新報社政教研究室、1955年2月)と同文]
- 左派社会党平和論の真意—独立と隷属の国民心理—[「時局展望」]『神社新報』437、7月4日《無署名》[『選集昭31年版』収録]
- 倒産不渡の多い経済報告、失業とファッションの危機[「時局展望」]『神社新報』438、7月11日《無署名》[『選集昭31年版』収録]
- 波乱を起した清瀬発言 憲法の再検討に一進展[「時局展望」]『神社新報』440、7月25日《無署名》[『時の流れ』収録]
- アジア民族の国際補助語 宗教世界会議と未来の夢[「時局展望」]『神社新報』441、8月1日《無署名》
- ジュネーヴの巨頭会議で米ソの外交に新しい現象[「時局展望」]『神社新報』442、8月15日《無署名》[『選集昭31年版』収録]
- 徳田球一北京に客死し野坂参三公衆の前に現る[「時局展望」]『神社新報』443、8月22日《無署名》
- 印度人のゴア解放要求に冷厳なるポルトガル政府[「時局展望」]『神社新報』444、8月29日《無署名》
- 重光外相、来春印度訪問 ネール外交の底流は何か[「時局展望」]『神社新報』445、9月5日《無署名》

重光ダレスの共同声明 海外派兵問題で紛糾起る[「時局展望」]『神社新報』446、9月12日<<無署名>>
“憂ふべき教科書の問題”政府与党と日教組の戦ひ[「時局展望」]『神社新報』447、9月19日<<無署名>>
日本社会党合同綱領なる 平和革命方式を検討する[「時局展望」]『神社新報』448、9月26日<<無署名>>
高山昇翁の追想－建碑式に際して－『神社新報』448、9月26日
アルゼンチンの反乱勝つ ペロン大統領国外へ亡命[「時局展望」]『神社新報』449、10月3日<<無署名>>
日ソ平和条約の重要点 南樺太と千島の領土問題[「時局展望」]『神社新報』450、10月17日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
保守党合同の先決条件は人事か政策か政治原理か[「時局展望」]『神社新報』451、10月24日<<無署名>>
ジュネーブ外相会議を前にモロトフ外相の自己批判[「時局展望」]『神社新報』452、10月31日<<無署名>>
憂ふべき教科書論の発展 篤学憂国の権威者にきけ[「時局展望」]『神社新報』453、11月7日<<無署名>>[『選集昭31年版』『時の流れ』収録]
マーガレット王女の非恋 英国民主制度と王室道徳[「時局展望」]『神社新報』454、11月14日<<無署名>>
砂川の闘争と左翼の思想[「時局展望」]『神社新報』455、11月21日<<無署名>>
自由日本放送の日本語論[「時局展望」]『神社新報』455、11月21日<<無署名>>
保守党合同いよいよ成る 二大政党制は保たれるか[「時局展望」]『神社新報』456、11月28日<<無署名>>
テレビ流行と書店新風景 健全な文明は守られるか[「時局展望」]『神社新報』457、12月5日<<無署名>>
戦後第二期学生の語る 天皇制・宗教・流行出版[「時局展望」]『神社新報』458、12月12日<<無署名>>
韓国日本漁民を暴圧す 自ら独立を危くするもの[「時局展望」]『神社新報』459、12月19日<<無署名>>
来年の参議院議員改選と宗教々団の政治進出気運[「時局展望」]『神社新報』460、12月26日<<無署名>>

1956(昭和31)年

死刑廃止法案国会へ提出 この法案の意味するもの[「時局展望」]『神社新報』463、1月28日<<無署名>>
社会党から不信任案提出 保守革新の本格的対決へ[「時局展望」]『神社新報』464、2月4日<<無署名>>
故人をしのぶ清楚な葬儀 人望のあった緒方竹虎氏[「時局展望」]『神社新報』465、2月11日<<無署名>>[『選集昭31年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

- 貧しい子にも高等教育を 貧しい病人にも文明の薬を[「時局展望」]『神社新報』466、2月18日<<無署名>>
- ソヴェート共産党大会でスターリンの權威を否定[「時局展望」]『神社新報』467、2月25日<<無署名>>[『選集昭31年版』『時の流れ』収録]
- 鳩山、鈴木の不可解ななぞ 春の労働攻勢への疑惑[「時局展望」]『神社新報』468、3月3日<<無署名>>
- 国会の政戦は進展する 予算案から選挙法案へ[「時局展望」]『神社新報』469、3月10日<<無署名>>
- 共産理論修正の波紋はモスクワの予期を越えて[「時局展望」]『神社新報』470、3月17日<<無署名>>[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]
- ダレス米國務長官の来日、米ソの外交戦は変貌する[「時局展望」]『神社新報』471、3月24日<<無署名>>
- ハバロスクの抵抗運動 祖国同胞へ切々たる訴へ[「時局展望」]『神社新報』472、4月7日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
- 右翼や旧軍人の中国視察 中共礼賛論の根拠は何か[「時局展望」]『神社新報』474、4月21日<<無署名>>
- コミンフォルム解散とモスクワの大胆な政策[「時局展望」]『神社新報』475、4月28日<<無署名>>
- 大資本の広告政策進展し中小企業者への圧迫加はる[「時局展望」]『神社新報』476、5月5日<<無署名>>
- 三笠宮殿下の御出版に激しい世論の抗議起る[「時局展望」]『神社新報』477、5月12日<<無署名>>
- 三瀧氏の神社宗教論に対して『神社新報』477、5月12日[『選集昭36年版』収録]
- 憲法記念日の街頭録音と米雑誌上の憲法問題要点[「時局展望」]『神社新報』478、5月19日<<無署名>>
- 李承晩韓国大統領に三選 独裁政権に不安動揺の兆[「時局展望」]『神社新報』479、5月26日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
- 議会政治を危くするもの 政党、組合、新聞の動き[「時局展望」]『神社新報』481、6月16日<<無署名>>
- 多久島事件の現代的意味 失はれた道徳的習慣の力[「時局展望」]『神社新報』482、6月23日<<無署名>>
- 沖縄の同胞は起ち上った 祖先の墓地はゴルフ場に[「時局展望」]『神社新報』483、6月30日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
- 告朔餼羊なほ存すー本紙十年念日に際しー[社説]『神社新報』484、7月7日<<無署名>>[「浦安の国」を目指して 明治維新の精神を継承して七十年][社説]『神社新報』2016年7月11日の指摘による]
- ボズナンの市民蹶起す 自由ポーランド人の決意[「時局展望」]『神社新報』485、7月14日<<無署名>>[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]
- 参議院へ社会党進出す 特殊な日本社会党の性格[「時局展望」]『神社新報』486、7月21日<<無署名>>
- 参議院改選と憲法問題[社説]『神社新報』487、7月28日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 毅然たる対ソ外交を望む 背後の虎などは有害無用[「時局展望」]『神社新報』487、7月28日<<無署名>>

西ドイツの徴兵法案成る なほ前途の難航予想さる[「時局展望」]『神社新報』488、8月4日<無署名>[『時の流れ』収録]

若々しい冒険家ナセル スエズ運河の国有を宣言[「時局展望」]『神社新報』489、8月11日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

日本国民の銘記すべきモスクワ交渉の会議記録[「時局展望」]『神社新報』490、8月18日<無署名>

権力の走狗か亡国の徒か 政党政治家の外交政策[「時局展望」]『神社新報』492、9月1日<無署名>

映画「日本かく戦へり」と観た人の所感さまざま[「時局展望」]『神社新報』493、9月15日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

太陽族映画の追放は当然 南方の少年の夢みる日本[「時局展望」]『神社新報』494、9月22日<無署名>

沖縄問題から千島問題へ 国民感情はめざめて来る[「時局展望」]『神社新報』495、9月29日<無署名>[『時の流れ』収録]

毛沢東の中華共和国と蒋介石の新台幣の近況[「時局展望」]『神社新報』496、10月6日<無署名>

横浜の不敵な行列と文芸春秋特集の天皇白書[「時局展望」]『神社新報』497、10月13日<無署名>

砂川基地の流血乱闘騒ぎ 無定見な政府、船田長官[「時局展望」]『神社新報』499、10月27日<無署名>[『選集昭36年版』 『時の流れ』収録]

東欧に高まる反抗の怒涛 ポーランドとハンガリー[「時局展望」]『神社新報』500、11月3日<無署名>[『選集昭36年版』 『時の流れ』 『50年史(下)』収録]

英仏海軍はエジプトへ ソ連赤軍はハンガリーへ[「時局展望」]『神社新報』501、11月10日<無署名>

ソヴェトの友、不信表明 国際共産戦線は動揺する[「時局展望」]『神社新報』502、11月17日<無署名>

臨時国会の外交論争とモスクワ権力者間の闘争[「時局展望」]『神社新報』503、11月24日<無署名>

小林健三氏著“現代神道の研究”を読む『神社新報』503、11月24日

臨時国会とスト規制法 政治活動とジャーナリズム[「時局展望」]『神社新報』504、12月1日<無署名>[『時の流れ』収録]

スポーツの外から見たメルボルンの国際競技[「時局展望」]『神社新報』505、12月8日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

共産国の温床の中に新しい自由反抗の思想[「時局展望」]『神社新報』506、12月15日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

保守党新総裁石橋湛山氏 党内派閥を解消し得るか[「時局展望」]『神社新報』507、12月22日<無署名>

1957(昭和32)年

新年の諸問題 新春座談会 教学—人事一般—昂揚資金『神社新報』508、1月5日[座談会：神社本庁講師小野祖教、同教学部長庄本光正、国大教授安津素彦、東郷神社宮司大貫良夫、(司会)西田編集長]

美空ひばり塩酸を浴びる 現代マスコミ文化の諸相[「時局展望」]『神社新報』510、1月26日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

アイク二期大統領に就任 中東政策に強い熱意示す[「時局展望」]『神社新報』512、2月9日<<無署名>>

紀元節復活論大いに高まる 国民思想の底流に対立[「時局展望」]『神社新報』514、2月23日<<無署名>>

*共産主義の後に来るもの『新勢力』[2-2、3]、2月、3月

国民の良識と宗教法人法の改正『瑞垣』32、3月15日

チャタレイ夫人の恋人に最高裁判所の判決下る／労働運動と独立の小業主[「時局展望」]『神社新報』517、3月23日<<無署名>>

共産党誌前衛に現れたる宗教利用政策とその理論[「時局展望」]『神社新報』518、3月30日<<無署名>>

司法警察制度の威信揺ぐ スパイ政策の宿命的矛盾[「時局展望」]『神社新報』519、4月6日<<無署名>>

列国は日本の声を無視して原爆戦準備へと急進する[「時局展望」]『神社新報』520、4月13日<<無署名>>

進歩派も伝統派も不満か 憲法改正広瀬試案発表さる[「時局展望」]『神社新報』521、4月20日<<無署名>>

ソ連に残るスターリン外交 チトー西欧社会主義へ接近[「時局展望」]『神社新報』522、4月27日<<無署名>>

米国地中海艦隊急行す 風雲急なるヨルダン政情[「時局展望」]『神社新報』523、5月4日 <<無署名>>

米ソの外交論争に見る独立の援助と内政の干渉[「時局展望」]『神社新報』524、5月11日<<無署名>>

紀元節で国会公聴会開く 社会党員の神宮天皇史論／神武景気に赤信号あがる 日本銀行の公定日歩値上げ[「時局展望」]『神社新報』525、5月18日<<無署名>>

春季闘争処分は有効か 財閥と類似する労働組合[「時局展望」]『神社新報』526、5月25日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

台北暴動背後の事情と事件の及ぼす波紋と影響[「時局展望」]『神社新報』528、6月8日<<無署名>>

中共治下の自由への動き 光明日報毛沢東を批判す[「時局展望」]『神社新報』529、6月22日<<無署名>>

米地上軍撤収の共同声明 逆説的に進む歴史の動き[「時局展望」]『神社新報』530、6月29日<<無署名>>

米軍事政策の転換に際して神道人と原水爆国防論[「時局展望」]『神社新報』531、532、7月6、13日<<無署名>>

中華革命と日本浪人—その思想と人を語る—『不二』12-6、7月25日[『選集2』収録]

ソ連のクーデターの政変と太平無事な岸内閣の改造[「時局展望」]『神社新報』534、7月27日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

全講連事件で社会党の決定 和田野溝の役員権を停止す[「時局展望」]『神社新報』535、8月3日<<無署名>>

署名》

総評第九回大会開かる 低い姿勢での戦術討議[「時局展望」]『神社新報』536、8月17日《無署名》

憲法調査会活動を開始す 名論愚説相競ふ憲法論議[「時局展望」]『神社新報』537、8月24日《無署名》

連ソ派シリヤを制圧す 中東の情勢微妙に緊張[「時局展望」]『神社新報』538、8月31日《無署名》

松永文相に知らせたい 教育勅語起草当時の苦心[「時局展望」]『神社新報』539、9月7日《無署名》

国際ペン大会開かる 乏しい自由精神の情熱[「時局展望」]『神社新報』540、9月14日《無署名》

黒人生徒の入学拒否騒ぎ 民主共和国アメリカの悲劇[「時局展望」]『神社新報』541、9月21日《無署名》

共産党員に渡されたもの ソ連の資金と警察の爆弾[「時局展望」]『神社新報』542、9月28日《無署名》

皇位と神宮『日本憲法確立同盟研究彙報』2-10、10月1日【(上)古代から帝国憲法時代まで、(下)神道指令と新憲法からのち】[『神宮と国家』<神社制度調査資料4>(神社本庁調査部、1957年11月30日)収録]

左翼学生運動と就職の門 教育者は無責任でないか[「時局展望」]『神社新報』543、10月5日《無署名》

五十年前から来たかった 訪日せるネールの第一声[「時局展望」]『神社新報』544、10月12日《無署名》

人工衛星地球をめぐるソ連社会の宿命的変動[「時局展望」]『神社新報』545、10月19日《無署名》[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]

トルコ・シリヤの紛争で米ソの外交極度に急迫す[「時局展望」]『神社新報』546、10月26日《無署名》

ロシア大革命四十年記念 暗い史実と輝しい業績と[「時局展望」]『神社新報』547、11月2日《無署名》

憲法委員会の秘密速記録 国民の前にすべて公表せよ[「時局展望」]『神社新報』548、11月9日《無署名》

ジューコフ元帥追放さる 複雑な情勢の変化を反映[「時局展望」]『神社新報』548、11月9日《無署名》

臨時国会での防衛論争とアイゼンハワアの特別放送[「時局展望」]『神社新報』549、11月16日《無署名》

科学教育の世界的潮流 法文偏重から工科重点へ[「時局展望」]『神社新報』550、11月23日《無署名》

米大統領の病状に憂色深し 難航する NATO 新方策[「時局展望」]『神社新報』551、12月7日《無署名》

東条大将等の戦犯処刑者 靖国神社へ合祀可否の論[「時局展望」]『神社新報』552、12月14日《無署名》[『選集昭36年版』『50年史(下)』収録]

百貨店の歳末風景の中で人民資本主義論争を思ふ[「時局展望」]『神社新報』553、12月21日《無署名》[『選集昭36年版』収録]

パリの NATO 会議終る 軍事科学と国家観の变革[「時局展望」]『神社新報』554、12月28日<<無署名>>

1958(昭和 33)年

解散が近づいても無風状態 社会党は何故に無力なのか[「時局展望」]『神社新報』556、1月18日<<無署名>>

那覇市長選で反米派勝つ 試験される米国の自由精神[「時局展望」]『神社新報』557、1月25日<<無署名>>

文字中心の出版文化から映像と音のテレビ文化へ[「時局展望」]『神社新報』558、2月1日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

統一アラブ国の建国成る 対ソ対米の外交関係など[「時局展望」]『神社新報』559、2月8日<<無署名>>

インドネシアの政局動揺す 疑惑を生んだ背後の国際関係[「時局展望」]『神社新報』560、2月15日<<無署名>>

国民の悲願を裏切って紀元節法案国会で難航[「時局展望」]『神社新報』561、2月22日<<無署名>>[『選集昭 36 年版』収録]

ロシヤ革命への新考察『不二』13-2、3、2月25日、3月25日

中共軍北鮮から撤退開始 日韓外交々々渉再び開かる[「時局展望」]『神社新報』562、3月1日<<無署名>>

神宮の制度改革を要望[「彙報」]『神道史研究』6-2、3月1日

紀元節復活の動き[「彙報」]『神道史研究』6-2、3月1日

大衆民主主義のよるめき 街頭録音放送と圧力団体[「時局展望」]『神社新報』563、3月8日<<無署名>>

国家対教会の国際ニュース ローマ法皇の政治的影響[「時局展望」]『神社新報』564、3月22日<<無署名>>

危機に瀕するフランスで唯一人の救国英雄を待望[「時局展望」]『神社新報』565、3月29日<<無署名>>[『選集昭 36 年版』『時の流れ』収録]

日本経済の根本的な転進 パイロットの用意はいいか[「時局展望」]『神社新報』566、4月5日<<無署名>>

フルシチョフの独裁成り核実験停止声明で攻撃[「時局展望」]『神社新報』567、4月12日<<無署名>>

千葉銀行問題で横銭発言 解散前の国会に黒雲現る[「時局展望」]『神社新報』568、4月19日<<無署名>>

日韓会談再開 前世紀の歴史を繰返すな[「時の流れ」]『神社新報』569、4月26日<<無署名>>

建国法案始末記 議会審議の真相を語る[「時の流れ」]『神社新報』570、5月3日<<無署名>>[『選集昭 36 年版』収録]

ソ連の権力闘争 近來の情報を分析する[「時の流れ」]『神社新報』571、5月10日<<無署名>>

激動する五月 仏国・ユーゴ・回教圏[「時の流れ」]『神社新報』572、5月24日<<無署名>>

衆議院選挙終る 紀元節派と反対派の行方[「時の流れ」]『神社新報』573、5月31日<無署名>

国法と宗教『神社新報』573、5月31日[『選集昭36年版』収録。小見出しを修正、一部を削除して、「続国法と宗教」(『神社新報』575、6月14日)とともに『国法と宗教』(<神社制度調査資料5>神社本庁調査部、1958年)収録]

ド・ゴール権力へ 伝説の英雄と現実の政治[「時の流れ」]『神社新報』574、6月7日<無署名>[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]

チトー傲然と反抗 共産主義修正と民族勢力[「時の流れ」]『神社新報』575、6月14日<無署名>

続国法と宗教『神社新報』575、6月14日[『選集昭36年版』収録。「国法と宗教」(『神社新報』573、5月31日)とともに『国法と宗教』(<神社制度調査資料5>神社本庁調査部、1958年)収録]

日教組大会混乱 教育労働者の良心を望む[「時の流れ」]『神社新報』576、6月21日<無署名>[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]

レバノンの内戦 ナセルは妥協し得るか[「時の流れ」]『神社新報』577、6月28日<無署名>

王朝終末の日から四十年 ロシアに流血政治つづく[「時の流れ」]『神社新報』578、579、7月5、12日<無署名>

イラクに革命起る アラブ民族主義の性格[「時の流れ」]『神社新報』581、7月26日<無署名>

共産党第七回大会 政治綱領案遂に流れる[「時の流れ」]『神社新報』582、8月9日<無署名>

国連緊急総会開く 八・一五の終戦から十三年[「時の流れ」]『神社新報』583、8月16日<無署名>

ナセル民族主義 内外の評論を展望する[「時の流れ」]『神社新報』584、8月23日<無署名>

国際外交の舞台裏 中東決議から核実験停止へ[「時の流れ」]『神社新報』585、8月30日<無署名>

登校拒否と謝罪使 社会党総評の動きを疑ふ[「時の流れ」]『神社新報』586、9月6日<無署名>

二十一億の懸賞金 日教組へ世論はきびしい[「時の流れ」]『神社新報』587、9月13日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

最近の黒人問題 人種感情は根強く残る[「時の流れ」]『神社新報』588、9月20日<無署名>

仏国共和制の命運 ドゴール憲法思想背景[「時の流れ」]『神社新報』589、9月27日<無署名>

台湾は誰の島か 八百万人民の意志に問へ[「時の流れ」]『神社新報』590、10月4日<無署名>[『選集昭36年版』『50年史(下)』収録]

総評日教組は本気か 投機ブローカーと革命運動[「時の流れ」]『神社新報』591、10月11日<無署名>

警察官職権法強化 議会政治を墓場に送るもの[「時の流れ」]『神社新報』592、10月18日<無署名>

米国放送の岸談話 巧い弁明より真剣な対論[「時の流れ」]『神社新報』593、10月25日<無署名>

独歩するド・ゴール 燕雀は大鳥の志を知らない[「時の流れ」]『神社新報』594、11月1日<白旗士郎>[『時の流れ』収録]

警職法で国論分裂 憂慮される政治闘争の激しさ[「時の流れ」]『神社新報』595、11月8日<無署名>[『選集昭36年版』収録]

政治権力の文学圧迫 バステルナークとバウンド[「時の流れ」]『神社新報』596、11月15日<無署名>

警職法廃案決まる 院外の大衆実力行動激化か[「時の流れ」]『神社新報』597、11月29日<<無署名>>
皇太子御婚約発表 街頭や職場での祝ひと祈り[「時の流れ」]『神社新報』598、12月6日<<無署名>>[『選集昭36年版』『時の流れ』収録]

マック元帥の怒り 権柄づくの民主主義教師[「時の流れ」]『神社新報』599、12月13日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

ソ連大使と社会党の会談 内政干渉への道を開くもの[「時の流れ」]『神社新報』599、12月13日<<無署名>>

裁判の社会的影響 西尾末広氏の無罪を祝ふ会[「時の流れ」]『神社新報』600、12月20日<<無署名>>

三笠宮の政治思想 宗教と学問と国民常識と[「時の流れ」]『神社新報』601、12月27日<<無署名>>

1959(昭和34)年

国家神道のために 明治・靖国への国民的崇敬『神社新報』602、1月3日[『選集昭36年版』収録]

ドゴール大統領に 仏国右翼政権の第二幕へ[「時の流れ」]『神社新報』603、1月17日<<無署名>>

党内分裂の動き 保守党社会党ともに動揺[「時の流れ」]『神社新報』604、1月31日<<無署名>>

ソ連共産党の大会 冷い政治史の意味するもの[「時の流れ」]『神社新報』605、2月7日<<無署名>>

在日朝鮮人帰国問題 一日も早く一人でも多く[「時の流れ」]『神社新報』606、2月14日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

皇太子の結婚の大波紋 宮中行事は国事か私事か『日本週報』473、2月15日<<矢島三郎>>[「東宮殿下の御成婚の波紋」と改題『神道の日本民族論』『みやびと覇権』、小野祖教『神道をめぐる憲法問題 冠婚葬祭は政教分離の外』(国学院大学小野教授研究室、1968年8月10日)収録]

国会で汚職追及 議論の徹底と判断の冷静と[「時の流れ」]『神社新報』607、2月21日<<無署名>>

象徴の抹殺を意図する流行評論の底流[「時の流れ」]『神社新報』608、2月28日<<無署名>>

学問自由の圧迫か 教育大学と高校の試験問題[「時の流れ」]『神社新報』609、3月7日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

ケストラーの抗議 日本ペンクラブの困惑[「時の流れ」]『神社新報』610、3月14日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

イラク反乱の背後 ソ連アラブ米英の駆引き[「時の流れ」]『神社新報』611、3月21日<<無署名>>

社会党外交の破綻 中立政策か対米闘争主義か[「時の流れ」]『神社新報』612、3月28日<<無署名>>

砂川の違憲判決 憲法問題の根本解決が緊要[「時の流れ」]『神社新報』614、4月11日<<無署名>>

皇太子旗は進む 御成婚の盛儀とマスコミ[「時の流れ」]『神社新報』615、4月18日<<無署名>>[『選集昭36年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

アデナウア首相敬遠されダレス長官も退く[「時の流れ」]『神社新報』616、4月25日<<無署名>>

国民思潮の曲りかど 東京等地方選で社会党連敗[「時の流れ」]『神社新報』617、5月2日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

神道指令の悪夢からさめよー神宮制度と戦争政策は無縁だー[「リレー論争 伊勢神宮はどうあるべきか」]『日本週報』482、5月15日

極左学生と共産党 党指導部、学生に手をやく[「時の流れ」]『神社新報』618、5月16日<<無署名>>
共産権力への不信 疑念は世界的にひろがる[「時の流れ」]『神社新報』619、5月23日<<無署名>>
ソ連作家同盟大会 フルシチョフの文学干渉か[「時の流れ」]『神社新報』620、5月30日<<無署名>>
神父と殺人事件 マスコミ対策を徹底せよ[「時の流れ」]『神社新報』621、6月6日<<無署名>>
社会党の後退現象 国民の冷淡さの原因は何か[「時の流れ」]『神社新報』622、6月13日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
西独学宰相の進退 権力の法則は冷徹である[「時の流れ」]『神社新報』623、6月20日<<無署名>>
政党人か官僚人か 岸内閣の改造評を批評す[「時の流れ」]『神社新報』624、6月27日<<無署名>>
日本国憲法と故人の立場[「時の流れ」]『神社新報』625、626、7月4、11日【(上)芦田均歿す、(下)金森博士歿す】<<無署名>>[『時の流れ』収録]
月給を二倍にする 岸・池田の経済政策を検討[「時の流れ」]『神社新報』627、7月18日<<無署名>>
伊勢神宮の制度改正に就て『不二』14-7、7月25日
安保条約改定の風雲 疑しい社会党の対ソ連観[「時の流れ」]『神社新報』629、8月1日<<無署名>>
訪ソせるニクソン 大いに米国的自由を説く[「時の流れ」]『神社新報』630、8月8日<<無署名>>
近ごろの皇室論『新勢力』4-8、8月15日
松川事件判決下る 思想闘争と公正なる裁判[「時の流れ」]『神社新報』631、8月22日<<無署名>>
急転は望めまい 米ソ両国首脳の相互訪問[「時の流れ」]『神社新報』632、8月29日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
社会党運動方針書 青年は情熱を感じ得ない[「時の流れ」]『神社新報』633、9月5日<<無署名>>
沖縄の日の丸の旗 新刑法と祖国復帰運動と[「時の流れ」]『神社新報』634、9月12日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
微笑と月ロケット 岐れ道の九月の内外潮流[「時の流れ」]『神社新報』635、9月19日<<無署名>>
独仏の青年と兵役 新しい世代に二つの流れ[「時の流れ」]『神社新報』636、9月26日<<無署名>>
平和共存の真消息 フルシチョフを迎へた米国人[「時の流れ」]『神社新報』637、10月3日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
社会党は動揺する マルクスの階級観の破綻[「時の流れ」]『神社新報』638、10月10日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
英国人の合理主義 ゲイツケル労働党首の悩み[「時の流れ」]『神社新報』639、10月17日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]
国際政局注目焦点となる台湾の歴史的な性格[「時の流れ」]『神社新報』640、10月31日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
熱田神宮近代史『神道史研究』7-6、11月1日
民主社会派の新党 現実派の強み・夢なき弱み[「時の流れ」]『神社新報』641、11月7日<<無署名>>
教育白書公表さる 感化力の乏しい最近の教員[「時の流れ」]『神社新報』642、11月14日<<無署名>>
斜陽産業石炭争議 好景気と危機産業の対照[「時の流れ」]『神社新報』643、11月21日<<無署名>>

政教分離思想の変遷 西独社会党の新綱領を見て[「時の流れ」]『神社新報』644、11月28日<<無署名>>

デモ国会を占拠す 社共の無能を暴露し学連暴走[「時の流れ」]『神社新報』645、12月5日<<無署名>>

国会周辺デモ禁止 日本社会主義戦線よろめく[「時の流れ」]『神社新報』646、12月12日<<無署名>>

大学当局の責任 年長者はずるくはないか[「時の流れ」]『神社新報』647、12月19日<<無署名>>

ベトナム賠償決定す 国会論議と国民感情のいづれ[「時の流れ」]『神社新報』648、12月26日<<無署名>>

最高裁の砂川判決[「時の流れ」]『神社新報』648、12月26日<<無署名>>

1960(昭和 35)年

日本経済の繁栄 道徳生活にも異論おこる『神社新報』649、1月2日<<白旗生>>

自民党に混乱の兆し 日中国交問題をめぐって[「時の流れ」]『神社新報』650、1月16日<<無署名>>

岸首相華府へ飛ぶ ソ連中共からの強力な宣伝[「時の流れ」]『神社新報』651、1月23日<<無署名>>

米国で岸株あがる 日米ジャーナリズムの開き[「時の流れ」]『神社新報』652、1月30日<<無署名>>

民主社会党結党す 新党綱領と日本の精神文化[「時の流れ」]『神社新報』653、2月6日<<無署名>>『選集昭 36年版』『時の流れ』収録]

孤立の巨人大統領 アルゼリヤ反乱鎮圧さる[「時の流れ」]『神社新報』654、2月13日<<無署名>>

軍歌を唱ふ高校生 少年は日教組に背を向ける[「時の流れ」]『神社新報』655、2月20日<<無署名>>『選集昭 36年版』収録]

法律論より政治論を 見識乏しい安保批准国会[「時の流れ」]『神社新報』656、2月27日<<無署名>>

神宮制度改正論 西村敬太郎氏への反論『神社新報』657、3月5日

社会・キリスト新聞 象徴論と神宮制度改正論と[「時の流れ」]『神社新報』658、3月12日<<白旗>>『時の流れ』収録]

炭労日教組の動揺 日本の労働運動は根が浅い[「時の流れ」]『神社新報』659、3月19日<<無署名>>

河上と浅沼の対決 いたる所で内紛と分裂の動き[「時の流れ」]『神社新報』660、3月26日<<無署名>>

南ア連邦の悲劇 国際世論の裏にひそむもの[「時の流れ」]『神社新報』661、4月2日<<無署名>>

三井三池の流血闘争 暴力を禁ぜよとの声高まる[「時の流れ」]『神社新報』662、4月9日<<無署名>>

韓国政府の転期 李承晩政権と馬山の暴動[「時の流れ」]『神社新報』663、4月23日<<無署名>>『選集昭 36年版』『時の流れ』収録]

李承晩と米国政府 韓国の政局は急転する[「時の流れ」]『神社新報』664、4月30日<<無署名>>

東京と京城のデモ 情勢展開の前途に未知数[「時の流れ」]『神社新報』665、5月7日<<無署名>>

パリ会議に黒雲 国際緊張の吹雪襲来か[「時の流れ」]『神社新報』666、5月14日<<無署名>>『選集昭 36年版』『時の流れ』収録]

パリ会談で成果なければソ連力の政策へ[「時の流れ」]『神社新報』667、5月21日<<無署名>>

学連首相官邸を襲ふ 怒号するフルシチョフ首相[「時の流れ」]『神社新報』668、5月28日<<無署名>>

名>[『選集昭 36 年版』 『時の流れ』 収録]

岸首相と井伊大老 アイク来日の六月十九日[「時の流れ」]『神社新報』669、6月4日<無署名>

二重政権の危機 総評ストから社党大会へ[「時の流れ」]『神社新報』670、6月11日<無署名>

六月十九日の試練 日本国の威信を守る一線[「時の流れ」]『神社新報』671、6月18日<無署名>[『時の流れ』 収録]

全学連の暴力勝つ 六・一五の流血から政変へ[「時の流れ」]『神社新報』672、6月25日<無署名>[『選集昭 36 年版』 『時の流れ』 『50 年史(下)』 収録]

The Shinto Directive and the Constitution— from the standpoint of a Shintoist—
『Contemporary Religions in Japan』 1-2、6月<Yoshihiko Ashizu>

警官の公正に信頼 女子学生の死んだ暴動など[「時の流れ」]『神社新報』673、7月2日<無署名>

熱病の六月が過ぎて 総選挙へ向つて政局進展[「時の流れ」]『神社新報』674、7月9日<無署名>[『時の流れ』 収録]

綜合雑誌八月号 PTA の母親、教授を叱る[「時の流れ」]『神社新報』675、7月16日<無署名>

精神的な米国外交 キューバ・コンゴ・RB 機問題[「時の流れ」]『神社新報』677、8月6日<無署名>

学生の帰郷運動 特権意識は信頼されない[「時の流れ」]『神社新報』678、8月13日<無署名>

新聞社の世論調査 池田内閣の人気はどうか[「時の流れ」]『神社新報』679、8月20日<無署名>

コンゴ黒人の怒り 人種平等論の先駆者日本[「時の流れ」]『神社新報』680、8月27日<無署名>

帝国主義論の修正 ソ連中共間の論争発展か[「時の流れ」]『神社新報』681、9月3日<無署名>[『時の流れ』 収録]

和蘭艦隊の入港断る 三流商人的の低姿勢外交[「時の流れ」]『神社新報』682、9月10日<無署名>

日本経済の成長力 所得倍加後の社会はどうか[「時の流れ」]『神社新報』683、9月17日<無署名>

黒人時代来る 日本人的文化主義への反省[「時の流れ」]『神社新報』684、9月24日<無署名>[『選集昭 36 年版』 収録]

群雄国連に集まる 議場をめぐる物情騒然[「時の流れ」]『神社新報』685、10月1日<無署名>

解散総選挙近づく 黒白の対決点を回避するな[「時の流れ」]『神社新報』686、10月8日<無署名>

国連議場で怒鳴る フルシチョフ演技の裏面[「時の流れ」]『神社新報』687、10月15日<無署名>

浅沼委員長斃る 右翼テロの起る心理的理由[「時の流れ」]『神社新報』688、10月29日<無署名>[『選集昭 36 年版』 『時の流れ』 『50 年史(下)』 収録]

右翼テロを語る テロへの恐怖はテロを誘ふ[「時の流れ」]『神社新報』689、11月5日<無署名>

山口二矢君の自決 新しい世代の心理を探る[「時の流れ」]『神社新報』690、11月12日<無署名>[『時の流れ』 収録]

米国新大統領決定 ケネディを勝たせたもの[「時の流れ」]『神社新報』691、11月19日<無署名>[『選集昭 36 年版』 収録]

総選挙を終って 保守対革新の比重は不変[「時の流れ」]『神社新報』692、11月26日<無署名>

朝野両党に望む 新国会の召集に際して[「時の流れ」]『神社新報』693、12月3日<無署名>

カストロ革命の波 米国新大統領の試金石か[「時の流れ」]『神社新報』694、12月10日<<無署名>>『選集昭36年版』収録]

老大統領と右翼 アルゼリヤ問題で決戦か[「時の流れ」]『神社新報』695、12月17日<<無署名>>

慰霊祭集会の自由 追想“短い二矢の生涯”など[「時の流れ」]『神社新報』696、12月24日<<無署名>>

1961(昭和36)年

国体護持のために『神社新報』697、1月7日[『選集昭36年版』収録]

米国の威信を回復 新大統領を待つ国際情勢[「時の流れ」]『神社新報』698、1月14日<<無署名>>

祈る心と怨む心と[「論説」]『神社新報』699、1月21日<<無署名>>[『神国の民の心』『昭和史を生きて』収録]

大衆的暗君の時代 池田内閣の予算編成進む[「時の流れ」]『神社新報』699、1月21日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

ニュー・フロンティア ケネディ新大統領就任す[「時の流れ」]『神社新報』700、1月28日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

S・マリヤは海賊か ポルトガル革命派の奇襲[「時の流れ」]『神社新報』701、2月4日<<無署名>>

右翼テロへの対策 政府とマスコミとの責任[「時の流れ」]『神社新報』702、2月11日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

民主教育者反省せよ 少年の間に燃え上る右翼[「時の流れ」]『神社新報』703、2月18日<<無署名>>[『選集昭36年版』収録]

コンゴ問題紛糾す 国際緊張を強める諸条件[「時の流れ」]『神社新報』704、2月25日<<無署名>>

専門知識人の発言 松平、飯守意見と俗説の対決[「時の流れ」]『神社新報』705、3月4日<<無署名>>

維新と右翼『新勢力』6-3、3月5日

左翼の暴力理論横行 飯守発言を再び弁護す[「時の流れ」]『神社新報』706、3月11日<<無署名>>

アイヒマンの裁判 文明下の恐るべき人種偏見[「時の流れ」]『神社新報』707、3月18日<<無署名>>

台湾人は一民族か 内政問題か植民地問題か[「時の流れ」]『神社新報』708、3月25日<<無署名>>

ラオス特別教書 ケネディ外交新路線難航す[「時の流れ」]『神社新報』709、4月1日<<無署名>>

呆れた中共渡航者 中国の一省になりたい話[「時の流れ」]『神社新報』710、4月8日<<無署名>>[『選集昭41年版』『50年史(下)』収録]

天皇論注目せらる 憲法調査会報告書を作る[「時の流れ」]『神社新報』711、4月15日<<無署名>>

神社神道の問題点『不二』16-3、4月25日[座談会：安津素彦、影山正治]

キューバ進攻惨敗 米国の政策決定に不統一か[「時の流れ」]『神社新報』712、4月29日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

ド・ゴールの威厳 軍部への粛清は消極的か[「時の流れ」]『神社新報』713、5月6日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

ケネディの苦心 国際政治闘争と内政干渉[「時の流れ」]『神社新報』714、5月13日<<無署名>>

日本共産党綱領案 時代おくれの独断的論法[「時の流れ」]『神社新報』715、5月20日<<無署名>>

流血なき武力革命 軍ファッション権力を獲得す[「時の流れ」]『神社新報』716、5月27日<<無署名>>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]

近代思想史の一側面『新勢力』6・6、6月5日

東京クルセード 社会新報の非難は当らぬ[「時の流れ」]『神社新報』717、6月3日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

政治暴力防止法案 デモの季節が来て世情騒然[「時の流れ」]『神社新報』718、6月10日<<無署名>>

韓国革命の前途 日本青年将校との精神的関連[「時の流れ」]『神社新報』719、6月17日<<無署名>>

池田首相渡米す ケネディの問ひ質したい事[「時の流れ」]『神社新報』720、6月24日<<無署名>>

日本経済の高度成長 歴史の因果は微妙である[「時の流れ」]『神社新報』721、7月1日<<無署名>>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]

日本経済の高度成長 歴史の因果は微妙である[「時の流れ」]『神社新報』722、7月8日<<無署名>>

韓国革命前進す 日本人米国人の無理な評価[「時の流れ」]『神社新報』723、7月15日<<無署名>>

人類死滅の予言 ベルリンの風雲いよいよ急[「時の流れ」]『神社新報』725、8月5日<<無署名>>

ソ連共産党新綱領 羊頭を掲げて狗肉を売る[「時の流れ」]『神社新報』726、8月12日<<無署名>>

フルシチョフの憂念 戦後最大の危機的局面迫る[「時の流れ」]『神社新報』727、8月19日<<無署名>>

ミコヤンの商談 東京市民の表情は冷い[「時の流れ」]『神社新報』728、8月26日<<無署名>>

貧乏漁船を襲ふ ソ連政府の暴戾な実行使[「時の流れ」]『神社新報』729、9月2日<<無署名>>

核爆発実験の波紋 進歩的中立主義者動揺す[「時の流れ」]『神社新報』730、9月9日<<無署名>>

満州事変から三十年 権威ある現代史の研究を! [「時の流れ」]『神社新報』731、9月16日<<無署名>>

国連総会開かる 中共参加承認論の検討[「時の流れ」]『神社新報』732、9月23日<<無署名>>

臨時国会の論戦展望 経済政策と武州鉄道事件と[「時の流れ」]『神社新報』733、10月7日<<無署名>>

国体と米国大使 ライシャワー博士のはなし[「時の流れ」]『神社新報』734、10月14日<<無署名>>

憲法調査会傍聴記 大石、中曽根委員の国体観[「時の流れ」]『神社新報』735、10月21日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

台湾小史『台湾青年』11、12、10月25日、11月25日<<朱望南>>[鈴木満男『「帝国の知」の喪失』(展転社、1999年)p.93、参照]

スターリンの亡霊 ソ連共産党22大会の陰に[「時の流れ」]『神社新報』736、10月28日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

賃金体系は変わる 明日の日本人社会への宿題[「時の流れ」]『神社新報』737、11月4日<<無署名>>

ソ連党大会の裏 フルシチョフ首相も不安か[「時の流れ」]『神社新報』738、11月11日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

池田、朴の日韓会談 社会党は非常識にすぎる[「時の流れ」]『神社新報』739、11月18日<<無署名>>

北方領土の往復書簡 亡国の民とならぬ最後の線[「時の流れ」]『神社新報』740、11月25日<<無署名>>

憲法と君主制『不二』16-9、11月25日

フルシチョフ路線 その前途は安定しがたい[「時の流れ」]『神社新報』741、12月2日<<無署名>>

12月8日の歴史 書き改めねばならぬこと[「時の流れ」]『神社新報』742、12月9日<<無署名>>

ケネディ対ソ談話 ソ連新聞政策は変貌する[「時の流れ」]『神社新報』743、12月16日<<無署名>>

クーデターとは何か 新聞の記事論評には混乱[「時の流れ」]『神社新報』744、12月23日<<無署名>>

1962(昭和37)年

国体意識の広さ深さを－明治維新史家への希望－『神社新報』745、1月6日[『選集昭41年版』収録]

植民地解放へ反発 印度、ポルトガル紛争の波紋[「時の流れ」]『神社新報』746、1月13日<<無署名>>

パステルナークの復活とモロトフのウイーン帰任[「時の流れ」]『神社新報』747、1月20日<<無署名>>

国民統合の象徴－万邦無比の国体－『不二』17-1、1月25日

筆者あとがき『不二』17-1、1月25日

中共社会党の共同声明 直接同盟軍の中立政策? [「時の流れ」]『神社新報』748、1月27日<<無署名>>

韓国の革命裁判 米人は東洋を理解しにくい[「時の流れ」]『神社新報』749、2月3日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

アジアの解放と神道日本『新勢力』7-2、2月5日[『近代政治と良心問題』付録に収録した旧稿の改訂・補筆]

ソ連首相亡霊に悩む トロツキー夫人の葬儀[「時の流れ」]『神社新報』750、2月10日<<無署名>>

ケネディ長官と学生 ニュー・フロンティア精神[「時の流れ」]『神社新報』751、2月17日<<無署名>>

OAS 反対運動 フランスの微妙な危機状況[「時の流れ」]『神社新報』752、2月24日<<無署名>>

天皇制と宗教人 中外日報の連載を読んで[「時の流れ」]『神社新報』753、3月3日<<無署名>>

アルゼリアで停戦 ドゴールの OAS 対策は[「時の流れ」]『神社新報』754、3月10日<<無署名>>

憲法変遷政策論 マッカーサー憲法延命策から[「時の流れ」]『神社新報』755、3月17日<<無署名>>

韓国の追放政策 米国もソ連も非難できない[「時の流れ」]『神社新報』756、3月24日<<無署名>>

明治維新の精神的温床－江戸時代の国体意識－『不二』17-3、3月25日

国民統合の象徴[「特集・天皇制」]『思想の科学[第5次]』1、4月1日[『みやびと覇権』『日本の君主制』、杉原誠四郎・大原康男編『昭和から平成への天皇論』<『現代のエスプリ』280>(至文堂、1990年11月1日)、『選集1』収録、要約版英語訳(A Symbol of National Unity『Journal of Social and Political ideas in Japan』1-2, August 1963)は『神道的日本民族論』収録]

共和革命の独裁者と帝王思想『新勢力』7-3・4、4月5日[「共和革命の独裁者と帝王意識」と改題『日本の君主制』収録、同書からさらに加筆補正し「帝王、大統領、独裁者－その底流をなす社会心理－」と改題『天皇 日本人の精神史』収録]

政治への武力干渉 内乱クーデター頻りに起る[「時の流れ」]『神社新報』757、4月7日<<無署名>>

天皇制講座『神社新報』757～770、773、774、4月7、14、21、28日、5月5、12、19、26日、6月2、9、16、23日、7月7、14日、8月4、11日【国の体質、国体は変わったか(1、2)、象徴と主権在民(1、2)、天皇制と民主主義(1、2)、君主世襲について、天皇と戦争責任、帝国憲法下の天皇政治(1、2)、天皇と神道(1、2)、天皇と信教自由、皇室の神道信仰、天皇と神道信仰】

占領政策是正の歩み 講和発効の日から満十年[「時の流れ」]『神社新報』758、4月14日<<無署名>>

天皇制への疑問と回答『不二』17-4、4月25日【1 天皇制は戦争の原因か、2 天皇の戦争責任はどうか、3 国体と天皇の関係はどうか、4 終戦で国体は変わったのか、5 主権在民と天皇の関係はどうか、6 天皇が存在しなくても、日本はやってゆけるか、7 君主制の衰退は世界史の法則か、8 天皇と神道は不可分か、9 天皇にも信教の自由があつてよいのではないか、10 熱心な皇室尊崇は皇室の御迷惑か、11 皇族は国民の税金で贅沢をして居るのか、12 日本の国体は資本主義的か社会主義的か】[加筆・補足して『天皇制への疑問と解答』(内外維新研究所、1962年6月15日)刊、『国体問答』と題して刊(神社新報社、1962年6月15日)刊]

サラン捕縛さる 地下組織の底力とその打撃[「時の流れ」]『神社新報』760、4月28日<<無署名>>

憲法記念の日に 暗室の秘密記録公開を望む[「時の流れ」]『神社新報』761、5月5日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

西欧の政治統合 果して民族国家の終末か[「時の流れ」]『神社新報』762、5月12日<<無署名>>

真相を徹底究明せよ 中央公論所載の天安門事件[「時の流れ」]『神社新報』763、5月19日<<無署名>>

政府の外交的見識 米軍のタイ国出動に際して[「時の流れ」]『神社新報』764、5月26日<<無署名>>

旅行記と戦記文学 戦後理論の修正を要求する[「時の流れ」]『神社新報』765、6月2日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

明治維新と国体意識『新勢力』7-6<『明治維新研究 第一集』>、6月5日[『明治維新と東洋の解放』収録、「維新史における天皇意識」と改題『永遠の維新者』収録]

文明の裁判か報復か アイヒマンの死刑執行[「時の流れ」]『神社新報』766、6月9日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

愚連隊化した全学連[「時の流れ」]『神社新報』766、6月9日<<無署名>>

サランとジュオー 戦国時代を思はせる現象[「時の流れ」]『神社新報』767、6月16日<<無署名>>

創価学会と社会党 参議院選挙一票の動き[「時の流れ」]『神社新報』768、6月23日<<無署名>>

前田虎雄大人を想ふ[「忘れ得ぬ人・追悼」]『新勢力』7-7、7月5日[「忘れ得ぬ人—前田虎雄大人を想う」と改題『武士道—戦闘者の精神』収録]

大学管理制度改革 反対論者は概ね時代おくれ[「時の流れ」]『神社新報』769、7月7日<<無署名>>

創価学会の新社会主義 共産党社会党との対決点[「時の流れ」]『神社新報』770、7月14日<<無署名>>

新週刊の愛国論 山口二矢と浅沼稻次郎と[「時の流れ」]『神社新報』772、7月28日<<無署名>>

明治維新とナショナリズム[「明治天皇五十年祭」]『神社新報』772、7月28日

草むすかばね公演 新世代は何を学びとるか[「時の流れ」]『神社新報』773、8月4日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

現実的な核戦争論 大型より小型の進歩が危い[「時の流れ」]『神社新報』774、8月11日<<無署名>>

世界平和大会の混乱 ソ連権力への態度さまざま[「時の流れ」]『神社新報』775、8月18日<<無署名>>

太平洋横断の勇士 海国日本の英雄ではあるが[「時の流れ」]『神社新報』776、8月25日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

宗教と政治—創価学会の前進—『宗教公論』32-7、9月1日

臨時議会の討論 なぜ国民の関心がないか[「時の流れ」]『神社新報』777、9月1日<<無署名>>

乃木将軍を追慕す 往年の記録を読み返して[「時の流れ」]『神社新報』778、9月8日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

ジャカルタの激情 文明的で亡国的な日本人[「時の流れ」]『神社新報』779、9月15日<<無署名>>

労働者の意識調査 青年の社会党不信増加す[「時の流れ」]『神社新報』780、9月22日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

憲法調査最終公聴会 現憲法は不磨の大典でない[「時の流れ」]『神社新報』781、10月6日<<無署名>>

米国南部の反抗 大統領は勝ったか負けたか[「時の流れ」]『神社新報』782、10月13日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

共和制の危機とは ドゴールの憲法改正案[「時の流れ」]『神社新報』783、10月20日<<無署名>>

江田理論の強み弱み 四つの流行商品の詰合せ[「時の流れ」]『神社新報』784、10月27日<<無署名>>

武断政策の展開 大国と小国は全く異なるか[「時の流れ」]『神社新報』785、11月3日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

韓国で憲法改正 隣国の動きに注目せよ[「時の流れ」]『神社新報』786、11月10日<<無署名>>

フルシチョフ後退 共産戦線の動揺ひろがる[「時の流れ」]『神社新報』787、11月17日<<無署名>>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]

主権国家と社会主義—清水幾多郎と岡本清—[「時の流れ」]『神社新報』788、11月24日<<無署名>>

日韓会談反対の論 進歩派理論の貧弱さ露呈す[「時の流れ」]『神社新報』789、12月1日<<無署名>>

明治新政府に対する抵抗の思想『新勢力』7-12<<『明治維新研究第二集』>>、12月5日[「明治新政权に対する抵抗の潮流」と改題『明治維新と東洋の解放』、「明治新政权にたいする抵抗の思想と潮流」と改題『永遠の維新者』収録]

ドゴール憲法成る 民主国に異例の強大な権力[「時の流れ」]『神社新報』790、12月8日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

社会主義修正時代か イタリア共産党日本社会党[「時の流れ」]『神社新報』791、12月15日<<無署名>>

赤穂義士と家康公 社会の人気と時の流れ[「時の流れ」]『神社新報』792、12月22日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]

1963(昭和38)年

続・国民統合の象徴『思想の科学[第5次]』10、1月1日

紀元節制定の話 神武創業の始に還れ『神社新報』793、1月5日

正月の新聞を見て 国旗、国歌、憲法と憂国の情[「時の流れ」]『神社新報』794、1月12日<<無署名>>

宋将軍の反政府声明 韓国の民政移行に波乱か[「時の流れ」]『神社新報』795、1月19日<<無署名>>

主権国家と戦争と 中央公論二月号の特集[「時の流れ」]『神社新報』796、1月26日<無署名>
中ソ論争の波紋 日本共産党の動揺つづく[「時の流れ」]『神社新報』797、2月2日<無署名>[『時の流れ』収録]
明治思想史における右翼と左翼の源流『新勢力』8-2<『明治維新研究第三集』>2月5日[「明治における右翼と左翼の源流」と改題『明治維新と東洋の解放』『選集2』収録。大幅に加筆して「明治思想史における右翼と左翼の源流—中江兆民、頭山満、幸徳秋水、内田良平」と改題『武士道—戦闘者の精神』『選集2』収録]
韓国民主共和党 民政移行まで波乱は多い[「時の流れ」]『神社新報』798、2月9日<無署名>
紀元節と商業新聞—毎日、東京、読売等を見て [「時の流れ」]『神社新報』799、2月16日<無署名>
春季闘争の問題点 公企業の主人は国民だ[「時の流れ」]『神社新報』800、2月23日<無署名>
ソ連の文化論争 エレンブルグ弁明の効果[「時の流れ」]『神社新報』801、3月2日<無署名>
朴議長後退を声明す 韓国人の力か米国の圧力か[「時の流れ」]『神社新報』802、3月9日<無署名>
週刊誌の皇室記事 許しがたい非礼の長編小説[「時の流れ」]『神社新報』803、3月16日<無署名>[『選集昭41年版』収録]
学連闘士のその後 レーニン主義の鬼子たち[「時の流れ」]『神社新報』804、3月23日<無署名>
『大東合邦論』と日韓合邦『不二』18-3、3月25日[『選集2』収録]
流動する韓国政情 前途暗く悲劇の様相深し[「時の流れ」]『神社新報』805、4月6日<無署名>
雑誌批評政治と宗教 大法輪中央公論自由から[「時の流れ」]『神社新報』807、4月20日<無署名>
ボス政治と現職優位 地方自治選挙の成果を見て[「時の流れ」]『神社新報』808、4月27日<無署名>
戦争映画と西部劇—少年の永遠のあこがれ—[「時の流れ」]『神社新報』809、5月4日<無署名>
[「編集者への書簡」]『新勢力』8-5、5月5日
終身独裁者の引退 フルシチョフ誕生日の暗示[「時の流れ」]『神社新報』810、5月11日<無署名>
米潜水艦の寄港問題 反対の科学者に聞きたい[「時の流れ」]『神社新報』811、5月18日<無署名>
[『選集昭41年版』収録]
中ソの理論闘争 理論よりも政治力で決まる[「時の流れ」]『神社新報』812、5月25日<無署名>
社会主義憲法論争 護憲主義か社会主義か[「時の流れ」]『神社新報』813、6月1日<無署名>
戦没者追悼の国家儀式[「論説」]『神社新報』814、6月8日<無署名>[『新勢力』8-7、7月5日に転載]
マレーシア新連邦 スカルノ・ラーマン東京会談[「時の流れ」]『神社新報』814、6月8日<無署名>
大逆事件の再審を 衆議院の法務委員会で検討[「時の流れ」]『神社新報』815、6月15日<無署名>
明治神宮の野球場 国家神道的感情の根強さ[「時の流れ」]『神社新報』816、6月22日<無署名>[『選集昭41年版』収録]
戦没者追悼の国家儀式[巻頭言]『新勢力』8-7、7月5日[『神社新報』814、1963年6月8日から転載]
昭和初期維新思想の諸流派『新勢力』8-7、7月5日[「昭和維新の思想的諸潮流—橋本欣五郎、井上日召、北一輝」と改題『武士道—戦闘者の精神』収録]

- 決定的な中ソ対立 中共の自信はソ連より強い[「時の流れ」]『神社新報』817、7月6日<無署名>
 横着な党利計算 陳情団社会党へ集まる[「時の流れ」]『神社新報』818、7月13日<無署名>
 越南仏教徒の抗議 はたして宗教闘争なのか[「時の流れ」]『神社新報』819、7月20日<無署名>
 頭山満・孫文最後の会談－孫文の大アジア主義の講演の真意と満蒙問題に対する中国革命党の態度
 『日本及日本人』14・3、8月1日
 大東亜戦争の思想的性格『神社新報』821～823、8月3、10、17日[『選集昭41年版』収録]
 党人政治家河野一郎 放火事件後の所感を語る[「時の流れ」]『神社新報』821、8月3日<無署名>[『選
 集昭41年版』収録]
 維新の精神と東洋の解放－日本ナショナリズムの発展－『新勢力』8・8<『明治維新研究第四集』>
 8月5日[「日本の浪人と中国革命」と改題『明治維新と東洋の解放』『選集2』収録]
 モスクワ核停止条約 原水禁世界大会でも紛糾か[「時の流れ」]『神社新報』822、8月10日<無署名>
 俗説平和論の破綻 中ソ論争から倉橋放言まで[「時の流れ」]『神社新報』823、8月17日<無署
 名>[『時の流れ』収録]
 三大新聞の時論 朝日毎日読売の連載論文[「時の流れ」]『神社新報』824、8月24日<無署名>
 これが右翼だ『論争』27、9月1日
 越南政局の激動 与党デモ反米氣勢を示す[「時の流れ」]『神社新報』825、9月7日<無署名>
 米国の対東洋政策 韓国越南の苦しい歩み[「時の流れ」]『神社新報』826、9月14日<無署名>[『選
 集昭41年版』『時の流れ』収録]
 中国・ソ連の戦ひ 毛沢東・フルシチョフの優劣[「時の流れ」]『神社新報』827、9月21日<無署
 名>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]
 解散は近づいたが高まらぬ国民の政治的関心[「時の流れ」]『神社新報』828、9月28日<無署名>
 池田新外交の姿勢 インドネシアとマレーシア[「時の流れ」]『神社新報』829、10月5日<無署名>
 自由と独裁の間 韓国とベトナムの選挙戦[「時の流れ」]『神社新報』830、10月12日<無署名>
 帝国軍人の文書 近刊の出版や雑誌から[「時の流れ」]『神社新報』831、10月19日<無署名>
 朴大統領に当選す 次の国会総選挙で民政へ[「時の流れ」]『神社新報』832、10月26日<無署名>
 天皇と日本的民主思想『世界と日本』3・11、11月1日
 ナショナリズムの栄光と悲劇－大東亜戦争前史－『論争』5・9、11月1日
 満洲事変から大東亜戦争へ『新勢力』8・11<『明治維新研究第五集』>11月5日[『明治維新と東
 洋の解放』『近代民主主義の終末』『選集2』収録]
 サイゴンの兵変 米国・強硬重圧政策を示す[「時の流れ」]『神社新報』833、11月9日<無署名>[『時
 の流れ』収録]
 熱のない総選挙 三分一勢力で奇妙な停滞[「時の流れ」]『神社新報』834、11月16日<無署名>
 台所への奉仕競争 総選挙に俗流政論横行す[「時の流れ」]『神社新報』835、11月23日<無署名>
 総選挙投票の分析[「時の流れ」]『神社新報』836、11月30日<無署名>
 ケネディ大統領暗殺さる 国際政治闘争のきびしさ[「時の流れ」]『神社新報』836、11月30日<無

署名〉

[ハガキ・アンケート「大東亜戦争をどおみるか」]『思想の科学』21、12月1日

読者の批判に答える 山本氏の右翼論へ『論争』30、12月1日

故ケネディの真姿 ニュー・フロンティア論[「時の流れ」]『神社新報』837、12月7日〈無署名〉[『選集昭41年版』『50年史(下)』収録]

大戦から二十二年 今年のマスコミの一風潮[「時の流れ」]『神社新報』838、12月14日〈無署名〉

国際ニュース回顧 忘恩の遺産相続人ソ連首相[「時の流れ」]『神社新報』839、12月21日〈無署名〉

1964(昭和39)年

反動的浪人の根性 黒田藩のしものと後藤又兵衛基次の気概『日本及日本人』15・1、1月1日

昭和三十九年新春の論 天皇陛下を仰いで神宮式年御遷宮の準備を『神社新報』840、1月4日[『時の流れ』収録]

人種問題の重大化 周恩来陳毅アフリカを歴訪[「時の流れ」]『神社新報』841、1月11日〈無署名〉

パナマ国交断絶 米国の明暗二つの側面[「時の流れ」]『神社新報』842、1月18日〈無署名〉

東京会談一步前進 ケネディ池田スカルノ会談[「時の流れ」]『神社新報』843、1月25日〈無署名〉

ドゴール中共承認 ソ連も米国も共に困惑か[「時の流れ」]『神社新報』844、2月1日〈無署名〉

見識ない池田首相 憲法問題でも外交問題でも[「時の流れ」]『神社新報』845、2月8日〈無署名〉

朝日新聞の騒動 新聞人の志と見識について[「時の流れ」]『神社新報』846、2月22日〈無署名〉

現代日本の派閥闘争 保守派でも革新派でも[「時の流れ」]『神社新報』847、2月29日〈無署名〉

東洋制覇の非望—アジアに於ける米帝国主義の分析—『新勢力』9・3、3月5日[討論会：西田広義、毛呂清輝]

モスクワの裁判 ソ連最近の犯罪ニュース[「時の流れ」]『神社新報』848、3月7日〈無署名〉

新華社の北京放送 日本社会党へ内政干渉か[「時の流れ」]『神社新報』849、3月14日〈無署名〉

靖国神社と占領政策 社会党政策審議会の誤り『神社新報』849、3月14日[『選集昭41年版』収録]

労働組合と暗黒街 ホッフアに有罪判決下る[「時の流れ」]『神社新報』850、3月21日〈無署名〉

伊勢神宮と占領政策 故岸本博士の回顧録を見て『神社新報』850、3月21日[『選集昭41年版』『遷宮論集 第六十一回神宮式年遷宮記念』(神社本庁、1995年)収録]

日韓交渉進展す 外交批判には深い考慮を[「時の流れ」]『神社新報』851、3月28日〈無署名〉

韓国学生の示威運動 反日的偏見を放棄せよ[「時の流れ」]『神社新報』852、4月4日〈無署名〉[『選集昭41年版』『50年史(下)』収録]

赤色大帝国分裂す 米国制覇圏にも動揺か[「時の流れ」]『神社新報』853、4月11日〈無署名〉[『選集昭41年版』収録]

総評春期闘争雑評 政府与党政治家への希望も[「時の流れ」]『神社新報』854、4月18日〈無署名〉

四・一七ストの中止 社会系総評と共産系の闘争[「時の流れ」]『神社新報』855、4月25日〈無署名〉

- 護憲デモの予定 マッカーサー憲法の迷信[「時の流れ」]『神社新報』856、5月2日<無署名>
- 国民は自衛隊に何を期待する「一旦緩急アレバ義勇公に奉ズ」は生きている『新勢力』9-5、5月5日<矢島三郎>
- 自衛の存在理由『新勢力』9-5、5月5日
- 最後の心情・兆銘 王精衛の遺書公表せらる[「時の流れ」]『神社新報』857、5月9日<無署名>
- 自由党の七月大会 政権移行を決するもの[「時の流れ」]『神社新報』858、5月23日<無署名>
- 憲法調査会報告近し 国は決定なき調査会の無力[「時の流れ」]『神社新報』859、5月30日<無署名>
- ネール首相を悼む 東洋の精神と西欧の理知[「時の流れ」]『神社新報』860、6月6日<無署名>[『選集昭41年版』『50年史(下)』収録]
- 韓国の学生騒擾 政治的心理的底流を見る[「時の流れ」]『神社新報』861、6月13日<無署名>
- 真木和泉守を想ふ[「元治元年から百年」]『神社新報』861~863、6月13、20、27日
- 戦略思想の変遷 齒切れわるい志賀理論[「時の流れ」]『神社新報』862、6月20日<無署名>
- 宰相池田勇人論 経済合理主義の政治理念[「時の流れ」]『神社新報』863、6月27日<無署名>
- 明治維新と憲法改正運動の方向一國是を決定する国民的大潮流を生み出せー『世界と日本』4-7、7月1日
- 禁門の変前後『新勢力』9-7、7月5日[思想の科学研究会編『共同研究 明治維新』(徳間書店、1967年11月15日)、『永遠の維新者』『選集2』収録]
- 中共の核武装に反対 アジアの列国を共同戦線に[「時の流れ」]『神社新報』877、10月17日<無署名>
- ソ連政変の波紋 中共の威圧外交進出か[「時の流れ」]『神社新報』878、10月24日<無署名>[『選集昭41年版』収録]
- 中共核爆発の効果 アジア諸国をおびやかす[「時の流れ」]『神社新報』878、10月24日<無署名>[『選集昭41年版』収録]
- 国際共産戦線動揺す フルシチョフ追放の因果[「時の流れ」]『神社新報』879、10月31日<無署名>
- 考へたい諸条件『神道宗教』37、10月31日
- 池田首相辞任表明 オリンピック大会を終って[「時の流れ」]『神社新報』880、11月7日<無署名>
- 周恩来首相の圧力 北京モスクワとローマの間[「時の流れ」]『神社新報』881、11月14日<無署名>
- 佐藤新首相の談話 政治家に一片の節義なきか[「時の流れ」]『神社新報』882、11月21日<無署名>[『選集昭41年版』収録]
- 彭真等の来日希望 共産国は思想宣伝戦に弱い[「時の流れ」]『神社新報』883、11月28日<無署名>
- 日本の近代化とナショナリズム『季刊社会科学』5、11月
- スタンレービル作戦 人種差別は米人の弱み[「時の流れ」]『神社新報』884、12月5日<無署名>
- 猪俣敬太郎著「中野正剛の生涯」を読む『新勢力』9-12、12月5日
- 佐藤首相の渡米 ベトナム問題の忠告を[「時の流れ」]『神社新報』885、12月12日<無署名>
- 風雨強かるべし 昭和三九年から四〇年へ[「時の流れ」]『神社新報』886、12月19日<無署名>

1965(昭和 40)年

明治維新の思想と現代の課題『世界と日本』5-1、2、1月1日、3月1日

アジア近代化政策に対し日本人の対米忠告『神社新報』887、1月2日[『選集昭41年版』収録]

維新問答『新勢力』10-1、1月5日【維新とは何か、現憲法と安保体制、経済も文化も外国依存、政策よりも見識を、維新と日本伝統の文化、憲法と国体と維新、米国アジア政策の破綻、日本の独立、維新の時】[「統・維新問答」を追捕して、永淵一郎編『現代維新の思想』(経済往来社、1970年5月30日)収録]

朝日、毎日の海外情報 サイゴン・ジャカルタから[「時の流れ」]『神社新報』888、1月16日<無署名>

戦後進歩思想の清算 二十年の歩みを顧みて[「時の流れ」]『神社新報』889、1月23日<無署名>

神武天皇紀元論 紀元節奉祝運動のために[「時の流れ」]『神社新報』890、1月30日<無署名>

佐藤外交の問題点 北京の野望に対決せよ[「時の流れ」]『神社新報』891、2月6日<無署名>

国際連合への挑戦 毛沢東とドゴールの合流[「時の流れ」]『神社新報』892、2月13日<無署名>

米軍の爆撃作戦 決戦か撤退かの決断せまらる[「時の流れ」]『神社新報』893、2月20日<無署名>

三矢研究は必要 それは職務上の義務である[「時の流れ」]『神社新報』894、2月27日<無署名>[『選集昭41年版』収録]

マルコム X の暗殺 米国黒人問題の根の深さ[「時の流れ」]『神社新報』895、3月6日<無署名>

野生的米国の決意 八方美人的調停論は無駄[「時の流れ」]『神社新報』896、3月13日<無署名>[『選集昭41年版』収録]

ソ連中共の激論 モスクワ・デモの底の流れ[「時の流れ」]『神社新報』897、3月20日<無署名>[『選集昭41年版』収録]

マスコミの対米偏見 ベトナム危機について[「時の流れ」]『神社新報』898、3月27日<無署名>[『選集昭41年版』収録]

中ソの義勇兵論 その背後に指導権の争ひ[「時の流れ」]『神社新報』899、4月3日<無署名>

日韓会談終点へ 十有三年の長期交渉の後に[「時の流れ」]『神社新報』900、4月10日<無署名>

所有する者の資格[「談話室」]『精神科学』19-4、4月10日

米国大統領の演説 複雑化して来た国際駆け引き[「時の流れ」]『神社新報』901、4月17日<無署名>

韓国政府の試金石 学生の暴走を止め得るか[「時の流れ」]『神社新報』902、4月24日<無署名>

明治百年と戦後二十年 敗戦民主主義のなやみ[「時の流れ」]『神社新報』903、5月1日<無署名>

毎日朝日の対米抗議 知識人の対米観のあまさ[「時の流れ」]『神社新報』904、5月8日<無署名>

五月九日の発言 モスクワ北京から郡山まで[「時の流れ」]『神社新報』905、5月22日<無署名>

日本とベトナムと 中央公論特集論文への評[「時の流れ」]『神社新報』906、5月29日<無署名>

社会党の連立政権論 連立の相手になるのは誰か[「時の流れ」]『神社新報』907、6月5日<無署名>

佐藤内閣の改造 その意味を考へてみる[「時の流れ」]『神社新報』908、6月12日<無署名>

日本と A・A 会議 大東亜会議から二十二年[「時の流れ」]『神社新報』909、6月19日<無署名>

- ゲリラ戦は犯罪 非人道残虐の様相深まる[「時の流れ」]『神社新報』910、6月26日<<無署名>>
- 忠烈英霊に光栄を 沖縄慰霊の日にさいして[「時の流れ」]『神社新報』911、7月3日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- 南越軍事政権 グエン・カオキの強みと弱み[「時の流れ」]『神社新報』912、7月10日<<無署名>>
- 自民社会党の老化 公明党の進出が著しい[「時の流れ」]『神社新報』913、7月17日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- [「時の流れ」]『神社新報』914、7月24日<<無署名>>
- 高杉晋作の思想と行動『新勢力』10-8、8月5日
- 戦後ジャーナリズム 近刊書と八月の諸雑誌評[「時の流れ」]『神社新報』915、8月7日<<無署名>>
- 米中戦争の展望 果てしもない泥沼戦争か[「時の流れ」]『神社新報』916、8月14日<<無署名>>
- 池田勇人氏逝去す 戦後の日本経済再建に尽す[「時の流れ」]『神社新報』917、8月21日<<無署名>>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]
- 佐藤首相沖縄へ 沖縄県祖国復帰の悲願[「時の流れ」]『神社新報』918、8月28日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- 朴大統領の決意 政局危機の線上に立ちて[「時の流れ」]『神社新報』919、9月4日<<無署名>>[『選集昭41年版』『時の流れ』収録]
- 大アジア主義と頭山満[「わが著書を語る」]『出版ニュース』669、9月11日
- カシミールの戦乱 ソ連の複雑微妙な動き[「時の流れ」]『神社新報』921、9月18日<<無署名>>
- 自衛隊の治安出動 日韓条約批准国会のデモに[「時の流れ」]『神社新報』922、9月25日<<無署名>>
- 加藤司書自刃百年—越前勤王党二つの潮流—『新勢力』10-10、10月5日
- カシミール停戦 中共・威信保持に苦しむ[「時の流れ」]『神社新報』923、10月2日<<無署名>>
- ジャカルタの動乱 スカルノの威信傷つく[「時の流れ」]『神社新報』924、10月9日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- 加藤司書自刃百年 筑前勤王党二つの潮流『神社新報』924~926、10月9、16、23日
- スカルノと陸軍 米国CIAも活動開始か[「時の流れ」]『神社新報』925、10月16日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 日韓条約批准国会 反対論者は正直でない[「時の流れ」]『神社新報』926、10月23日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 明治維新と清韓両国の近代化『神道史研究』13-5・6、11月1日[「明治維新と東洋王朝の亡滅」と改題『日本の君主制』収録]
- AA会議と中共政権 北京の野望に破綻相つぐ[「時の流れ」]『神社新報』927、11月6日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- 波乱の強行採決 大政党らしからぬ情なさ[「時の流れ」]『神社新報』928、11月13日<<無署名>>
- 日本政党への疑問 日韓論争での激突を見て[「時の流れ」]『神社新報』929、11月20日<<無署名>>[『選集昭41年版』収録]
- 米ソの秘密外交説 疑心暗鬼の流説と推理と[「時の流れ」]『神社新報』930、11月27日<<無署名>>[『選

集昭 41 年版』収録]

外交と政府と国民 米国の対日世論工作に就て[「時の流れ」]『神社新報』931、12月4日<無署名>
社会公明の共同闘争 池田会長大衆デモの先頭に[「時の流れ」]『神社新報』932、12月11日<無署名>
名>[『選集昭 41 年版』収録]

日韓外交の第一歩 不合理な感情論を棄てて[「時の流れ」]『神社新報』933、12月18日<無署名>
ジェミニ 6・7号成功 この一年の国際国内の動き[「時の流れ」]『神社新報』934、12月25日<無署名>
名>

1966(昭和 41)年

新年の国際政局展望 日ソ外交の裏にあるもの[「時の流れ」]『神社新報』936、1月15日<無署名>
日本の労働貴族 政府や会社との裏取り引き[「時の流れ」]『神社新報』937、1月22日<無署名>[『選
集昭 41 年版』収録]

日本社会党の大会 国民の根深い不信は何か[「時の流れ」]『神社新報』938、1月29日<無署名>
佐藤首相の施政演説 すき間もないといふけれど[「時の流れ」]『神社新報』939、2月5日<無署名>
名>[『選集昭 41 年版』収録]

赤旗の反ソ論文 大国主義はソ連のみか[「時の流れ」]『神社新報』940、2月12日<無署名>

神社新報の性格—田中、上田両先生に答ふ—『神社新報』940、2月12日[『選集昭 41 年版』『50
年史(下)』収録]

中共不信の証言人 アイジツトとカストロと[「時の流れ」]『神社新報』941、2月19日<無署名>[『選
集昭 46 年版』、『時の流れ』収録]

クレアモント国際神道会議記念討論会第二部会[1965年12月11日於明治神宮参集殿]『国学院大学
日本文化研究所報』3-1、2月25日[発言者：上田賢治(司会)、W.P.ウッダート、戸田義雄、大串
兎代夫、平井直房、谷省吾、小林健三、岩本徳一]

文学者の自由欲求 北京モスクワの情報から[「時の流れ」]『神社新報』942、2月26日<無署名>

早稲田大学の騒動 マスプロ大学の愚を憂ふ[「時の流れ」]『神社新報』943、3月5日<無署名>

アフリカの新国家 エンクルマの奇抜な動き[「時の流れ」]『神社新報』944、3月12日<無署名>

陸軍権力を獲得す インドネシアの政治危機[「時の流れ」]『神社新報』945、3月19日<無署名>[『選
集昭 46 年版』]

無法な韓国警備隊 反日的国民心理の是正を[「時の流れ」]『神社新報』946、3月26日<無署名>

韓国学生との討論 日韓交渉史等について[「時の流れ」]『神社新報』948、4月16日<無署名>

泥沼の南越政情 米国、最後決断を迫らる[「時の流れ」]『神社新報』949、4月23日<無署名>

一九七〇年条約論議 台風圏外日本人の悠長さ[「時の流れ」]『神社新報』950、4月30日<無署名>

韓国紀行『新勢力』11-4、5月5日[『神道的日本民族論』『選集 2』収録]

天長節のテレビ 四月二十九日の放送を見て[「時の流れ」]『神社新報』951、5月7日<無署名>[『選
集昭 46 年版』収録]

郭沫若の自己批判 北京の整風は暴風となるか[「時の流れ」]『神社新報』952、5月14日<無署名>

- 名> [『選集昭 46 年版』収録]
- 佐藤首相テレビ対談 楽観ムードで防衛を語る[「時の流れ」]『神社新報』953、5月21日<無署名> [『選集昭 46 年版』収録]
- アジア大戦の危機 米大統領憂念を語る[「時の流れ」]『神社新報』954、5月28日<無署名>
- 創価大学の new 構想 池田大作会長大いに語る[「時の流れ」]『神社新報』955、6月4日<無署名>
- 右翼文明建設のために『新勢力』11-5、6月5日
- 建国記念日法案 新局面に向って一步前進す[「時の流れ」]『神社新報』956、6月11日<無署名> [『選集昭 46 年版』 『時の流れ』収録]
- 整風から暴風へ 燕山夜話を糾弾する論理[「時の流れ」]『神社新報』957、6月18日<無署名>
- 日本クーデター論 「中央公論」と「日本」の所説[「時の流れ」]『神社新報』958、6月25日<無署名>
- 一九八六年危機説『世界と日本』6-6、7月1日
- 中共路線を敬遠か 指導標を失った日本共産党[「時の流れ」]『神社新報』959、7月2日<無署名> [『時の流れ』収録]
- 市井氏の拙著「日本の君主制」批評への感想『新勢力』11-6、7月5日
- 「天皇ヒロヒト」書評 国民心理への無知に驚く[「時の流れ」]『神社新報』960、7月9日<無署名>
- 靖国神社と自衛隊 憲法の常識的変遷を望む[「時の流れ」]『神社新報』961、7月23日<無署名> [『選集昭 46 年版』収録]
- 戦犯人か捕虜か ハノイ爆撃行の米人飛行士[「時の流れ」]『神社新報』962、7月30日<無署名>
- 怨霊の文学「英霊の声」『世界と日本』6-7、8月1日
- 日韓両国の明日[「特集・激動アジアへの提言」]『日本及日本人』1439、8月1日[座談会：栗原一夫(司会)、中村武彦、西山幸輝、浜砂誠三]
- 分裂多党化の現象 日本国に残る腐敗の傷あと[「時の流れ」]『神社新報』964、8月13日<無署名>
- 日中外交の原則 相互対等権を固守せよ[「時の流れ」]『神社新報』965、8月20日<無署名>
- ソ連空軍を派遣か 米ソ中間の微妙な計算[「時の流れ」]『神社新報』966、8月27日<無署名>
- 紅衛兵は暴走する 中共五四年憲法の革命へ[「時の流れ」]『神社新報』967、9月3日<無署名> [『選集昭 46 年版』、『時の流れ』収録]
- 田中彰治と新聞人 御用提灯の後から走る[「時の流れ」]『神社新報』968、9月10日<無署名>
- 荒船清十郎と新聞 深谷市選挙民の立場から[「時の流れ」]『神社新報』969、9月17日<無署名>
- 中共党内分裂か 戦果あがらぬ紅衛兵革命[「時の流れ」]『神社新報』970、9月24日<無署名>
- 文芸六月号ー「英霊の声」評[「論壇時評」]『神道宗教』44、9月30日
- 平新艇の亡命者 四人だけは北鮮に渡せぬ[「時の流れ」]『神社新報』971、10月1日<無署名>
- 上下交征利而国危矣 国会議員から警官教員まで[「時の流れ」]『神社新報』972、10月8日<無署名>
- 10・21 と議員辞職 国民をバカにしすぎる[「時の流れ」]『神社新報』973、10月22日<無署名>
- 労働組合の不まじめ 全学連とアナーキスト[「時の流れ」]『神社新報』974、10月29日<無署名> [『選集昭 46 年版』収録]

天覧の日米親善試合 名選手光栄と感激を語る[「時の流れ」]『神社新報』977、11月19日<無署名>[『選集昭46年版』『時の流れ』収録]

佐藤藤山相対決す 議会政党の泥仕合進展か[「時の流れ」]『神社新報』978、11月26日<無署名>

米中戦争も決心 上院秘密議事録を公表す[「時の流れ」]『神社新報』979、12月3日<無署名>

文化大革命の行方 林彪戦略理論は暴走する[「時の流れ」]『神社新報』980、12月10日<無署名>[『時の流れ』収録]

黒い霧は晴れない どん底におちた議会政党[「時の流れ」]『神社新報』982、12月24日<無署名>[『選集昭46年版』収録]

1967(昭和42)年

中村武彦著明治維新の青年像[書評]『新勢力』12-1、1月5日

文化大革命難航す 南京で反主流派の猛反攻[「時の流れ」]『神社新報』984、1月14日<無署名>

総選挙の大局予想 政局不安か安定かの岐れ道[「時の流れ」]『神社新報』985、1月21日<無署名>

文化大革命論の混乱 権謀術数作戦のあれこれ[「時の流れ」]『神社新報』986、1月28日<無署名>

薩長連合の政治史『新勢力』12-2、2月5日[『永遠の維新者』収録、「薩長連合の政治史一桂小五郎、西郷隆盛および坂本龍馬」と改題『武士道 戦闘者の精神』収録]

衆議院総選挙終る 国民の投票数字を分析する[「時の流れ」]『神社新報』988、2月11日<無署名>

中ソ国交断絶に傾す 文明国の程遠い野蛮さ[「時の流れ」]『神社新報』989、2月18日<無署名>

スカルノのねばり ムルデカ宮殿独裁者の根気[「時の流れ」]『神社新報』990、2月25日<無署名>

ロシア革命から五十年『世界と日本』7-4、3月1日

二・二六への関心 磯部浅一の遺文発見さる[「時の流れ」]『神社新報』991、3月4日<無署名>

反面教師[「談話室」]『精神科学』21-3、3月10日

アナスタシヤ裁判 ロシヤ皇帝退位五十年後に[「時の流れ」]『神社新報』992、3月11日<無署名>

西尾佐々木公開討論 舞台裏駆引きの話もあるが[「時の流れ」]『神社新報』993、3月18日<無署名>

スカルノねばる デビ夫人の強気な弁論[「時の流れ」]『神社新報』994、3月25日<無署名>[『時の流れ』収録]

黒い霧ひろがる 社会黨員間の冷い不信感[「時の流れ」]『神社新報』995、4月1日<無署名>[『選集昭46年版』収録]

ロシア革命史話『新勢力』12-3~7、4月5日、5月5日、6月5日、7月5日、8月5日[【1日本人のロシア革命予想、2二月革命—政治誤算の積み重ね、3王朝の滅亡とテロの精神史、4十月革命への道、5十月革命とその後】『ロシア革命史話』(新勢力社、1967年)刊]

松下、美濃部の決戦 対決点は警察政策にある[「時の流れ」]『神社新報』996、4月8日<無署名>

毛沢東路線の難航 紅衛兵とゲバウとの開き[「時の流れ」]『神社新報』997、4月15日<無署名>

美濃部知事当選す 革命の危機は前進するか[「時の流れ」]『神社新報』998、4月22日<無署名>

前線司令官の戦況報告 ベトナムの泥沼は深い[「時の流れ」]『神社新報』999、5月6日<無署名>

- スターリンの娘 革命五十年ロシアの変貌[「時の流れ」]『神社新報』1000、5月13日<無署名>
- 光栄と偉大の感情 自由諸国政権に欠けるもの[「時の流れ」]『神社新報』1002、5月27日<無署名>
- 米陸軍の研究費援助 政治家学者の見識を疑ふ[「時の流れ」]『神社新報』1003、6月3日<無署名>
- アラブ連合惨敗す イスラエルの果敢な決戦[「時の流れ」]『神社新報』1004、6月10日<無署名>
- アラブ連合惨敗す イスラエルの果敢な決戦[「時の流れ」]『神社新報』1005、6月17日<無署名>『選集昭46年版』『時の流れ』収録]
- 国連緊急総会開く モスクワ政局にも動揺か[「時の流れ」]『神社新報』1006、6月24日<無署名>
- 都電三割以上値上げ 物価の美濃部都政の新提案[「時の流れ」]『神社新報』1007、7月1日<無署名>『選集昭46年版』収録]
- 北京政権水爆の示威 武装世界革命を激励する[「時の流れ」]『神社新報』1008、7月8日<無署名>
- 小平教授東大へ還る 日本科学者の海外流出問題[「時の流れ」]『神社新報』1009、7月15日<無署名>『選集昭46年版』収録]
- イスラエルの国威 二千年の亡国流浪の後に[「時の流れ」]『神社新報』1011、8月5日<無署名>
- 皇祖皇宗の神靈上に在りー終戦詔書の感銘ー『神社新報』1012、8月12日[『選集昭46年版』収録]
- 戦局の様相一変か マクナマラ戦略行きづまり[「時の流れ」]『神社新報』1013、8月19日<無署名>
- 中共排外主義の暴走 毛沢東政権に危機迫るか[「時の流れ」]『神社新報』1014、8月26日<無署名>
- ブラックパワー 米国の解消しがたい宿命[「時の流れ」]『神社新報』1015、9月2日<無署名>
- ブレジネフの演説 ベトナム戦線にも波及か[「時の流れ」]『神社新報』1017、9月16日<無署名>
- 左翼学生暴力団 大学自治の特権を解消せよ[「時の流れ」]『神社新報』1018、9月30日<無署名>『選集昭46年版』収録]
- 日教組の臨時大会 朝鮮大学校認可を要求す[「時の流れ」]『神社新報』1019、10月7日<無署名>
- 佐藤首相海外へ 羽田では学生流血の暴動[「時の流れ」]『神社新報』1020、10月14日<無署名>
- 渋谷駅頭の騒ぎ 大衆の意識と政治指導者[「時の流れ」]『神社新報』1021、10月21日<無署名>
- 重鎮吉田茂氏急逝 棺を蓋うて事定まらず[「時の流れ」]『神社新報』1022、10月28日<無署名>『選集昭46年版』『時の流れ』収録]
- 無宗教の国葬葬式 騒然たる議論のあれこれ[「時の流れ」]『神社新報』1023、11月4日<無署名>『選集昭46年版』『50年史(下)』収録]
- 靖国神社国家護持案の討論の前提ーとくに二葉憲香教授に質問するー『中外日報』11月16、17日
[『神道的日本民族論』『政教分離に関する資料集』(政教関係を正す会、1983年6月30日)収録]
- 佐藤首相渡米す 焼身自殺と学生暴動を後に[「時の流れ」]『神社新報』1025、11月18日[『選集昭46年版』収録]
- 沖繩小笠原と千島 佐藤ジョンソン会談終る[「時の流れ」]『神社新報』1026、11月25日<無署名>『選集昭46年版』収録]
- 靖国神社の国家護持講話(於大東塾第15回講習会)、文責在編集部『不二』22-10、11月25日
- マクナマラ退任す 注目すべき軍長老の放送[「時の流れ」]『神社新報』1028、12月9日<無署名>

ことし一年の回顧 国内国際ニュースのあと[「時の流れ」]『神社新報』1029、12月16日<<無署名>>
続・一年を回顧して 文化大革命とベトナムと[「時の流れ」]『神社新報』1030、12月23日<<無署名>>

1968(昭和43)年

明治維新の現代的意義『新勢力』13-1、1月5日

佐藤首相・美濃部知事 年末年始の談話を評す[「時の流れ」]『神社新報』1032、1月13日<<無署名>>

和平決戦の岐れ道 流動的な国際外交の動き[「時の流れ」]『神社新報』1033、1月20日<<無署名>>

エンタープライズ 暴力狂信者への社会的嫉[「時の流れ」]『神社新報』1034、1月27日<<無署名>>

朝鮮半島の黒雲 ゲリラ侵入と米艦捕獲と[「時の流れ」]『神社新報』1035、2月3日<<無署名>>

靖国神社国家護持・私説―二葉憲香教授の所論に答えて―『中外日報』2月7～10日[『神道的日本民族論』『政教分離に関する資料集』(政教関係を正す会、1983年6月30日)収録]

サイゴン奇襲さる 大国と小国の戦略構想[「時の流れ」]『神社新報』1036、2月10日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

倉石発言と国防力 佐藤首相は気概を示せ[「時の流れ」]『神社新報』1037、2月17日<<無署名>>

米韓会談共同声明 韓国軍決意のきびしさ[「時の流れ」]『神社新報』1038、2月24日<<無署名>>

西郷隆盛―絶大なる人望―[「明治日本の人物群像」]『精神科学』22-2、2月10日

佐藤内閣の不見識 議会政治かマスコミ政治か[「時の流れ」]『神社新報』1039、3月2日<<無署名>>

福沢諭吉―棺を蓋うて事定まらず―[「明治日本の人物群像」]『精神科学』22-3、3月10日

神社新報退社の辞『神社新報』1040、1041、3月16、23日

国際都市東京の治安 防衛長官は責任放棄か[「時局通信」]『神社新報』1042、3月30日<<三郎>>

*食客列伝『輿論』<輿論社>3月<神社本庁所蔵>

*「建国記念の日」有感『輿論』<輿論社>3月<神社本庁所蔵>

明治維新の精神『世界と日本』8-3、4月1日

亡国前夜か維新前夜か『新勢力』[13-4]、4月5日

維新問答『新勢力』[13-4]、4月5日[『新勢力』10-1、1965年1月の再録]

大国の世界支配動揺す 米国もソ連も統制威信失ふ[「時局通信」]『神社新報』1043、4月6日<<無署名>>

頭山満 無位無官の巨頭[「明治日本の人物群像」]『精神科学』22-4、4月10日

ジョンソン後退す 北爆停止で米国威信失ふ[「時局通信」]『神社新報』1044、4月13日<<無署名>>

靖国神社国家護持 再説―鈴木宗憲氏の所論に答えて―『中外日報』4月13、14日[『神道的日本民族論』『政教分離に関する資料集』(政教関係を正す会、1983年6月30日)収録]

占領教育の清算へ 春四月入学シーズンに望む[「時局通信」]『神社新報』1045、4月20日<<無署名>>

集団意識の猛威 米国と西ドイツの騒ぎ[「時局通信」]『神社新報』1046、4月27日<<無署名>>

憲法記念の日に 消え失せた順法の国民心理[「時局通信」]『神社新報』1047、5月4日<<無署名>>

近衛霞山—豪壮なる大人の風格—[「明治日本の人物群像」]『精神科学』22-5、5月10日[「東亜保全政策の理想—近衛霞山、康有為、梁啓超」と改題『武士道』収録]

経済動物と全学連 非常識すぎる話のもつれ[「時局通信」]『神社新報』1048、5月11日<無署名>

パリ会談の行方 政府は自国防衛の気概もて[「時局通信」]『神社新報』1049、5月18日<無署名>

政府に自信なきか 自由新報の特集を見て[「時局通信」]『神社新報』1050、5月25日<無署名>

尊皇攘夷とは? [「語りつぐ戦後史」]『思想の科学[第5次]』76、6月1日[対談：鶴見俊輔][鶴見俊輔編『語りつぐ戦後史 2』(思想の科学社、1969年)、『語りつぐ戦後史(上)』<講談社文庫>(講談社、1975年)、鶴見俊輔『近代とは何だろうか 鶴見俊輔座談』(晶文社、1996年)収録。「尊皇攘夷を語る」と改題『神道的日本民族論』収録]

韓国政府、漢字全廃へ 東洋人共有の文化財を失ふ[「時局通信」]『神社新報』1052、6月8日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

日露戦の英雄達[「明治日本の人物群像」]『精神科学』22-6、6月10日[「日露戦役の国際的武士道—広瀬武夫、横川省三、沖偵介」と改題『武士道』収録]

政治といふもののきびしさ 戦闘的ドゴールと殉国のケネディ[「時局通信」]『神社新報』1053、6月15日<無署名>

日本の国政と神道『国際宗教ニュース』9-2・3、6月25日 [『神道的日本民族論』収録]

学生と社会不安 世界的新風潮の根を絶て[「時局通信」]『神社新報』1054、6月29日<無署名>

武士道談義『新勢力』[13-6]、7月5日

ドゴール大統領の大勝利 政治作戦に機動的威力をしめす[「時局通信」]『神社新報』1055、7月6日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

大学の自由への疑問 旧時代の特権思想を棄てよ[「時局通信」]『神社新報』1056、7月13日<無署名>

社会党はなぜ惨敗したか 石原慎太郎の歴史的最高得票[「時局通信」]『神社新報』1057、7月20日<無署名>

チェコ二言語宣言 ソ連対チェコ緊張強まる[「時局通信」]『神社新報』1059、8月3日<無署名> [『選集昭46年版』『50年史(下)』収録]

日本的犯罪論消滅へ 朝日新聞「標的」の暴論[「時局通信」]『神社新報』1060、8月17日<無署名> [『新勢力』13-8、9月5日に転載]

すべて秘密外交で 人民は何も知らされない[「時局通信」]『神社新報』1061、8月24日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

ソ連軍、チェコ全土を占領 レーニン主義政治の本質を露出[「時局通信」]『神社新報』1062、8月31日<無署名> [『選集昭46年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

神話と日本人[「特集・やまと心の源流を探ねて」]『日本及日本人』1465、9月1日

「日本的犯罪論」を消滅せよ—朝日新聞「標的」の暴論—『新勢力』13-8、9月5日<白旗士郎> [『神社新報』1060、8月17日から転載]

東京慰霊堂の法要 靖国神社国家護持は当然だ[「時局通信」]『神社新報』1063、9月7日<無署名>

マスコミのあまさ チェコ占領前後の論評[「時局通信」]『神社新報』1064、9月14日<無署名> [『時の流れ』収録]

大学は無法地帯か 学校閉鎖命令の法律を見よ[「時局通信」]『神社新報』1065、9月21日<<無署名>>
社会党再建大会苦悶の流会 思想派閥雑居の清算せまられる[「時局通信」]『神社新報』1066、9月28日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

共産党理論の分裂 世界党会議開催行き悩む[「時局通信」]『神社新報』1067、10月5日<<無署名>>
佐藤内閣の大学対策 大学は外国の租界ではない[「時局通信」]『神社新報』1068、10月12日<<無署名>>

学生の暴力爆発す 騒擾反乱・大学教授・司法官[「時局通信」]『神社新報』1070、10月26日<<無署名>>

天皇制と明治ナショナリズムー近代国家成立期における一考察『季刊社会科学』14、11月1日[「明治維新と日本ナショナリズム」と改題『近代民主主義の終末』、初出原題で『永遠の維新者』『選集2』収録]

明治百年記念式典 佐藤首相の式辞の空しさ[「時局通信」]『神社新報』1071、11月2日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

「明治天皇詔勅謹解」編集の苦労話をきく『神社新報』1071、11月2日[紙上座談会：阪本健一、高沢信一郎]

米国北爆を停止す 舞台裏の駆引を推測する[「時局通信」]『神社新報』1072、11月9日<<無署名>>

新大統領ニクソン 対アジア新政策はいかに[「時局通信」]『神社新報』1073、11月16日<<無署名>>

日大芸術学部の残虐 戦後教育の破綻を立証す[「時局通信」]『神社新報』1074、11月23日<<無署名>>

*中江兆民とその門流『小日本』11月<神社本庁所蔵>

大学、戦場となる 教育勅語排除から満二十年[「時局通信」]『神社新報』1075、12月7日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

明治改元の日[「談話室」]『精神科学』22-12、12月10日

チェコ占領から学ぶもの『世界と日本』8-11、12月10日

一年を回顧して[「時局通信」]『神社新報』1076、1077、12月14、21日【(上)米ソ軍事政策の巧拙を評す、(下)治安の危機著しい社会世相】<<無署名>>

悲痛なる先人の書簡史料『不二』24-1、12月25日[『選集2』収録]

1969(昭和44)年

日本人の正月風景 伝統的皇国意識恢復の春[「時の流れ」]『神社新報』1078、1月4日

乱世の後に維新が来る[「主張」]『新勢力』14-1、1月5日

東京大学・解散せよ 学生・教授の社会的責任[「時の流れ」]『神社新報』1079、1月11日<<無署名>>[『選集昭46年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

劉少奇の罪状報告 毛沢東、阿呆宮の王となる[「時の流れ」]『神社新報』1080、1月18日<<無署名>>[『選集昭46年版』『時の流れ』収録]

東京・神田の騒乱 日本警察は世界一に穏か[「時の流れ」]『神社新報』1081、1月25日<<無署名>>

東大確認書の始末 社会責任と政治責任と[「時の流れ」]『神社新報』1082、2月1日<<無署名>>

- 明治維新と中共文化革命－そこに品格の懸絶を見る『新勢力』14-2、2月5日
- 東京大学の騒乱[「主張」]『新勢力』14-2、2月5日
- 天皇戦線うまれる－維新の旗は菊水の旗－『論争ジャーナル』3-2、2月5日
- 新旧世代心理の断絶 ソ連でも米国でも日本でも[「時の流れ」]『神社新報』1083、2月8日<無署名> [『選集昭46年版』収録]
- 沖縄ゼネスト中止 祖国復帰は英知と沈勇で[「時の流れ」]『神社新報』1084、2月15日<無署名>
- 東京から京都へ にせ革命学者のナンセンス[「時の流れ」]『神社新報』1085、2月22日<無署名>
- 靖国神社問題の焦点『不二』24-3、2月25日[対談：鈴木正男]
- 安保継続とその後 日本国防力の強化を急げ[「時の流れ」]『神社新報』1086、3月1日<無署名>
- 書いてないことの意味を[「戴季陶「日本論」を読んで」]『中国』64、3月1日
- 安保論争の理論的盲点－条約の自動継続とその後－[「主張」]『新勢力』14-3、3月5日
- 国境線上での激戦 ソ連・中共の対立は発展する[「時の流れ」]『神社新報』1087、3月15日<無署名> [『選集昭46年版』収録]
- 靖国法案と世論 伝統的な国論の高まり[「時の流れ」]『神社新報』1088、3月22日<無署名>
- 国立大学教授追放令 無条件特権を制約せよ[「時の流れ」]『神社新報』1089、3月29日<無署名>
- 中ソ国境線での激戦[「国際政局展望」]『新勢力』14-4、4月5日
- 社会党見解を表明 靖国法案反対理論分裂す[「時の流れ」]『神社新報』1090、4月5日<無署名>
- 神道人と現下の国情[「教養講座」]『神社新報』1090、1091、4月5、12日<無署名> 【(上)現代の思想的危機の源流、(下)「明治の精神」恢弘こそ】[神道人と現下の国情(『国民精神昂揚運動資料集 第二集』(神社本庁、1969年3月)と同文か]
- 中共九全大会開く 沈黙の自由すら許さぬ強圧[「時の流れ」]『神社新報』1091、4月12日<無署名>
- 福岡地裁の判決 その翌日の神田岡山の騒乱[「時の流れ」]『神社新報』1092、4月19日<無署名>
- 北鮮の緊張強まる 米国海空制圧の示威行進[「時の流れ」]『神社新報』1093、4月26日<無署名>
- 鉄道神社と本願寺 国有鉄道の神仏二本立て[「時の流れ」]『神社新報』1094、5月3日<無署名>
- 菊水精神の復活－楠公論私説－『新勢力』14-5、5月5日
- 大学紛争の対策立法 国税の無責任浪費を許すな[「時の流れ」]『神社新報』1095、5月17日<無署名>
- 非国家意識の流行 西欧近代国家観のなやみ[「時の流れ」]『神社新報』1096、5月24日<無署名>
- 沖縄本土復帰の悲願 政争の手段に利用するな[「時の流れ」]『神社新報』1098、6月7日<無署名>
- 日本現代版「父と子」精神的きびしさが足りない [「時の流れ」]『神社新報』1099、6月14日<無署名>
- 政界共産党会議開く 真の目的は反帝か反中共か[「時の流れ」]『神社新報』1100、6月21日<無署名>
- 護憲左派の破綻 大学教授から裁判官まで[「時の流れ」]『神社新報』1101、6月28日<無署名>
- クレムリンの謀略 その複雑な駆引に驚くな[「時の流れ」]『神社新報』1102、7月5日<無署名>

モデル大学案反対 歴史無視の妄想にすぎぬ[「時の流れ」]『神社新報』1103、7月12日<<無署名>>
東京社会党惨敗す 首都の政戦は全国の縮図[「時の流れ」]『神社新報』1104、7月19日<<無署名>>『選
集昭46年版』収録]

終戦の日から今日まで精神空白の経済繁栄―「終戦の詔書」に還り日本的維新の道へ―『神社新報』
1106、8月2日[『選集昭46年版』収録]

アポロ月に往来す 科学技術文明進歩の意味[「時の流れ」]『神社新報』1106、8月2日<<無署名>>『選
集昭46年版』『50年史(下)』収録]

皇軍再建の前提『新勢力』14-7、8月5日

靖国法案の前途 米国製民主主義に抗して[「時の流れ」]『神社新報』1107、8月16日<<無署名>>
歴史の真と秘儀―「武士道」の著者から書評家各位への言葉―『神社新報』1107、8月16日

近代民主主義の破綻 日本人は日本流に考へよ[「時の流れ」]『神社新報』1108、8月23日<<無署名>>
共産権力重圧加はる ソ連のチェコ占領から一年[「時の流れ」]『神社新報』1109、8月30日<<無署
名>>

右翼精神の系譜と現状―日本人の底にひそむ力強い精神潮流―[「特集・日本の右翼―その思想と行
動」]『経済往来』21-9、9月1日[「日本の右翼―その思想と行動」と題して、『小日本』52、1984
年5月1日に再録]

天皇と軍隊 統帥大権について『伝統と現代』2-8、9月1日

福寿丸の悲報 ソ連の人道無視への怒り[「時の流れ」]『神社新報』1110、9月6日<<無署名>>
胡志明大統領死す 波乱多き生涯と死後の波紋[「時の流れ」]『神社新報』1111、9月13日<<無署名>>
札幌地裁の書簡事件 司法ファッショを警戒せよ[「時の流れ」]『神社新報』1112、9月20日<<無署
名>>

平賀書簡について最高裁判所の不見識[「時の流れ」]『神社新報』1113、9月27日<<無署名>>
秋の学生騒乱とそのあと[「時の流れ」]『神社新報』1113、9月27日<<無署名>>

江田書記長の無神経 沖縄とチェコの外国支配[「時の流れ」]『神社新報』1114、10月4日<<無署名>>
松永先生の淋しさ『新勢力』14-9、10月5日

維新への展望―義勇奉公精神の恢弘―『世界と日本』9-8、10月10日

武士道と右翼 [「談話室」]『精神科学』23-10、10月10日

西独と日本の政局 保守長期政権の将来を考へる[「時の流れ」]『神社新報』1115、10月11日<<無署
名>>

最高裁に嚴重注意す 飯守裁判所長の重大な警告[「時の流れ」]『神社新報』1117、10月25日<<無署
名>>[『選集昭46年版』収録]

反逆と忠誠の間 叛逆の精神的拠点『伝統と現代』2-10、11月1日

国民意思表示の方法 示威行進は無視するがいい[「時の流れ」]『神社新報』1118、11月8日<<無署
名>>

佐藤首相訪米を前に 社会党の反対理由は不合理[「時の流れ」]『神社新報』1119、11月15日<<無署
名>>[『時の流れ』収録]

新左翼過激派挫折 次の政治闘争は総選挙へ[「時の流れ」]『神社新報』1120、11月22日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

沖縄返還日米共同声明 佐藤首相所期目的つらぬく[「時の流れ」]『神社新報』1121、11月29日<<無署名>>[『選集昭46年版』『50年史(下)』収録]

暴力革命よりも恐るべき平和革命論[「教養講座」]『神社新報』1121、1122、11月29日、12月6日<<無署名>>【1極左暴力革命派と共産党はなぜ対決する、2毛沢東路線と日共が訣別した理由、3古典的な暴力革命論と西欧共産党の新理論、4日共の考へる平和革命路線とは何か、5多党化現象を利用して政権への割込み狙ふ、6議会の外でもあらゆる場所で活動、7暴力革命より恐るべき平和革命の謀略路線】[*『暴力革命より恐るべき「平和革命」』<神社本庁時局対策資料 第2集>(神社本庁時局対策本部、1969年11月)刊<神社本庁所蔵 174.1>]

近代民主々義の弔鐘『新勢力』14-11、12月5日

裁判官と大学教授 この一年で社会的信を失ふ[「時の流れ」]『神社新報』1122、12月6日<<無署名>>

歳末繁盛の街頭で経済繁栄にひそむもろさ[「時の流れ」]『神社新報』1123、12月13日<<無署名>>

大学騒乱の年を顧み 警察白書は来春を警告す[「時の流れ」]『神社新報』1124、12月20日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

1970(昭和45)年

日本の国家観の確立を 神代への国民のあこがれ[「時の流れ」]『神社新報』1125、1月5日

韓国、台湾への関心大きく浮びあがる[「時の流れ」]『神社新報』1125、1月5日

北京政権への姿勢 日本は敗戦国なのではない[「時の流れ」]『神社新報』1125、1月5日[『選集昭46年版』『50年史(下)』収録]

昭和四十五年の政局 総選挙後の諸政党を見る[「時の流れ」]『神社新報』1126、1月12日<<無署名>>

日本国民の誇り 米軍基地労働者の解雇[「時の流れ」]『神社新報』1127、1月19日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

言論出版の妨害か 公明党対共産党の戦術の差[「時の流れ」]『神社新報』1128、1月26日<<無署名>>

上床船長海に歿す 英雄的な信と死に敬意を[「時の流れ」]『神社新報』1129、2月2日<<無署名>>[上床船長の英雄的な信と死(『新勢力』15-3、4月5日)と同文、『選集昭46年版』『50年史(下)』収録]

無風状況を分析す 一九七〇年一月の裏目現象[「時の流れ」]『神社新報』1130、2月9日<<無署名>>

八束先生の横顔[「謹みて三先生を追悼する」]『神社新報』1130、2月9日

在野戦線異状あり 社会党総評から公明党まで[「時の流れ」]『神社新報』1131、2月16日<<無署名>>

核拡散防止条約 日本政府の声明を評す[「時の流れ」]『神社新報』1132、2月23日<<無署名>>

中近東に風雲急 国連の平和緊急対策を望む[「時の流れ」]『神社新報』1133、3月2日<<無署名>>

私学の使命は何か 私学法改正案決定に際して[「時の流れ」]『神社新報』1134、3月9日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

ひなまつり[「談話室」]『精神科学』24-3、3月10日

総評大動揺の序曲 春闘大会に異変現象を見る[「時の流れ」]『神社新報』1135、3月16日<<無署名>>

予想される怒涛の時代を[「大東塾創立三十周年を祝す」]『不二』25・3、3月25日

シアヌーク殿下追放 東南アジア情勢は急変する[「時の流れ」]『神社新報』1136、3月30日<<無署名>>

上床船長の英雄的な信と死『新勢力』15・3、4月5日[上床船長海に歿す 英雄的な信と死に敬意を(『神社新報』1129、2月2日)と同文]

ソ連軍の示威運動 発表と中止の意味は何か[「時の流れ」]『神社新報』1137、4月6日<<無署名>>

村上一郎著北一輝論 指導将校の思想的心理的ニュアンスを分析[書評]『出版ニュース』829、4月11日

宗教団体の政治的中立 民社党の理論は底が浅い[「時の流れ」]『神社新報』1138、4月13日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

よど号事件の波紋 犯罪をおさへる手段なきか[「時の流れ」]『神社新報』1139、4月20日<<無署名>>

福島裁判官を忌避 裁判所にも思想闘争波及す[「時の流れ」]『神社新報』1140、4月27日<<無署名>>

日本新軍国主義論 ワシントンでも北京でも[「時の流れ」]『神社新報』1141、5月4日<<無署名>>

カンボジアへ進軍 ニクソン大統領決断を下す[「時の流れ」]『神社新報』1142、5月11日<<無署名>>

米国の反戦大集会 伝統的自由文明の危機か[「時の流れ」]『神社新報』1143、5月18日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録]

奇妙な発言ばかり 政治、宗教、財界の指導者[「時の流れ」]『神社新報』1144、5月25日<<無署名>>

共産党大会決議案 色彩変貌、ソフトムードへ[「時の流れ」]『神社新報』1147、6月5日<<無署名>>[『時の流れ』収録、共産党大会決議案に見るソフトムード(『新勢力』15・5、6月5日)と同文]

共産党大会決議案に見るソフトムード『新勢力』15・5、6月5日<<白旗士郎>>[共産党大会決議案 色彩変貌、ソフトムードへ(『神社新報』1147、6月5日)と同文]

仏法民主主義消ゆ『新勢力』15・5、6月5日<<白旗士郎>>[仏法民主主義消ゆ 王仏冥合なき公明党新綱領(『神社新報』1148、6月22日)と同文]

海上兵力を三倍へ 兵器工業大会大久保会長語る[「時の流れ」]『神社新報』1146、6月8日<<無署名>>

仏法民主主義消ゆ 王仏冥合なき公明党新綱領[「時の流れ」]『神社新報』1148、6月22日<<無署名>>[『選集昭46年版』収録、仏法民主主義消ゆ(『新勢力』15・5、6月5日)と同文]

安保条約延長さる これから複雑となる十年間[「時の流れ」]『神社新報』1149、7月6日<<無署名>>

石田長官の罷免請求 共産主義論理の得手勝手さ[「時の流れ」]『神社新報』1150、7月13日<<無署名>>

日韓共同防衛体制 朴大統領言明について[「時の流れ」]『神社新報』1151、7月20日<<無署名>>

杉本判決の論理 左右教育激突の自由を認む[「時の流れ」]『神社新報』1152、7月27日<<無署名>>

終戦大詔の悲願を継承せよー佐藤総理大臣に望むー『神社新報』1153、8月3日[『選集昭46年版』収録、まづ核なき武装へー終戦大詔の悲願継承せよー(『新勢力』15・8、9月5日)と同文]

社会党総評の動揺 岩井辞任の意味は大きい[「時の流れ」]『神社新報』1154、8月10日<<無署名>>

中東の停線[戦]成る 米ソの対中共圧力加はる[「時の流れ」]『神社新報』1155、8月17日<<無署名>>

八月十五日の風景 時の流れの力を感じさせる[「時の流れ」]『神社新報』1156、8月24日<<無署名>>

まづ核なき武装へー終戦大詔の悲願継承せよー『新勢力』15-8、9月5日[終戦大詔の悲願を継承せよー佐藤総理大臣に望むー(『神社新報』1153、1970年8月3日)と同文]

現代維新を必要とする精神的荒廃空白化の由来『新勢力』15-8、9月5日

米中ソ三大政策の破綻[「主張」]『新勢力』15-8、9月5日<無署名>

ローマ教会と印度女 切支丹禁制史を連想する[「時の流れ」]『神社新報』1157、9月7日<無署名>

ソ連人の亡命頻り 新世代の自由への憧れ[「時の流れ」]『神社新報』1158、9月14日<無署名>

工業公害の問題でマスコミの認識は浅い[「時の流れ」]『神社新報』1159、9月21日<無署名>

神道と政治[「教養講座」]『神社新報』1159~1163、9月21、28日、10月5、12、19日【国政への無関心と神道指令、欧米の政教分離思想、共産国の政教分離思想、日本史上の政教関係思想、国家精神恢弘のために】

ヨルダンの風雲急 日本人国際評論の不見識[「時の流れ」]『神社新報』1160、9月28日<無署名>

極左学生の殺人犯 マスコミと社会事実の流れ[「時の流れ」]『神社新報』1161、10月5日<無署名>

ナセル大統領歿す アラブに分裂化現象起るか[「時の流れ」]『神社新報』1162、10月12日<無署名> [『時の流れ』収録]

ニクソン停戦提案 その政治効果を観測する[「時の流れ」]『神社新報』1163、10月19日<無署名>

ノーベル文学賞 反権力自由派のソ連作家に[「時の流れ」]『神社新報』1164、10月26日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

歴史教育を再建する『週刊時事』12-43、10月31日[座談会：齊藤忠、山口康助、宇野精一、千家尊宣、田中卓]

日本人の日本史を 平泉日本史と福田旅順戦史[「時の流れ」]『神社新報』1165、11月2日<無署名>

座談会 明治神宮五十年の歩み『神社新報』1165、11月2日[座談会：後藤文夫、飯沼一省、安岡正篤、角南隆、石神甲子郎、伊達巽、副島広之]

裁判と国民の権利 福島判事は退官させよ[「時の流れ」]『神社新報』1166、11月9日<無署名>

神道政治連盟の一年 国民大衆の支持を固めよ[「時の流れ」]『神社新報』1167、11月16日<無署名>

巨人ドゴール逝く 救国英雄か非情の権力者か[「時の流れ」]『神社新報』1168、11月30日<無署名> [『選集昭46年版』『時の流れ』収録]

三島由紀夫自刃す 沈黙せる国民心理への影響[「時の流れ」]『神社新報』1169、12月7日<無署名> [『選集昭46年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

生残者三人の任務 三島事件の波紋を追って[「時の流れ」]『神社新報』1170、12月14日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

昭和四十五年の記録[「時の流れ」]『神社新報』1171、12月21日<無署名> [『選集昭46年版』収録]

1971(昭和46)年

海外亡命者を迎えた日本人『月刊伝統と現代』2-1、1月1日

皇道と王道ー日本思想史上の放伐論ー『世界と日本』11-1、1月1日

「少年日本史」の真価『日本』21-1、1月1日

波乱を予想させる問題 台北か北京か 日本政府の毅然たる態度を『神社新報』1172、1月4日[『選集昭46年版』]収録、台北か北京か 波乱を予想させる中国問題(『新勢力』16-2、2月15日)と同文]

乱暴な朝日の提言 “国民政府へ国交断絶”を[「時の流れ」]『神社新報』1173、1月11日<無署名>
三島事件の教訓[「主張」]『新勢力』16-1、1月15日<無署名>

沖縄とポーランド 人民感情利用の策略家ども[「時の流れ」]『神社新報』1174、1月18日<無署名>[『選集昭46年版』収録]

ユダヤ民族の連帯 米国財閥から欧州共産党まで[「時の流れ」]『神社新報』1175、1月25日<無署名>

賀屋興宣の詰問状 藤山談話の意味するもの[「時の流れ」]『神社新報』1176、2月1日<無署名>

三島、森田の研究を 深い社会的関心をほり下げよ[「時の流れ」]『神社新報』1177、2月8日<無署名>

台北か北京か 波乱を予想させる中国問題『新勢力』16-2、2月15日[波乱を予想させる問題 台北か北京か 日本政府の毅然たる態度を(『神社新報』1172、1月4日)と同文]

「大忠臣蔵」の人気 忠の何たるかの社会教育を[「時の流れ」]『神社新報』1178、2月15日<無署名>

紀元節集会の風景 ヤングパワーは前進する[「時の流れ」]『神社新報』1179、2月22日<無署名>

中国「自由新聞」社説 大新聞は国民を無知にする[「時の流れ」]『神社新報』1180、3月1日<無署名>

国民的コンプレックス[「談話室」]『精神科学』25-3、3月10日

日中共同声明を見て 近隣の外国人の評を聞く[「時の流れ」]『神社新報』1181、3月15日<無署名>

衆議院の靖国法案 三月十日前後の進行情況[「時の流れ」]『神社新報』1182、3月22日<無署名>[『時の流れ』収録]

東亜解放戦士の墓 日本人として忘れ得ぬ人[「時の流れ」]『神社新報』1183、3月29日<無署名>

陛下への忠誠とはなにか『世界と日本』11-3、4月1日[「忠誠とはなにか」と改題『近代民主主義の終末』収録]

ラオス進攻軍敗退 ニクソンは再考を要する[「時の流れ」]『神社新報』1184、4月5日<無署名>

山美^{ソンミ}裁判を考へる 対日戦犯法理の再検討要求[「時の流れ」]『神社新報』1185、4月12日<無署名>[『選集昭51年版』収録]

ラモス非命に斃るー比島独立革命戦士小伝ー『新勢力』16-4、4月15日

裁判官人事の論争 司法官の法外特許すな[「時の流れ」]『神社新報』1186、4月19日<無署名>

美濃部圧倒的勝利 平和革命路線の前進か[「時の流れ」]『神社新報』1187、4月26日<無署名>

米中間の卓球外交 不快な大国主義の横行[「時の流れ」]『神社新報』1188、5月3日<無署名>

マスコミやくざ 朝日新聞の陳謝について[「時の流れ」]『神社新報』1190、5月17日<無署名>

無視された国民意識 名古屋高裁と佐藤首相と[「時の流れ」]『神社新報』1191、5月24日<無署名>

天皇陛下の海外行幸 諸外国関係の情報など[「時の流れ」]『神社新報』1192、5月31日<無署名>

- 天皇と神道と日本人[「林房雄対談シリーズ」]『日本学生新聞』64、6月1日[対談：林房雄][「『日本の原点 林房雄対談集』(日本教文社、1972年4月15日)収録]
- 政府答弁、断じて許しがたい[談]『神社新報』1192、6月7日[『新勢力』16-6、6月15日に転載]
- ピューリッツァ賞決定 米国人と日本人のちがひ[「時の流れ」]『神社新報』1193、6月14日<<無署名>>
- 行幸時の伝統朝儀「剣璽御動座」の復活を一皇位の神聖感こそ日本再建の前提[「主張」]『新勢力』16-6、6月15日
- 政府答弁、断じて許しがたい[談][「主張」]『新勢力』16-6、6月15日[『神社新報』6月7日の転載]
- 北京政府の対日工作 公明党と百人委員会の動き[「時の流れ」]『神社新報』1194、6月21日<<無署名>>
- 沖縄返還協定調印 反対運動の真意はなにか[「時の流れ」]『神社新報』1195、6月28日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 参議院選挙の結果 保守政権の不安定を予告す[「時の流れ」]『神社新報』1196、7月5日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
- 米国防省の機密文書 最高裁公表許可を判決す[「時の流れ」]『神社新報』1197、7月12日<<無署名>>
- 続B・R・ラモス研究『新勢力』16-7、7月15日
- 米国文明亡滅の淵 ニクソンの演説は深刻だ[「時の流れ」]『神社新報』1198、7月19日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
- 米国大統領北京へ 米中間の将来はいかに[「時の流れ」]『神社新報』1199、7月26日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 日本船へ海賊頻々 国旗日の丸の影うすれて[「時の流れ」]『神社新報』1201、8月9日<<無署名>>
- 大東亜戦争を想ふ ドゴールの日本への論評[「時の流れ」]『神社新報』1202、8月16日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
- 国際情勢急変の秋 周恩来とキッシンジャーと[「時の流れ」]『神社新報』1203、8月23日<<無署名>>
- 自衛隊員刺殺さる 防衛庁長官に責任なきか[「時の流れ」]『神社新報』1204、9月6日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
- 日本円の切上げ その政治社会思想への影響[「時の流れ」]『神社新報』1205、9月13日<<無署名>>
- 北京の謀略進行す 自民党の分断政策成功か[「時の流れ」]『神社新報』1206、9月20日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
- 警察隊員虐殺さる 集団殺人者の政治的ねらひ[「時の流れ」]『神社新報』1207、9月27日<<無署名>>
- 国家機密の防衛 英国、ソ連スパイを追放す[「時の流れ」]『神社新報』1208、10月4日<<無署名>>
- 天皇陛下の海外行幸 マスコミの皇室記事を評す[「時の流れ」]『神社新報』1209、10月11日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 日中議連共同声明 ソ連と日共とが反発する[「時の流れ」]『神社新報』1210、10月18日<<無署名>>
- 陛下御帰還を奉祝す 将来の海外御旅行に反対[「時の流れ」]『神社新報』1211、10月25日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]
- 「除勝君を守る会」友人の生命を利用するのか[「時の流れ」]『神社新報』1212、11月1日<<無署名>>

北京政府国連へ入る 日本国にとつての重大問題[「時の流れ」]『神社新報』1213、11月8日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

ソ連の軍事的優位 米国中国を動揺させるもの[「時の流れ」]『神社新報』1214、11月15日<<無署名>>

日本と中国との外交—国家権力の関係と国民の関係—『新勢力』16-11、11月15日

沖縄返還協定採決 東京国会周辺の市街戦様相[「時の流れ」]『神社新報』1215、11月29日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』収録]

*憲法の思想と政治の力学『思想と行動』11月<神社本庁所蔵>【1 憲法思想の形成時代、2 帝国憲法の思想、3 帝国憲法と独裁主義、4 ボツダム憲法の政治力学、5 将来の憲法についての展望】[『近代民主主義の終末』収録、4、5を『選集1』収録]

国連での中ソ激論 弁論戦勝敗の表と裏[「時の流れ」]『神社新報』1216、12月6日<<無署名>>

日立吉山社長の言明 暗い財界の中に一本の光か[「時の流れ」]『神社新報』1217、12月13日<<無署名>>

日立も屈辱降伏す 一流から三流への急転落[「時の流れ」]『神社新報』1218、12月20日<<無署名>>

印度パキスタン戦争 バングラデシュ建国成るか[「時の流れ」]『神社新報』1218、12月20日<<無署名>>

1972(昭和47)年

初詣でも軍国主義か 今年の課題・日中外交[「時の流れ」]『神社新報』1219、1月3日<<無署名>>

国際情勢の多極化 日米会談バングラデシュ[「時の流れ」]『神社新報』1220、1月17日<<無署名>>

蒋介石の文を読む 中華民国六十一年年頭書[「時の流れ」]『神社新報』1221、1月24日<<無署名>>

シベリア開発計画 グロムイコ外相を迎へて[「時の流れ」]『神社新報』1222、1月31日<<無署名>>

藤山愛一郎へ制裁 激流の外交風潮の波紋か[「時の流れ」]『神社新報』1223、2月7日<<無署名>>

国際政治の法論理 藤山問題の核点はどこに[「時の流れ」]『神社新報』1224、2月14日<<無署名>>

沈毅猛勇の士『新勢力』17-2<三上卓追悼号>、2月15日[花房東洋編『「青年日本の歌」と三上卓 民族再生の雄叫び』(島津書房、2006年10月25日)収録]

グアム島の日本兵 大陸に横井さんはゐないか[「時の流れ」]『神社新報』1225、2月21日<<無署名>>

「靖国法」打開の具体策 超党派成立の促進で提案『国民新聞』18445、2月25日[「正しい靖国護持の方策—御陵と慰霊堂方式について」と題して、塙三郎編『英霊の怒り』(浪漫、1974年8月30日)、『靖国問題をどうすべきか』(善本社、1977年)抄録]

中曽根構想に反対 靖国問題の解決にならない[「時の流れ」]『神社新報』1226、2月28日<<無署名>>[『選集昭51年版』『50年史(下)』収録]

*東洋悲劇の英雄『小日本』2月<神社本庁所蔵>

*神聖なる統治『祖国と青年』[6]、3月1日<神社本庁所蔵170.4>

ニクソン北京外交 ソ連の反発はさげがたい[「時の流れ」]『神社新報』1227、3月6日<<無署名>>

近代民主主義の終末[「わが著書を語る」]『出版ニュース』895、3月11日

浅間山荘の銃撃戦 許しがたきはなにか[「時の流れ」]『神社新報』1228、3月13日<<無署名>>[『選

集昭 51 年版』『50 年史(下)』収録]

戦後教育のこの見事な成果を見よ! [「主張」]『新勢力』17-3、3月15日<<無署名>>

三島裁判に一波乱 真相はあいまいのまゝか[「時の流れ」]『神社新報』1229、3月20日<<無署名>>

台湾と尖閣列島 明確な区別を必要とする[「時の流れ」]『神社新報』1230、3月27日<<無署名>>

宗教戦争の深い傷 アイルランドの闘争は続く[「時の流れ」]『神社新報』1231、4月3日<<無署名>>

南京事件真相の謎 朝日の記者とカメラマン[「時の流れ」]『神社新報』1232、4月10日<<無署名>>

近代民主主義の終末[「談話室」]『精神科学』26-4、4月10日

東洋解放悲劇の志士—S・C ボースと王精衛と—『新勢力』17-4、4月15日

地下活動に終始した故伊藤芳男君の横顔『新勢力』17-4、4月15日[「伊藤芳男君の横顔—汪精衛が深く信頼した日本人」と改題『小日本』58、1984年11月1日に転載]

戦標的な阿片作戦 麻薬は砲弾より威力的か[「時の流れ」]『神社新報』1233、4月17日<<無署名>> [『選集昭 51 年版』収録]

新聞記者の破廉恥 報道論評の自由とはなにか[「時の流れ」]『神社新報』1234、4月24日<<無署名>>

独立日本はいづこ 政治家財界人と横井さん[「時の流れ」]『神社新報』1235、5月1日<<無署名>>

北京放送いらいだつ 日本国最後の一線の防衛[「時の流れ」]『神社新報』1236、5月15日<<無署名>>

米軍封鎖猛爆戦へ 大国外交の駆引きと小国[「時の流れ」]『神社新報』1237、5月22日<<無署名>>

大新聞社の無責任 記事を読み直す英知を[「時の流れ」]『神社新報』1238、5月29日<<無署名>>

*近代民主主義とは何か その基盤は何か『小日本』5月<<神社本庁所蔵>>

*中国外交への疑問と私見『輿論』<<輿論社>>5月<<神社本庁所蔵>>

モスクワの米ソ会談 大国秘密外交時代進展す[「時の流れ」]『神社新報』1239、6月5日<<無署名>>

テルアビブの惨劇 神風との混同は許しがたい[「時の流れ」]『神社新報』1240、6月12日<<無署名>> [『選集昭 51 年版』収録]

陛下を幽閉し奉る[「巻頭言」]『新勢力』17-6、6月15日

キッシンジャー来日 北ベトナム孤立のねらひ[「時の流れ」]『神社新報』1241、6月19日<<無署名>>

佐藤首相が辞任表明 新聞不信の所感をのこして[「時の流れ」]『神社新報』1242、6月26日<<無署名>> [『選集昭 51 年版』収録]

和戦の岐路に立つ 大国外交とベトナムの抗戦[「時の流れ」]『神社新報』1243、7月3日<<無署名>>

自民党の総裁選挙 毅然たる政治的信念がない[「時の流れ」]『神社新報』1244、7月10日<<無署名>>

テルアビブの惨劇—神風との混同は許しがたい—[「巻頭言」]『新勢力』17-7、7月15日 [『神社新報』1240、6月12日から転載]

田中新内閣成立す その前途は波乱多きか[「時の流れ」]『神社新報』1245、7月17日<<無署名>> [『時の流れ』収録]

*天皇制についての対話『小日本』7月<<神社本庁所蔵>>

*浅間山荘の銃撃戦『思想と行動』7月<<神社本庁所蔵>>

林彪抹殺を確認す 真相は依然黒い霧の中に[「時の流れ」]『神社新報』1247、8月7日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

終戦時を回想する 北ベトナム猛爆記事を見て[「時の流れ」]『神社新報』1248、8月14日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

日中外交の歩みに 列国それぞれの関心は強い[「時の流れ」]『神社新報』1249、8月21日<<無署名>>

日華条約の無効 カイロ宣言はどうなるか[「時の流れ」]『神社新報』1250、8月28日<<無署名>>

アフリカ黒人主義 報復の激情に流されるな[「時の流れ」]『神社新報』1251、9月4日<<無署名>>

ハワイから北京へ 目標限界未定のまま急行[「時の流れ」]『神社新報』1252、9月11日<<無署名>>

流血の国際競技場 西独政府平和主義の空しさ[「時の流れ」]『神社新報』1253、9月18日<<無署名>>

椎名特使、台北へ 強を畏れ弱を侮る田中外交[「時の流れ」]『神社新報』1254、9月25日<<無署名>>

日華外交断絶す 新しき友のため旧友を斬る[「時の流れ」]『神社新報』1255、10月9日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]

田中・大平外交を断罪し列島改造案に反対す[「主張」]『新勢力』17-9、10月15日<<矢島生>>

日華外交断絶す 新しき友のため旧友を斬る[「時の流れ」]『神社新報』1256、10月16日<<無署名>>

国民の知る権利 新聞は中国事情を知らせぬ[「時の流れ」]『神社新報』1257、10月23日<<無署名>>

韓国の非常戒厳令 北へ対抗して憲法改正へ[「時の流れ」]『神社新報』1258、10月30日<<無署名>>

緊張緩和か強化か ベトナム、韓国の立場から[「時の流れ」]『神社新報』1259、11月6日<<無署名>>

国会解散総選挙へ 朝野両党は同舟相援の人か[「時の流れ」]『神社新報』1260、11月13日<<無署名>>

神州清潔の民か新州不潔の民か[巻頭言]『新勢力』17-11、11月15日<<無署名>>

ニクソンの大勝利 米大統領選挙を分析する[「時の流れ」]『神社新報』1261、11月20日<<無署名>>

敗残日本人を救出 南洋から樺太満洲にまで[「時の流れ」]『神社新報』1262、11月27日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

*「日本論」載季陶著 市川宏訳、竹内好解説 書いてないことの意味を『小日本』11月<<神社本庁所蔵>> [書いてないことの意味を[「戴季陶「日本論」を読んで」](『中国』64、1969年3月)の再録]

*論評せざる理由『祖国と青年』[9]、12月1日<<神社本庁所蔵 170.4>>

サハリンの石油 肥えたるブタ日本の憂ひ[「時の流れ」]『神社新報』1263、12月4日<<無署名>>

憂鬱な東京ローズ 経済大国日本の薄情さ[「時の流れ」]『神社新報』1264、12月11日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

衆議院総選挙結果 共産党上昇の気流に乗る[「時の流れ」]『神社新報』1265、12月18日<<無署名>>

*田中・大平外交を断罪す『思想と行動』11月<<神社本庁所蔵>>

*続 田中・大平外交を断罪す『思想と行動』11月<<神社本庁所蔵>>

*大陸の残置日本人『小日本』12月<<神社本庁所蔵>>

1973(昭和 48)年

- 日本は好い国とて帰化希望者一万五千人[「時の流れ」]『神社新報』1266、1月1日<<無署名>>
 パリ停戦会談開く ハノイと東京の爆撃を想ふ[「時の流れ」]『神社新報』1267、1月15日<<無署名>>
 満洲で始まり満洲で終わった日本の戦争史[「公民教室」]『神社新報』1267～1270、1月15、22、29日、
 2月5日<<無署名>>[『新勢力』18-2、2月15日に転載。『選集昭51年版』収録]
 自衛隊への問題提起－素人兵法談議－『新勢力』18-1、1月15日<<矢島三郎>>
 反天皇思想の提案 共産党党議の意味するもの[「時の流れ」]『神社新報』1268、1月22日<<無署名>>
 海外神社史の編纂－旧満州日本人社会の悲史－『中外日報』1月27、28日
 米国大統領就任演説 その演説は暗示的に止まる[「時の流れ」]『神社新報』1269、1月29日<<無署名>>
 *破綻か独裁かの岐路に立つチリの平和革命路線『小日本』1月
 *反天皇思想の提案『小日本』1月
 ベトナム平和とは 調印後の将来に黒い雲[「時の流れ」]『神社新報』1270、2月5日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]
 美空ひばりは怒る やくざ憲法論に一理あり[「時の流れ」]『神社新報』1271、2月12日<<無署名>>
 日本天皇と外国の元首[「公民教室」]『神社新報』1271～1274、2月12、19、26日、3月5日<<無署名>>【1万世一系の天皇と投票選挙制の大統領、2米国大統領と終身独裁指導者、3西欧立憲君主と米国型の大統領、4祭り主としての天皇】[『選集昭51年版』『天皇 日本人の精神史』収録]
 満洲で始まり満洲で終わった日本の戦争史『新勢力』18-2、2月15日[『神社新報』1267～1270、1月15、22、29日、2月5日から転載。『日本人が虐殺された現代史』(新人物往来社、1973年)、
 『抹殺された日本人の現代史』(全貌社、1995年)、『選集2』)収録]
 日本と共に戦った人々－鎌倉山人 聞き書き－『新勢力』18-2、2月15日[聞き手：鹿島武夫][『日本人が虐殺された現代史』(新人物往来社、1973年)、
 『抹殺された日本人の現代史』(全貌社、1995年)、『選集2』収録]
 社会党の憲法思想 矛盾多くて、あいまい[「時の流れ」]『神社新報』1272、2月19日<<無署名>>
 革命と反革命[「時の流れ」]『神社新報』1273、1274、2月26日、3月5日<<無署名>>[『天皇 日本人の精神史』収録]
 フランス人の背骨 ペタンかドゴールかの対決[「時の流れ」]『神社新報』1275、3月12日<<無署名>>
 リ大佐の「戦時日記」東京大空襲の日を想起する[「時の流れ」]『神社新報』1276、3月19日<<無署名>>
 国鉄へ不信と怒り 沈黙大衆の憤りをきけ[「時の流れ」]『神社新報』1277、3月26日<<無署名>>[『選集昭51年版』
 『時の流れ』収録]
 韓国維新国会成る 隣邦の産業建設のきびしさ[「時の流れ」]『神社新報』1278、4月2日<<無署名>>[『選集昭51年版』
 収録]
 米人捕虜虐待報道 日本新聞人の無知はひどい[「時の流れ」]『神社新報』1279、4月9日<<無署名>>
 楠本正三大人追悼『新勢力』18-4、4月15日
 ベイルートを急襲 なぜイスラエルは強いのか[「時の流れ」]『神社新報』1280、4月23日<<無署名>>

廖承志一行の来日 その心中に秘めたるもの[「時の流れ」]『神社新報』1281、4月30日<<無署名>>
皇室と国民意識[「時の流れ」]『神社新報』1282、1283、5月7、14日<<無署名>>【(上)ゴールデン・ウィークに想ふ、(下)痛切な東宮殿下への御忠告】

田中内閣の選挙改革 議会制の根本から討議せよ[「時の流れ」]『神社新報』1284、5月21日<<無署名>>

日米政局の浪高し 田中首相ニクソン大統領[「時の流れ」]『神社新報』1285、5月28日<<無署名>>

*日本帝国の戦友を想ふ『思想と行動』5月<神社本庁所蔵>

米国へ日系資本進出す ナショナルとコスモポリタン[「時の流れ」]『神社新報』1286、6月3日<<無署名>>

日本帝国の戦友群像『新勢力』18-6、6月15日[葦津珍彦述、鹿島武夫記]

天皇陛下への内奏 憲政運用上ぜひ必要である[「時の流れ」]『神社新報』1287、6月11日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

日本は君主制の国 中曽根追及には反撃せよ[「時の流れ」]『神社新報』1288、6月18日<<無署名>>

日本仏教と新中国 寺院訪問者の報告を見て[「時の流れ」]『神社新報』1289、6月25日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

*皇室と国民意識『小日本』7月<神社本庁所蔵>[『神社新報』1282、1283、5月7、14日の転載か]

世界的な農業危機 日本の将来はどうなるか[「時の流れ」]『神社新報』1290、7月2日<<無署名>>

米ソの核不戦協定 ブレジネフとニクソン接近する[「時の流れ」]『神社新報』1291、7月9日<<無署名>>

悲痛な靖国の遺族 自民党の冷淡に失望と怒り[「時の流れ」]『神社新報』1292、7月16日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

東京都議選を見て 新保守党工作の構想発展[「時の流れ」]『神社新報』1293、7月23日<<無署名>>

大東亜戦争史論序説『日本の動き』5-4、8月1日

内閣総理大臣に問ふ 陛下の名誉を守る法的義務[「時の流れ」]『神社新報』1294、8月6日<<無署名>>

終戦の日に追悼す 同胞戦没者とその古き友を[「時の流れ」]『神社新報』1295、8月13日<<無署名>>

金大中の拉致事件 日本外事警察無能を露呈す[「時の流れ」]『神社新報』1296、8月20日<<無署名>>

金大中事件の波紋 経済大国的外交は良くない[「時の流れ」]『神社新報』1297、8月27日<<無署名>>

チリの平和革命路線 破綻か独裁かの岐路に立つ[「時の流れ」]『神社新報』1298、9月3日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』収録、『新勢力』18-9、10月15日に再録]

維新ありて革命なしー式年遷宮に際しての所感一『新勢力』18-8、9月15日

在日外人の自由限界 金大中事件を裏から考へる[「時の流れ」]『神社新報』1299、9月10日<<無署名>>

自衛隊は違憲か 分際知らぬ札幌の福島判決[「時の流れ」]『神社新報』1300、9月17日<<無署名>>

果然チリに反革命 国際政治への波紋は大きい[「時の流れ」]『神社新報』1301、9月24日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』収録、『新勢力』18-9、10月15日に再録]

日本の言論に抗議 韓国人の民族意識を知れ[「時の流れ」]『神社新報』1302、10月1日<<無署名>>

自衛隊は違憲か—分際知らぬ札幌の福島判決—[巻頭言]『新勢力』18-9、10月15日<<矢島>>[『神社新報』から転載]

チリ平和革命路線破綻—アゼンデ政権亡滅の始末—『新勢力』18-9、10月15日[「時の流れ」(『神社新報』1298、1301、9月3、24日)を再録し、「補筆ノート」を追加]

民主連合政府綱領案 共産党の真意に疑点が多い[「時の流れ」]『神社新報』1304、10月22日<<無署名>>

日本国の対ソ外交 樺太邦人との自由交流を[「時の流れ」]『神社新報』1305、10月29日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

中東の激戦と停戦 国際緊張のきびしさを知れ[「時の流れ」]『神社新報』1306、11月5日<<無署名>>

金大中事件の始末 かれは自由の英雄ではない[「時の流れ」]『神社新報』1307、11月12日<<無署名>>

孔家店打倒の理論 北京週報の論文を読んで[「時の流れ」]『神社新報』1308、11月19日<<無署名>>[『選集昭51年版』『時の流れ』収録]

石油危機緊急対策 独立なき日本の本質露呈す[「時の流れ」]『神社新報』1309、11月26日<<無署名>>

卑劣なる田中外交 屈辱降伏政策侮辱せらる[「時の流れ」]『神社新報』1310、12月3日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

武器外交に無能か 外国人の見た貧弱な日本人[「時の流れ」]『神社新報』1311、12月10日<<無署名>>[『選集昭51年版』収録]

歳末六兆円ボーナス 経済高度成長時代の終末か[「時の流れ」]『神社新報』1312、12月17日<<無署名>>

歳末の国際政局 国家間戦争か民族対決か[「時の流れ」]『神社新報』1313、12月24日<<無署名>>

1974(昭和49)年

チリの平和革命はなぜ破綻したか—相容れぬ自由民主制度とマルクス社会主義的建設—『世界と日本』14-1、1月1日

社会経済展望 生活費暴騰からゼネスト社会混乱の恐れ[「時の流れ」]『神社新報』1314、1月7日<<無署名>>

政治展望 自民党政権の前途 政局不安は避けがたい[「時の流れ」]『神社新報』1314、1月7日<<無署名>>

神道人と政党との間[「時評」]『神社新報』1314、1月7日<<矢島三郎>>[『選集昭51年版』収録]

時の流れは激しい 正月初めの新聞ニュース[「時の流れ」]『神社新報』1315、1月14日<<無署名>>

高貴なる精神の源泉『新勢力』19-1、1月15日

反日感情の真消息 バンコク学生怒りの座に[「時の流れ」]『神社新報』1316、1月21日<<無署名>>

平和革命路線の破綻 チリの軍事クーデター[「公民教室」]『神社新報』1316~1320、1月21、28日、2月4、11、18日【1 サンチャゴの惨劇から 国際共産理論に波乱か、2 アゼンデ政権成立前後の情勢 出発から苦闘避ける道選ぶ、3 バラ色の社会主義建設理論の初の実験国だったが、4 自由民主の憲法を廃棄して独裁への道もとめる、5 平和革命路線への批判的要約ノート】<<無署名>>[『革命と反革命・ロシア革命史話(抄)・平和革命路線の破綻』収録か]

ジャカルタで暴動 海外日本人の立場も大切だ[「時の流れ」]『神社新報』1317、1月28日<無署名>「『選集昭51年版』収録」

*チリーの軍事クーデター『思想と行動』1月<神社本庁所蔵>

皇室と野人との間 御成婚五十年を記念して[「時の流れ」]『神社新報』1318、2月4日<無署名>「『選集昭51年版』『50年史(下)』収録」

多国籍企業の底力 日本、米国の国会論議から[「時の流れ」]『神社新報』1319、2月11日<無署名>
国の威信を失ふな 内外でのゲリラ的危機現象[「時の流れ」]『神社新報』1320、2月18日<無署名>
恥を知る高貴なる精神の民は何処[巻頭言]『新勢力』19-2、2月15日<矢島三郎>

社会主義国と自由 ソルジェニツイン追放さる[「時の流れ」]『神社新報』1321、2月25日<無署名>「『選集昭51年版』収録」

皇室の高貴なる精神の伝統『日本』<日本学協会>24-3、3月1日[『皇室の高貴なる精神の伝統』<皇学館大学講演叢書第28輯>(皇学館大学出版部、1974年6月15日)刊]

元号制度を守れ 諸外国に現存する諸元号制[「時の流れ」]『神社新報』1322、3月4日<無署名>

財閥と労働組合 相競うてインフレを煽る[「時の流れ」]『神社新報』1323、3月11日<無署名>

三月十日の悲しみ 東京空襲から三十年[「時の流れ」]『神社新報』1324、3月18日<無署名>

社会主義と自由? ソルジェニツインの告発[「時の流れ」]『神社新報』1325、3月25日<無署名>「『時の流れ』収録」

社会主義の前途 連合政権経済は破綻する[「時の流れ」]『神社新報』1326、4月1日<無署名>

シベリア開発提案 日本の軍事政策を問はれる[「時の流れ」]『神社新報』1327、4月15日<無署名>

チャイナ・タウンと海外日本人[「公民教室」]『神社新報』1327~1329、4月15、22日、5月6日<矢島三郎>【1 中華文明まもる華僑 ジャカルタだけは例外的2 民族意識と国民意識 中国人よりも民族色うすい日本人】

海外日本人とチャイナ・タウン—民族と近代国家権力—[巻頭言]『新勢力』19-3、4月15日<矢島三郎>

国民春闘とは何か 国民公衆への反抗闘争か[「時の流れ」]『神社新報』1328、4月22日<無署名>「『選集昭51年版』収録」

国政に、まじめさを 神道的日本人の正直さ[「時の流れ」]『神社新報』1329、5月6日<無署名>「『選集昭51年版』収録」

日本と韓国との間 政府と民間人とのけじめ[「時の流れ」]『神社新報』1330、5月13日<無署名>

スパイ事件の続発 ロッカーには鍵をかけよ[「時の流れ」]『神社新報』1331、5月20日<無署名>

マーロットの惨劇 市民の感情と国家の理性と[「時の流れ」]『神社新報』1332、5月27日<無署名>

靖国法案の前途 やる気があるのか無いのか[「時の流れ」]『神社新報』1333、6月3日<無署名>

政府、日教組と対決 全国選挙が黒白を決する[「時の流れ」]『神社新報』1334、6月10日<無署名>

靖国法案の舞台裏 根本的に精神姿勢を正せ[「時の流れ」]『神社新報』1335、6月17日<無署名>

参議院選挙始まる 将来の混線を予想する一票[「時の流れ」]『神社新報』1336、6月24日<無署名>

中国壁新聞の報道 自由日本人は自由を知らぬ[「時の流れ」]『神社新報』1337、7月1日<無署名>

公海の自由を守れ カラカスで国連海洋会議[「時の流れ」]『神社新報』1338、7月8日<<無署名>>
参議院選挙終る 源田氏ら神社界推薦者当選[「時の流れ」]『神社新報』1339、7月15日<<無署名>>『選
集昭51年版』収録]

神武創業と明治天皇－陸海軍大元帥史小論－『新勢力』19-6、7、7月15日、8月15日

田中政権大動揺す 参議院選挙の業績上当然[「時の流れ」]『神社新報』1340、7月22日<<無署名>>

財界の連立政権論 桜田武氏初めて公表す[「時の流れ」]『神社新報』1341、8月5日<<無署名>>

韓国と日本ペンクラブ その底に度しがたい愚かさ[「時の流れ」]『神社新報』1342、8月12日<<無
署名>>

ニクソン辞任する 米国大統領制初めての動揺[「時の流れ」]『神社新報』1343、8月19日<<無署名>>

朴大統領狙撃さる 日本人の慎みを要望する[「時の流れ」]『神社新報』1344、8月26日<<無署名>>『選
集昭51年版』『時の流れ』収録]

韓国人心の潮流 日本人は冷静慎重であれ[「時の流れ」]『神社新報』1345、9月2日<<無署名>>

大元帥の統帥と軍政の間 皇軍終末悲史『新勢力』19-8、9月15日[『選集1』収録]

無法暴力犯罪横行 日本の治安政策は改まらぬ[「時の流れ」]『神社新報』1346、9月16日<<無署名>>

国家の精神的基礎[1974年5月22日講演(於京都産業大学法学大会)]『産大法学』8-2、9月20日

日本人ゲリラ横行す 日本政府の政治姿勢に責任[「時の流れ」]『神社新報』1347、9月23日<<無署
名>>

日本警察のあまさ ヨーロッパ・韓国とのちがひ[「時の流れ」]『神社新報』1348、9月30日<<無署
名>>

米大統領の日韓訪問 朴正熙が核兵器を没収[「時の流れ」]『神社新報』1349、10月7日<<無署名>>

天安門前の孫文像 孔子批判時代の国慶節に[「時の流れ」]『神社新報』1350、10月14日<<無署名>>

米国・ソ連・中国の亡滅を語る『新勢力』19-9、10月15日<<矢島三郎>>[表紙目次では<<葦津珍彦>>]

佐藤平和ノーベル賞 島国日本の喜劇に対して[「時の流れ」]『神社新報』1351、10月21日<<無署名>>

田中内閣支持急落 世論調査の新記録を見て[「時の流れ」]『神社新報』1352、10月28日<<無署名>>

維新か革命か－国家の精神的基礎と現下の憲法問題－[「特集・国家共同体への視角－憲法」]『祖国と
青年』17、11月1日[『日本の歴史と文化と伝統に立って 日本青年協議会結成三十周年記念出版』
(日本青年協議会、2001年)収録]

田中内閣倒れるか ファンファーニは組閣断念[「時の流れ」]『神社新報』1353、11月4日<<無署名>>

祖宗の神器、不文の大法 剣璽御動座の古儀復古す[「時の流れ」]『神社新報』1354、11月11日<<矢
島三郎>>[『選集昭51年版』『みやびと覇権』『50年史(下)』『選集1』収録]

剣璽御動座の古儀復活す－不文の大法は赫々たり－『新勢力』19-10、11月15日<<矢島三郎>>[『神
社新報』1354、11月11日と同文]

田中金脈のねばり 北京から援護の巨弾来る[「時の流れ」]『神社新報』1355、11月18日<<無署名>>

米大統領を迎へて 太平洋をめぐる国際展望[「時の流れ」]『神社新報』1356、11月25日<<無署名>>

*反共主義者の思考停止『輿論』<輿論社>11月<神社本庁所蔵>

韓国の人心と日本の知識人－青瓦台野党夫人死す『浪漫』3-11、11月1日[『選集2』収録]

田中首相辞任決意 国民に君子人への憧れ残る[「時の流れ」]『神社新報』1357、12月2日<無署名>
政変と国際政治 後継首相の政治性格を占ふ[「時の流れ」]『神社新報』1358、12月9日<無署名>[『選
集昭51年版』収録]

三木新内閣成立す あいまいな妥協性が特徴か[「時の流れ」]『神社新報』1359、12月16日<無署
名>[『選集昭51年版』収録]

*マルクス－レーニン主義的執権思想の変遷と発展『思想と行動』12月<神社本庁所蔵>

1975(昭和50)年

神道に見る天皇[「特集 象徴天皇とは何か」]『月刊世界政経』4-1、1月1日

明治一世一元の元号[「時の流れ」]『神社新報』1360、1月6日<無署名>

経済の行きつまり 一世紀の産業成長を反省[「時の流れ」]『神社新報』1361、1月13日<無署名>

昭和五十年の正月『新勢力』20-1、1月15日[加筆修正して「日本の元号を考へる－精神文化の視点
に立つて－」と改題『祖国と青年』27、1977年2月1日に発表]

皇室侮辱言論対策 大臣の無節操は許されない[「時の流れ」]『神社新報』1362、1月20日<無署名>

中国憲法改正さる 人民代表会議と政治情況[「時の流れ」]『神社新報』1363、1月27日<無署名>

緊張緩和の夢消ゆ 少なくとも消極国防策は急ぐ[「時の流れ」]『神社新報』1364、2月3日<無署名>

毛沢東も斜陽か 中国人民代表会議の分析[「時の流れ」]『神社新報』1365、2月10日<無署名>

等距離敬遠外交を 中ソの対日外交の主張対立[「時の流れ」]『神社新報』1366、2月17日<無署名>

韓国で国民投票 日本の新聞論評は非常識だ[「時の流れ」]『神社新報』1367、2月24日<無署名>[『選
集昭51年版』収録]

上杉一枝大人を追悼－憂国の情に徹した神道人長老－『神社新報』1367、2月24日

韓国政治犯を釈放 早川・太刀川のみじめさ[「時の流れ」]『神社新報』1368、3月3日<無署名>

神道と天皇－象徴の法理－[「公民教室」]『神社新報』1368～1370、3月3、17、24日<相模壮一>[『選
集昭51年版』収録]

永遠の維新者『新勢力』20-3、4、3月15日、4月15日【永遠なる維新、明治初期の思想の潮流、
西郷隆盛決然として立つ、西南の役についての所感】[「永遠の維新者 西郷隆盛と西南役」と改題
『永遠の維新者』収録]

公務員対地方住民 給与引下げの運動ひろがる[「時の流れ」]『神社新報』1369、3月17日<無署名>

日中で反ソ条約か 憲法精神違反の議論も起る[「時の流れ」]『神社新報』1370、3月24日<無署名>

国際共産政權進出 カンボジアとポルトガルと[「時の流れ」]『神社新報』1371、3月31日<無署名>

西欧共産諸党混線 新ファシズムへのおそれ[「時の流れ」]『神社新報』1372、4月7日<無署名>

米アジア政策の破局 蒋介石総統の訃報にせって[「時の流れ」]『神社新報』1373、4月14日<無
署名>

国民は無事を欲する だが無事ですまぬ都の財政[「時の流れ」]『神社新報』1374、4月21日<無署
名>

名》

陛下御渡米に憂念 日米対等国としての威儀を[「時の流れ」]『神社新報』1375、4月28日《無署名》
東洋の政局急転す 中ソの激しい覇権闘争時代[「時の流れ」]『神社新報』1376、5月5日《無署名》
二十周年に寄せて『新勢力』20-5、5月15日

サイゴン陥落す 注目される在韓米軍の将来[「時の流れ」]『神社新報』1377、5月12日《無署名》[『選集昭51年版』『時の流れ』収録]

日本訪問の英国女王 威厳ある王朝の気風に接す[「時の流れ」]『神社新報』1378、5月19日《無署名》[『選集昭51年版』『50年史(下)』収録]

米海軍の示威作戦 流動するアジア情勢の中で[「時の流れ」]『神社新報』1379、5月26日《無署名》
覇権主義とはなにか 三木、宮沢、成田の無知[「時の流れ」]『神社新報』1380、6月2日《無署名》
霧の中の印度支那 真の独立解放とはなにか[「時の流れ」]『神社新報』1381、6月9日《無署名》
金日成神皇皇帝論 閉ざされた鉄扉の内の動き[「時の流れ」]『神社新報』1382、6月23日《無署名》[『選集昭51年版』『50年史(下)』収録]

緊迫する東洋政局 覇権反対イエスカノーか[「時の流れ」]『神社新報』1383、6月30日《無署名》
三木首相撲られる ユーモラス・アクション写真[「時の流れ」]『神社新報』1384、7月7日《無署名》

朝鮮を知るために[「公民教室」]『神社新報』1384～1391、7月7、14、21、28日、8月4、11、18、25日
《相模壮一》【1日本人と異なる朝鮮人の政治感覚 日本人は存外それを知らぬ、2悲惨な暗殺史に直結する韓国の政治史 李王朝の勃興から亡滅まで、3終始「王党」思想で一貫 安重根の思想とその論理、4先駆の時代からセクト闘争苛烈 朝鮮共産主義闘争史(その一)、5金日成「専制君主」に朝鮮共産主義闘争史(その二)、6北と同じく南も暗殺の連続 韓国の初代大統領李承晩覇業の始末史、7朴政権の巧妙な政術 経済的自由を与へつつ独裁権力を固める、8避けがたい「権力」法則 金日成と朴正熙との対決】[『選集昭51年版』収録。「朝鮮を知るために(韓国政治史要)」と題して『小日本』8、1979年12月15日に転載]

転形期の国会終る 暗い政治空白の時代到来[「時の流れ」]『神社新報』1385、7月14日《無署名》
権力を競う人間群像—朝鮮半島の覇者とその対決者—『新勢力』20-6、7月15日《相模壮一》

混沌たる二十世紀末 世界どこの地にも安定がない[「時の流れ」]『神社新報』1386、7月21日《無署名》

東宮殿下沖繩へ 共謀の狂犬は精神病院に[「時の流れ」]『神社新報』1387、7月28日《無署名》[『選集昭51年版』『50年史(下)』収録]

みやびと覇権—大君は神にしあれば...『正論』18、8月1日[『みやびと覇権』『選集1』収録。英語訳：Courtly Grace and Military Rule『Japan Echo』3-1、1976《Uzuhiko》Ashizu》]

陛下御渡米の意味 それは何の必要があるのか[「時の流れ」]『神社新報』1388、8月4日《無署名》
悲史の中に輝く国体 終戦三十周年をむかへて[「時の流れ」]『神社新報』1389、8月11日《無署名》
筑前玄洋社史評論『新勢力』20-8、8月15日[『小日本』52、1984年5月1日に転載、『選集2』収録]

日本赤軍の勝利 暴力の革命か法の支配か[「時の流れ」]『神社新報』1390、8月18日《無署名》

八月十五日の風景 皇居前から靖国社頭へ[「時の流れ」]『神社新報』1391、8月25日《無署名》[『選

集昭 51 年版』収録]

- ポルトガルの激流 共産独裁と自由との戦ひ[「時の流れ」]『神社新報』1392、9月1日<<無署名>>
- 暴戻な海賊行為 漁民は社会党に対して怒る[「時の流れ」]『神社新報』1393、9月15日<<無署名>>[『選集昭 51 年版』収録]
- 創価学会と共産党 謀略協定は成功しない[「時の流れ」]『神社新報』1394、9月22日<<無署名>>[『選集昭 51 年版』収録]
- 陛下の御渡米を前に 警備の緊張感高まる[「時の流れ」]『神社新報』1395、9月29日<<無署名>>
- 日本国の現代と将来 『瑞垣』106、10月1日
- スペインのあらし フランコ独裁とテロ反乱[「時の流れ」]『神社新報』1397、10月13日<<無署名>>
- 天皇陛下の御渡米—俗流マスコミ意識調査の誤り[巻頭言]『新勢力』20-9、10月15日
- 天皇陛下の御渡米 一路御平安のお還りを待つ[「時の流れ」]『神社新報』1398、10月20日<<無署名>>[『選集昭 51 年版』『50 年史(下)』収録]
- 天皇・元号制について 毎日新聞の世論調査批評[「時の流れ」]『神社新報』1399、10月27日<<無署名>>
- 毛、緊張緩和に反対 非武装中立の夢は消える[「時の流れ」]『神社新報』1400、11月3日<<無署名>>
- 天皇陛下のお答へ 新聞記者との合同会見で[「時の流れ」]『神社新報』1401、11月10日<<無署名>>
- 憲法と超法的措置 国会の重大事が討議されない[「時の流れ」]『神社新報』1402、11月17日<<無署名>>
- 反シオニズム決議 国連創立精神への挑戦か[「時の流れ」]『神社新報』1403、11月24日<<無署名>>
- フランコ総統歿す スペイン内乱戦と王政復古[「時の流れ」]『神社新報』1404、12月1日<<無署名>>[『選集昭 51 年版』収録]
- 「明治天皇のみことのり」—日本全国民良識の書—[「読書」]『神社新報』1405、12月15日
- 国鉄スト敗退す 社会事情の質的変遷を知れ[「時の流れ」]『神社新報』1406、12月22日<<無署名>>[『選集昭 51 年版』収録]

1976(昭和 51)年

- 全日本に防空壕を造れ 祖国の防衛に緊急の道[「時の流れ」]『神社新報』1407、1月5日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 日本の外交と経済 新年の新聞を見ての感じ[「時の流れ」]『神社新報』1408、1月12日<<無署名>>
- 白髪の友よ剛毅なれ—毛呂清輝兄へ— 『新勢力』21-1、1月15日
- 謀略天才・周恩来 北京政権に体質変化か[「時の流れ」]『神社新報』1409、1月19日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 内戦か植民征服か アンゴラを世界は凝視する[「時の流れ」]『神社新報』1410、1月26日<<無署名>>
- *カンボジア仏教王国亡ぶ 『輿論』<輿論社>1月<神社本庁所蔵>
- 神武創業の基 建国記念の日に想う 『理想世界』30-2、2月1日

社会現象変遷は急 国会の議論も様相変わるか[「時の流れ」]『神社新報』1411、2月2日<<無署名>>
 宮本顕治残虐記録 その今日的意味はなにか[「時の流れ」]『神社新報』1412、2月9日<<無署名>>
 新植民征服戦の時代か『新勢力』21-2、2月15日<<相模壮一>>

華国鋒の首相代行 幕裏での党内闘争の激しさ[「時の流れ」]『神社新報』1413、2月16日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

議会政治の末期現象 宮本からロッキード社へ[「時の流れ」]『神社新報』1414、2月23日<<無署名>>
 神社新報の社風[「神社新報創刊三十年を迎へ」]『神社新報』1414、2月23日

愚かな議会証人問答 財閥政治の本質を発見せよ[「時の流れ」]『神社新報』1415、3月1日<<無署名>>
 副島外務卿を語る－日本維新外交の英風－[「日本近代史の明星①」]『理想世界』30-3、3月1日
 危機線上の鄧小平 北京の路線闘争をさぐる[「時の流れ」]『神社新報』1416、3月15日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

靖国神社の祭儀々礼考『新勢力』21-3、3月15日

ロッキードの疑獄 日本国会は無能、無知か[「時の流れ」]『神社新報』1417、3月22日<<無署名>>
 韓民主救国宣言 米人と日本人の反響の開き[「時の流れ」]『神社新報』1418、3月29日<<無署名>>
 [「右翼陣営の児玉誉士夫評価」]『経済往来』28-4、4月1日

永遠の維新者西郷南洲を語る－天下を震撼させた西南の役－[「日本近代史の明星②」]『理想世界』30-4、4月1日

民主的政治と汚職 昭和四十七年初秋のころ[「時の流れ」]『神社新報』1419、4月5日<<無署名>>
 政党と新聞へ不信 田中所感表明について[「時の流れ」]『神社新報』1420、4月12日<<無署名>>
 読史余談 西郷隆盛論『新勢力』21-4、4月15日[『小日本』52、1984年5月1日に転載]

天安門広場の騒乱 毛沢東もすでに過去の人[「時の流れ」]『神社新報』1421、4月19日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

議会不信の高まり 汚職に対する国民のセンス[「時の流れ」]『神社新報』1422、4月26日<<無署名>>
 憲法草案作成にいのちを燃やした井上毅 東洋初めての立憲議会を実現させた民権運動[「日本近代史の明星③」]『理想世界』30-5、5月1日

天下泰平ではない 議会無能、春闘の犠牲者[「時の流れ」]『神社新報』1423、5月3日<<無署名>>
 続読史余談 頭山満論『新勢力』21-5、5月15日[『小日本』52、1984年5月1日に転載、『選集2』収録]

内田良平のロシア革命観『民族公論』復刊1[通号209]<内田良平先生特集号>、5月15日

ソ連海軍にも反乱 盛者必滅の理法は宿命か[「時の流れ」]『神社新報』1424、5月17日<<無署名>>
 共産党綱領変質か 社会主義協会への注目[「時の流れ」]『神社新報』1425、5月24日<<無署名>>
 疑獄真相公開せよ 政治不信を深めた今国会[「時の流れ」]『神社新報』1426、5月31日<<無署名>>

*食客列伝『輿論』<輿論社>5月<神社本庁所蔵>

米国外交の停滞 大統領選挙戦の前と後で[「時の流れ」]『神社新報』1427、6月7日<<無署名>>

“東洋防衛の大義”だった日清戦争—外国の武官を感嘆させた忠勇の日本軍将兵—[「日本近代史の明星④」]『理想世界』30-6、6月1日

外務省文書を公開 憲法の権威いよいよ低下す[「時の流れ」]『神社新報』1428、6月14日[『時の流れ』収録]

中国へ軍事援助か 米国の反ソ冒険政策は危い[「時の流れ」]『神社新報』1429、6月21日<無署名>

一葉落ち秋を知る 朝野政党の老弱と混迷[「時の流れ」]『神社新報』1430、6月28日<無署名>

横浜中華街の闘争 内政干渉に屈するなかれ[「時の流れ」]『神社新報』1431、7月5日<無署名>

欧州共産党会議 ソ連共産党の考へるもの[「時の流れ」]『神社新報』1432、7月12日<無署名>

日本の神道とナチス精神[「資料・復刻論文」]『新勢力』21-6・7、7月15日[『神道的日本民族論』から転載]

現代社会思潮と日本文明 特にネオ・ファシズムの危機『新勢力』21-6・7、8、7月15日、8月15日[『現代社会思潮と日本文明—特にネオ・ファシズムの危機』<神社本庁時局対策資料 第14集>(神社本庁時局対策本部、1976年5月20日)の転載]

精鋭特攻の急襲 イスラエル国軍の卓抜さ[「時の流れ」]『神社新報』1433、7月19日<無署名>[『新勢力』21-8、8月15日に転載、『時の流れ』収録]

米価一割値上げ 農漁村を守るは国の大事[「時の流れ」]『神社新報』1434、7月26日<無署名>

宮沢発言の裏の力 ソ連、中国、米国の三大風圧か[「時の流れ」]『神社新報』1435、8月2日<無署名>

田中前首相を逮捕 政治的黒、法的白でないか[「時の流れ」]『神社新報』1436、8月9日<無署名>

神道とナチスは断じて異なる[「資料・復刻論文」]『新勢力』21-8、8月15日[『神道的日本民族論』から転載か]

精鋭特攻の急襲—イスラエル国軍の卓抜さ[巻頭言]『新勢力』21-8、8月15日[『神社新報』1433、7月19日から転載]

金日成王朝の消息 宣伝が過ぎて嫌はれる[「時の流れ」]『神社新報』1437、8月23日<無署名>[『時の流れ』収録]

朝野両政党傷つく 議会制政党政治に致命傷か[「時の流れ」]『神社新報』1438、8月30日<無署名>

人種民族的偏見を破砕し世界に光をかけた日露大戦『理想世界』30-8、8月

政府与党内混乱 政党党人の進退を知れ[「時の流れ」]『神社新報』1439、9月6日<無署名>

革新政党の本質 公党の責任ある立場を示せ[「時の流れ」]『神社新報』1440、9月13日<無署名>

毛沢東死す 東洋の国際情勢に変動[「時の流れ」]『神社新報』1441、9月20日<無署名>[『時の流れ』収録]

法と道德の混乱 新憲法いらいの混線を正せ[「時の流れ」]『神社新報』1442、9月27日<無署名>

天皇—象徴の憲法理論 神道人の立場として[「特集・天皇陛下御在位五十年を奉祝する」]『祖国と青年』25、10月1日

ソ連の暴圧的外交 ミグ戦闘機返還について[「時の流れ」]『神社新報』1443、10月4日<無署名>

英国とスウェーデン 欧州社会労働党のなやみ[「時の流れ」]『神社新報』1444、10月11日<無署名>

毛沢東が斃れた中国の前途 変動する世界権力地図『新勢力』21-9、10月15日<相模壮一>

- タイ王国の危局 アジア民主主義の終末[「時の流れ」]『神社新報』1445、10月18日<無署名>
- 中国政局大動揺へ 未亡人江青等への弾圧[「時の流れ」]『神社新報』1446、10月25日[『時の流れ』収録]
- 筑前玄洋社史「英雄群像」の労作『小日本』[復刊]1、11月1日
- 天皇陛下御在位五十年 ただ謝し奉るのみ『理想世界』30-11、11月1日
- 北京から平壤へ 黒い霧につつまれた不信[「時の流れ」]『神社新報』1447、11月8日<無署名>
- 日米の民主政治 選挙投票は絶対の権威か[「時の流れ」]『神社新報』1448、11月15日<無署名>
- 政党権力興亡史『新勢力』21-10、11月15日[『選集2』収録]
- 天皇と神儒仏の間『新勢力』21-10、11月15日<相模壮一>
- 鬼頭判事補の黙秘 新憲法型人間像の典型か[「時の流れ」]『神社新報』1449、11月22日<無署名>
- 政策論空白の選挙 政党不信・政治無関心の中で[「時の流れ」]『神社新報』1450、11月29日<無署名>
- ソ連の国際新戦略 日本共産党と友好回復す[「時の流れ」]『神社新報』1451、12月6日<無署名>
- 歳末総選挙の結果 長期保守党政権の終末か[「時の流れ」]『神社新報』1452、12月13日<無署名>
- 歳末多事多端の記 日本、中国、韓国から米国へ[「時の流れ」]『神社新報』1453、12月20日<無署名>

1977(昭和 52)年

- 新憲法時代三十年 国民精神の現況を観る[「時の流れ」]『神社新報』1454、1月3日<無署名>
- 北京政変その他 中共党史の書き直しプラン[「社会評論」]『新勢力』22-1、1月15日<無署名>
- 三木内閣の惨敗 国民意識を投票で分析する[「社会評論」]『新勢力』22-1、1月15日<無署名>
- 新憲法型人間像－田中角栄と鬼頭史郎－『新勢力』22-1、1月15日<赤坂一郎>
- 大学生の過剰生産 一世紀文明の弊害現はれる[「時の流れ」]『神社新報』1455、1月17日<無署名> [『選集昭56年版』収録]
- 元号制の再確認を 福田内閣閣議決定を急げ[「時の流れ」]『神社新報』1456、1月24日<無署名>
- 米国大統領就任す 政治牧師カーターの真意[「時の流れ」]『神社新報』1457、1月31日<無署名>
- 「近代への洞察」『小日本』2、2月1日
- 日本の元号を考へる－精神文化の視点に立つて－[「特集・元号、いま問われているもの」]『祖国と青年』27、2月1日[「昭和五十年の正月」(『新勢力』20-1、1975年1月)に加筆。「一世一元の制の意義」と改題・「追補」を付して『元号－いま問われているもの』(日本教文社、1977年12月10日)収録、同書から『みやびと覇権』収録]
- 社会主義国と自由 ソ連、チェコから中国まで[「時の流れ」]『神社新報』1458、2月7日<無署名>
- 議会空論放送時代 財政審議から外交政策まで[「時の流れ」]『神社新報』1459、2月14日<無署名>
- 社会党大会終る 同一の党旗の下で呉越同舟[「時の流れ」]『神社新報』1460、2月21日<無署名>
- 財政論は底辺無視 朝野いづれも官尊民卑か[「時の流れ」]『神社新報』1461、2月28日<無署名>

政治判断か裁判か ニクソンと田中のケース[「時の流れ」]『神社新報』1462、3月7日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

人権擁護内政干渉 米国・ソ連・日本・韓国の間[「時の流れ」]『神社新報』1463、3月14日<<無署名>>

木ノ下、西島両氏に答える『RECONQUISTA』21、5月1日

元号法の再確認を 福田内閣閣議決定を急げ[「社会評論」]『新勢力』22-3、3月15日<<無署名>>

大学生の数を半分に削れ 知的業務より筋骨の労務を[「社会評論」]『新勢力』22-3、3月15日<<無署名>>

新海洋法時代来たる 地主国家主義への対処を急げ[「社会評論」]『新勢力』22-3、3月15日<<無署名>>

流行ドラマ「花神」の不快さ『新勢力』22-3、3月15日<<赤坂一郎>>

抱閥撃析の説[「春花秋霜」]『新勢力』22-3、3月15日

自民、社会・党内対立 占領下政党解体の時期か[「時の流れ」]『神社新報』1464、3月21日<<無署名>>

福田首相、米国へ 人権外交に理性的節度を[「時の流れ」]『神社新報』1465、3月28日<<無署名>>

絵だ、社会党を去る 一葉落ちて天下の秋を知る[「時の流れ」]『神社新報』1466、4月4日<<無署名>>

果然、ソ連邦の暴圧 北洋上日本の船影全くなし[「時の流れ」]『神社新報』1467、4月11日<<無署名>>

貧困者蔑視の財政論 社会党は労働貴族党だ[「社会評論」]『新勢力』22-4、4月15日<<無署名>>

天皇制元号反対者の愚かさ[「社会評論」]『新勢力』22-4、4月15日<<無署名>>

米韓問題と日韓外交 内政不干渉の道とはなにか[「社会評論」]『新勢力』22-4、4月15日<<無署名>>

アラブ財閥の世界支配[「春花秋霜」]『新勢力』22-4、4月15日

国際政治の緊張感 日本人は鈍感すぎないか[「時の流れ」]『神社新報』1468、4月18日<<無署名>>

中曽根証言を問ふ 現代政治家水準下落の現象[「時の流れ」]『神社新報』1469、4月25日<<無署名>>[『時の流れ』収録]

天皇一高貴なる統治の伝統『祖国と青年』29、5月1日

新海洋法提案さる 問題は多いが緊急を要する[「時の流れ」]『神社新報』1470、5月2日<<無署名>>

ポツダム政党没落の弔鐘 自民社会党の破綻は明らか[「社会評論」]『新勢力』22-5、5月15日<<無署名>>

日ソ海洋会談始る ソ連世界制覇へ国際非難[「時の流れ」]『神社新報』1471、5月16日<<無署名>>

筑前有志間の大陸政策対決史『小日本』3、5月20日

連合政権論を評す 人的党閥論あって政見なし[「時の流れ」]『神社新報』1472、5月23日<<無署名>>

モスクワ交渉敗北 福田内閣の官僚外交の故か[「時の流れ」]『神社新報』1473、5月30日<<無署名>>

カーター外交混乱 朴正熙“備あれば患なし”[「時の流れ」]『神社新報』1474、6月6日<<無署名>>

カーター決意表明 必要時に在韓核を行使す[「時の流れ」]『神社新報』1475、6月13日<<無署名>>

海上警備航空隊－新海洋法に緊急を要す－[「社会評論」]『新勢力』22-6、6月15日<無署名>

日本は戦力ゼロではない－対ソ外交には毅然たれ－[「社会評論」]『新勢力』22-6、6月15日<無署名>

政治家水準の急転落－わか者たちに国政への関心を－[「社会評論」]『新勢力』22-6、6月15日<無署名>

ソ連邦の新憲法案 自由は美辞の空文にすぎぬ[「時の流れ」]『神社新報』1476、6月20日<無署名> [『時の流れ』収録]

覇権主義横行す 日本をめぐる列強の情況[「時の流れ」]『神社新報』1477、6月27日<無署名>

連合政権政策構想 安保反対も昔のまぼろしか[「時の流れ」]『神社新報』1478、7月4日<無署名>

海洋制覇の新時代 日本四周の波濤はきびしい[「時の流れ」]『神社新報』1479、7月11日<無署名>

ソ連の対日暴圧外交と福田鳩山の無責任外交[「社会評論」]『新勢力』22-7、7月15日<無署名>

武力大いに発揚すべし[「社会評論」]『新勢力』22-7、7月15日<無署名>

内田良平大人之命四十年祭[「社会評論」]『新勢力』22-7、7月15日<無署名>

ロシヤ革命における明石元二郎－「落花流水」を中心にして『新勢力』22-7、7月15日

筑前藩喜多岡勇平－歴史は真相から遠ざかる『新勢力』22-7、7月15日<赤坂一郎>

社共両党惨敗する 注目される神政連の活動[「時の流れ」]『神社新報』1480、7月18日<無署名>

黒龍会創立前後と「露西亞凶国論」の出版[「特集・黒龍会」]『愛国戦線』23-3、7月20日

最高裁の歴史的憲法判決 占領指令の偏見を解消す[「時の流れ」]『神社新報』1481、7月25日<無署名> [『時の流れ』収録]

鄧小平権力の復活 前途に政局波乱を予想する[「時の流れ」]『神社新報』1482、8月1日<無署名> [『時の流れ』収録]

原爆記念三十三回忌 日本の子を守る壕を掘れ[「時の流れ」]『神社新報』1483、8月15日<無署名>

戦歿者追悼儀式 宮内庁談話に憤りの声[「時の流れ」]『神社新報』1484、8月22日<無署名>

米中間に暗い風雪 朴東鎮韓国外交の大胆さ[「時の流れ」]『神社新報』1485、8月29日<無署名>

*最高裁憲法判決の法理『生政連ニュース』8月<神社本庁所蔵> [『みやびと覇権』収録]

社会党内混乱す 朝野両党共に無力を露呈す[「時の流れ」]『神社新報』1486、9月5日<無署名>

陛下、那須で御談話 明治天皇の御志そのままに[「時の流れ」]『神社新報』1487、9月12日<無署名>

参議院選挙と日本の政局[「社会評論」]『新勢力』22-9、9月15日<無署名>

津市地鎮祭裁判の意義[「社会評論」]『新勢力』22-9、9月15日<無署名> [「最高裁の歴史的憲法判決 占領指令の偏見を解消す」(『神社新報』1481、7月25日)の改題・転載]

日本国の光栄と独立－ヤルタ、ポツダムの桎梏からの解放『新勢力』22-9、9月15日 [『みやびと覇権』収録]

毛沢東の歿後一年 中国は全く新コースを進む[「時の流れ」]『神社新報』1488、9月19日<無署名>

日朝議連外交黒星 暗黒北朝鮮の政情の複雑さ[「時の流れ」]『神社新報』1489、9月26日<無署名>

憲法と国防－日本国憲法の致命的欠陥は、第九条にのみあるのではない - 『世界と日本』17-9、10月1日

日本国の光栄と独立 戦後体制の偽善を歴史的に究明する『祖国と青年』31、10月1日

米国は愚民政治か カーターと朴正熙との外交[「時の流れ」]『神社新報』1490、10月3日<<無署名>>

天皇祭祀は天下の公事[「社会評論」]『新勢力』22-10、10月15日<<無署名>>

信教自由権史の沿革－日本のキリスト教解禁について『新勢力』22-10、10月15日

赤軍へ無条件降伏 日本政府の声明に信頼なし[「時の流れ」]『神社新報』1491、10月17日<<無署名>>[「時の流れ」収録]

鄧小平談話は逆効果 訪日日本人の責任でないか[「時の流れ」]『神社新報』1492、10月24日<<無署名>>

西独過激派撃滅へ 世界に嘲られる日本政府[「時の流れ」]『神社新報』1493、10月31日<<無署名>>[「時の流れ」収録]

米韓外交の冷却化 日本人の対韓蔑視の危さ[「時の流れ」]『神社新報』1494、11月7日<<無署名>>

おのれの欲するままに[「アンケート わたくしにとってアナキズムとはなにか」]『思想の科学[第6次]』83、11月10日

日本の神仏へ挑戦 警察の俗物主義に抗議する[「時の流れ」]『神社新報』1495、11月14日<<無署名>>[『選集昭56年版』『50年史(下)』収録]

福田内閣、赤軍へ無条件降伏 日航機ハイジャック事件 国際世論に侮られる[「社会評論」]『新勢力』22-11、11月15日<<無署名>>

日本赤軍と世界革命 テロリズムの条件と限界[「社会評論」]『新勢力』22-11、11月15日<<無署名>>

彼らは歴史の法則に無知だった 西独のハイジャック事件 真の平和と独立とは[「社会評論」]『新勢力』22-11、11月15日<<無署名>>

変貌する北京の近況 うすれて行く毛沢東の影[「社会評論」]『新勢力』22-11、11月15日<<無署名>>

日本の国防と対韓政策『新勢力』22-11、11月15日<<赤坂一郎>>

米韓関係緊張す 韓国の自主国防力と日本[「時の流れ」]『神社新報』1496、11月21日<<無署名>>

高度財政政策を 無力無能な国際経済対策[「時の流れ」]『神社新報』1497、11月28日<<無署名>>

サダト外交の勇氣 宗教と政治の微妙なからみ[「時の流れ」]『神社新報』1498、12月5日<<無署名>>

昭和五二年回顧[「時の流れ」]『神社新報』1499、1500、12月12、19日【(上)新海洋法、憲法裁判など、(下)過激派横行、円高対策など】<<無署名>>

維新運動と志士仁人の道『青年思想』19、12月15日

国際波長と一致せぬ武士のなくなった日本国『小日本』4、12月20日

1978(昭和53)年

正月に思ふ時の流れ『神社新報』1501、1月2日<<無署名>>

世界史の潮流に異変 社会秩序のランク転位す[「時の流れ」]『神社新報』1502、1月16日<<無署名>>

吳越同舟の外交 ソ連対米中の間にとって[「時の流れ」]『神社新報』1503、1月23日<<無署名>>
 明治聖上と十四年の政変—立憲史上の銘記すべき一年『不二』33-1、1月25日
 ソ連軍事力の暴圧 千島からアフリカ沿岸まで[「時の流れ」]『神社新報』1504、1月30日<<無署名>>
 世界戦略緊張す 園田外相は全く失格か[「時の流れ」]『神社新報』1505、2月6日<<無署名>>
 財政危機国会論議 台所経済思想から脱却せよ[「時の流れ」]『神社新報』1506、2月13日<<無署名>>
 世界戦略上の日本 政財界の戦略見識に疑ひ[「時の流れ」]『神社新報』1507、2月20日<<無署名>>
 専守防衛とは何か 政治論理と戦闘論理の別[「時の流れ」]『神社新報』1508、2月27日<<無署名>> [「時の流れ」収録]
 中国は麻薬犯罪国 週刊文春の告発について[「時の流れ」]『神社新報』1509、3月6日<<無署名>>
 台湾と韓国の問題 日本人は不まじめでないか[「時の流れ」]『神社新報』1510、3月13日<<無署名>>
 社会主義国際情勢 中国ソ連からフランスまで[「時の流れ」]『神社新報』1511、3月20日<<無署名>>
 過激派對策を急げ イタリアの線ではおそい[「時の流れ」]『神社新報』1512、3月27日<<無署名>>
 欧州コムニズム 日本の前途展望の資として[「時の流れ」]『神社新報』1513、4月3日<<無署名>> [「時の流れ」収録]
 過激派に制圧さる 福田内閣の亡国政治姿勢[「時の流れ」]『神社新報』1514、4月10日<<無署名>>
 追悼 剛直の法学者 井上孚麿先生『神社新報』1514、4月10日 [『新勢力』216、5月15日に転載。
 『井上孚麿憲法論集』(神社新報社、1979年3月27日)、『選集昭56年版』『続雲のはたてに 井上孚麿歌集』(井上孚麿先生歌集刊行会、1981年12月8日)、『選集3』収録]
 国防論の波長変る 中ソ国境の緊張高まる[「時の流れ」]『神社新報』1515、4月17日<<無署名>>
 尖閣列島領海侵犯 中国はなぜ日本を侮るのか[「時の流れ」]『神社新報』1516、4月24日<<無署名>>
 領空領海難問頻発 大韓航空尖閣列島事件など[「時の流れ」]『神社新報』1517、5月1日<<無署名>>
 竹内さんの風格[「思い出」]『思想の科学[第6次]』91、5月10日 [『選集3』収録]
 鼓腹撃壤の歌『小日本』5、5月15日
 憲法記念の日に最高裁長官、米国政治家発言[「時の流れ」]『神社新報』1518、5月15日<<無署名>>
 追悼 剛直の法学者 井上孚麿先生『新勢力』216、5月15日 [『神社新報』1514、4月10日から転載]
 国際空港の開設 過激派對策の意味するもの[「時の流れ」]『神社新報』1519、5月22日<<無署名>>
 ソ連軍の制覇進む 世界大戦回避の道は何か[「時の流れ」]『神社新報』1520、5月29日<<無署名>>
 何もせぬ政治哲学 覇権反対条約はせぬがよい[「時の流れ」]『神社新報』1521、6月5日<<無署名>>
 国歌国旗と日教組 国民精神の基礎潮流を知れ[「時の流れ」]『神社新報』1522、6月12日<<無署名>> [『選集昭56年版』収録]
 ベトナム華僑難民 東洋平和は脅かされてある[「時の流れ」]『神社新報』1523、6月19日<<無署名>>
 公企業を民営へ 新経済政策の潮流を暗示[「時の流れ」]『神社新報』1524、6月26日<<無署名>>
 国防意識の転回期 六・二三は反安保の日だが[「時の流れ」]『神社新報』1525、7月3日<<無署名>>

中国対ベトナム アジア全局の不安高まる[「時の流れ」]『神社新報』1526、7月10日<<無署名>>
民主主義と公務員 役人の高給特権を許すな[「時の流れ」]『神社新報』1527、7月17日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
ポツダム宣言の日 三十三年の歩みを見直せ[「時の流れ」]『神社新報』1528、7月24日<<無署名>>
仏教王朝タイ国の憂念 王位継承法、王国憲法を改む[「時の流れ」]『神社新報』1529、7月31日<<赤坂一郎>>
万世のための終戦 聖書と現実の歩みの開き[「時の流れ」]『神社新報』1530、8月14日<<無署名>>
日中友好条約成る その歴史的前途の長期展望[「時の流れ」]『神社新報』1531、8月21日<<無署名>>
靖国神社での記帖 朝日新聞はあせてゐる[「時の流れ」]『神社新報』1532、8月28日<<無署名>>
過激派強硬対策 政府声明は空語でないか[「時の流れ」]『神社新報』1533、9月4日<<無署名>>
臨時議会の前に 日中条約と補正予算と[「時の流れ」]『神社新報』1534、9月11日<<無署名>>
鄧小平明快に語る 社会公明党の政策論理破綻[「時の流れ」]『神社新報』1535、9月18日<<無署名>>
有事立法論に提言 地区国民を救援する任務を[「時の流れ」]『神社新報』1536、9月25日<<無署名>>
総評社会党の動揺 ポツダム時代は終末か[「時の流れ」]『神社新報』1537、10月2日<<無署名>>
列強戦略網からの脱出—冷静な判断と精神的勇気を—『新勢力』220、10月15日<<赤坂一郎>>
元号制要望の大集会 精神文化大転換を予告す[「時の流れ」]『神社新報』1538、10月16日<<無署名>>
西独首相の来日 その外交儀礼と警備を見て[「時の流れ」]『神社新報』1539、10月23日<<無署名>>
日中平和条約 国際情勢の急流を確認せよ[「時の流れ」]『神社新報』1540、10月30日<<無署名>>
陛下「史上初めて」との御言葉 鄧小平大いに語る [「時の流れ」]『神社新報』1541、11月6日<<無署名>>[『選集昭56年版』『時の流れ』『50年史(下)』収録]
国防力強化は急務 ソ連ベトナム軍事同盟成る[「時の流れ」]『神社新報』1542、11月13日<<無署名>>
東洋制覇の非望に抗して『小日本』6、11月20日
千島全列島目標へ 対ソ平和友好条約の前提[「時の流れ」]『神社新報』1543、11月20日<<無署名>>
日教組とILO 占領時の古衣を破棄せよ[「時の流れ」]『神社新報』1544、11月27日<<無署名>>
在日ソ連大使談話 威圧だけで対話姿勢がない[「時の流れ」]『神社新報』1545、12月4日<<無署名>>
歳末朝野の政局 政変と朝鮮統一世界会議[「時の流れ」]『神社新報』1546、12月11日<<無署名>>
十二月八日の感慨 人類は戦争を避け得るか[「時の流れ」]『神社新報』1547、12月18日<<無署名>>

1979(昭和54)年

日本伝統精神の恢弘へ—国際情勢緊張のなかで—[「時の流れ」]『神社新報』1548、1月1日<<無署名>>
到来せる大転換の時代 鄧小平来日の意味するもの[「特集 急変するアジア情勢」]『祖国と青年』39、1月1日
安保解消を目標に独立自主の戦略構想を『新勢力』223、1月15日

- 大平首相伊勢参り 日本人の初詣で社会慣習[「時の流れ」]『神社新報』1549、1月15日<<無署名>>『選集昭56年版』『50年史(下)』収録]
- 一朝にして一国亡ぶ カンボジア占領併合さる[「時の流れ」]『神社新報』1550、1月22日<<無署名>>
カンボジアの波紋 国連と社会主義諸派の動き[「時の流れ」]『神社新報』1551、1月29日<<無署名>>
イラン王国の激動 日本人の注目すべき諸点[「時の流れ」]『神社新報』1552、2月5日<<無署名>>
国後択捉軍事基地 朝野政党の無見識を憂ふ[「時の流れ」]『神社新報』1553、2月12日<<無署名>>
鄧小平外交を見る 日本にも卓抜な外政家を[「時の流れ」]『神社新報』1554、2月19日<<無署名>>
中ソ対決、中越国境戦起る 日本は「中立」確保を 政府・国会の無見識に憂念[「時の流れ」]『神社新報』1555、2月26日<<赤坂一郎>>[『選集昭56年版』収録]
- 中国軍撤兵の時期 南方で戦争強化の時か[「時の流れ」]『神社新報』1556、3月5日<<無署名>>
日本は泰平でない 中越戦争論の姿勢を評す[「時の流れ」]『神社新報』1557、3月12日<<無署名>>
中越停戦後の予想 戦慄の限定作戦構想の将来[「時の流れ」]『神社新報』1558、3月19日<<無署名>>
元号法審議の前途 朝野議会民主党に望む[「時の流れ」]『神社新報』1559、3月26日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 日本人の平和妄想 諸列強の公然たる忠告聞け[「時の流れ」]『神社新報』1560、4月2日<<無署名>>
毛呂清輝兄と新勢力社『新勢力』224、4月15日
- 国民意識の復権を 中ソ同盟の廃止に際して[「時の流れ」]『神社新報』1561、4月16日<<無署名>>
地方知事・議員選挙 国民意識の急転回を示す[「時の流れ」]『神社新報』1562、4月23日<<無署名>>
大平首相靖国参拝 自衛隊の諸君に靖国精神を[「時の流れ」]『神社新報』1563、4月30日<<無署名>>[『時の流れ』収録]
- 天皇・祭祀・憲法[「特集1 天皇論への新たな視点」]『祖国と青年』41、5月1日
- 国民多数意志へのすみやかな対応を[「特集2 元号・いよいよ始まった国会論議 元号法制化を支持する識者からの提言」]『祖国と青年』41、5月1日
- 「地方の時代」の思想 歴史に基いての研究を要す[「時の流れ」]『神社新報』1564、5月7日<<無署名>>
憲法記念の日に 制憲議会以来の変遷史[「時の流れ」]『神社新報』1565、5月14日<<無署名>>
精神潮流転換の時代—議会へ元号法案提出さる—[「日本人の声」]『小日本』[改号]1、5月15日[『祖国と青年』42、8月1日に転載]
- 国民意識転回に際して 社会主義政党の退潮[「日本人の声」]『小日本』1、5月15日<<赤坂一郎>>
世界制覇連続限定戦 中越戦後の戦慄的な情勢[「日本人の声」]『小日本』1、5月15日<<くさなぎのたける>>
- SALTIIに合意 第三次大戦は新しい型か[「時の流れ」]『神社新報』1566、5月21日<<無署名>>
中越戦後のアジア カムラン湾の昔と今と[「時の流れ」]『神社新報』1567、5月28日<<無署名>>
東京サミット会議 業々しい演出は感心しない[「時の流れ」]『神社新報』1568、6月4日<<無署名>>
動乱前夜の外交戦略—鄧小平の動きを見て—『青年思想』20、6月10日
- 日本議会制の弱み 参議院の元号法案審議に見る[「時の流れ」]『神社新報』1569、6月11日<<無署名>>

名》

憲法記念日の新現象[「日本人の声」]『小日本』2、6月15日《無署名》

「地方の時代」とは何か[「日本人の声」]『小日本』2、6月15日《無署名》

安保条約への不信 祖国防衛構想への提言『小日本』2、6月15日《赤坂一郎》

罪なきもの石を投げよ『小日本』2、6月15日《さがみふみを》

伝統と異国ムード キリスト者と社会主義と[「時の流れ」]『神社新報』1570、6月18日《無署名》

「平和と戦争」の論争 ジャーナリズムも前進する[「時の流れ」]『神社新報』1571、6月25日《無署名》

*山口自衛隊、隊友会の裁判『生政連ニュース』6月<神社本庁所蔵>

元号と天皇—上山春平氏に答える『中央公論』94-7、7月1日[『みやびと覇権』収録]

時の流れ三十三年 コラム記者の回想挨拶[「時の流れ」]『神社新報』1572、1573、7月2、9日[『選集 昭56年版』収録]

信教自由と靖国神社 戦犯刑死者合祀の難問[「日本人の声」]『小日本』3、7月15日《無署名》

「平和と戦争」の論争評 森嶋通夫・関嘉彦の強みと弱み[「日本人の声」]『小日本』3、7月15日《無署名》

東京サミットと高雅なる皇室外交『小日本』3、7月15日[『祖国と青年』43、11月1日に転載]

華津論文の終りに語る[インタビュー]『小日本』3、7月15日[聞き手：鹿島武夫・牛島貞一]

精神潮流転換の時代—元号法制化運動の意義を論ず[総特集 元号法ついに成立]『祖国と青年』42、8月1日[精神潮流転換の時代—議会へ元号法案提出さる—(『小日本』1、5月15日)の転載]

自主防衛と安保条約『祖国と青年』42、8月1日《赤坂一郎》

難民救援を急げ 民族主義と国際ナショナル[「日本人の声」]『小日本』4、8月15日《無署名》

外賓の神社表敬を妨ぐ 霞ヶ関外交官僚は神敵か[「日本人の声」]『小日本』4、8月15日《無署名》

国防構想の大綱と軍事科学技術知識[「日本人の声」]『小日本』4、8月15日《無署名》

東京サミット風景の一感想『小日本』4、8月15日《さがみふみを》

痛惜『不二』34-7、8月25日[『影山正治大人追悼集』(影山正治大人追悼集編纂委員会、1980年5月25日)収録]

皇室に改宗を迫った占領軍 陛下こそ民族精神の支柱[「日本人の声」]『小日本』5、9月15日《無署名》

戦後史論争の発展 良心的社会責任のきびしさ[「日本人の声」]『小日本』5、9月15日《無署名》

戦友ラーマンへの表敬 S・C・ボース副官訪日を前に逝く[「日本人の声」]『小日本』6、10月15日《無署名》

日本国政府と三井財閥 条理を正してきびしき監視を[「日本人の声」]『小日本』6、10月15日《無署名》

国際経済不安に瀕す 愚民蔑視思想を秘める議会民主制[「日本人の声」]『小日本』6、10月15日《無署名》

官公業のヤミ給与許すな 現代民主は明治民権に劣る[「日本人の声」]『小日本』6、10月15日<無署名>

時宗廟と小日本社『小日本』6、10月15日<さがみふみを>

東京サミットと高雅なる皇室外交『祖国と青年』43、11月1日[『小日本』3、7月15日から転載]
貴重な明治維新史料－埤瑞比古編著「榊陰年譜附・加藤桜老小伝－」[「読書」]『神社新報』1589、11月12日

国際情勢大局展望 覇権崩れで乱戦の時代へ[「日本人の声」]『小日本』7、11月15日<無署名>

大平内閣政術の破綻 インフレ必至政治混乱の時代[「日本人の声」]『小日本』7、11月15日<無署名>

朴大統領凶弾に斃る 深憂禁じがたい隣邦の前途[「日本人の声」]『小日本』7、11月15日<無署名>
投票所に行って『小日本』7、11月15日<さがみふみを>

激動する世界の潮流 朴大統領亡き韓国の前途[「日本人の声」]『小日本』8、12月15日<無署名>

伝統文化の根なき朴維新体制の悲劇『小日本』8、12月15日<さがみふみを>

朝鮮を知るために(韓国政治史要)『小日本』8、12月15日<相模>[『神社新報』1384～1391、1975年7月7、14、21、28日、8月4、11、18、25日を再録し、「その後の韓国」を補筆]

日本人の精神生活－昭和初期における左翼と右翼－基調講演[1978年11月11日第5回シンポジウム於仏教伝道センタービル]『大倉山論集』14、12月25日

1980(昭和 55)年

昭和五十五年正月 祖国神聖感の回復を[「日本人の声」]『小日本』9、1月1日<無署名>

激流世界の前途 ゴールを見定めて準備を[「日本人の声」]『小日本』9、1月1日<無署名>

明治の帝国憲法制定史－日本人と外人の見解の異同－『小日本』9、1月1日<赤坂一郎>

明治の帝国憲法制定史 日本人と外人の見解の異同『祖国と青年』44、1月1日<赤坂一郎>

武力干渉と経済制裁 国際対決、新段階へ[「日本人の声」]『小日本』10、2月1日1日<無署名>

情況分析研究会報告『小日本』10、2月1日<赤坂一郎>[対談：稲葉稔、司会：樋泉克夫]

政治とスポーツの間 モスクワには行かぬがいい『神社新報』1601、2月11日<赤坂一郎>

穏やかな晴天の日に突然と『小日本』11、3月1日<くさなぎ・たける>

印度女帝の勝利とサハロフ博士の抗議－YP思想の追及究明－[「日本人の声」]『小日本』11、3月1日<A>

社会党思想の空白化 社会主義と平和主義の対決[「日本人の声」]『小日本』11、3月1日<A>

平和を憧れて平和を破る 社会党のオリンピック論『新勢力』24・2・3、3月15日<赤坂一郎>

アフガニスタンの栄光[「日本人の声」]『小日本』12、4月1日<無署名>

モスクワオリンピック 日本の国民と国会の決定[「日本人の声」]『小日本』12、4月1日<無署名>

国際情況分析研究会要録『小日本』12、4月1日<赤坂一郎>[対談：稲葉稔、司会：宮崎正顕]

せめて中級国家の戦力を 人権を守る軍事思想『小日本』12、4月1日<<赤坂一郎>>
公式参拝の問題点[「靖国神社問題を考える」]『中外日報』22583～22587、5月6、8、10、13、15日
国際正義の民となれ 義を先とし利を後にせよ[「日本人の声」]『小日本』13、6月1日
憲法記念の日に『小日本』13、6月1日<<くさなぎ・たける>>
政治不信任で解任 議院内閣制と憲法の不備[「日本人の声」]『小日本』14、7月1日
日本と韓国の近況を語る[インタビュー]『小日本』14、7月1日[聞き手：編集部]
悲壮なる国家意識 日本人とロシア人の友情と対決『小日本』14、7月1日<<赤坂一郎>>
自民党の大勝利と国際危局の緊迫『新勢力』24-6、7月15日<<赤坂一郎>>
自民党の大勝利となる[「日本人の声」]『小日本』15、8月1日<<無署名>>
国際闘争の現情況[「日本人の声」]『小日本』15、8月1日<<無署名>>
「赤い旅団」のテロ不発[「日本人の声」]『小日本』15、8月1日<<無署名>>
東アジアへ戦雲移るか[「日本人の声」]『小日本』15、8月1日<<無署名>>
韓国リベラリスト通信『小日本』16、9月1日<<赤坂一郎>>
制憲と憲政と一新旧二つの憲法をめぐって[インタビュー]『新勢力』24-7、8、9月15日、10月15日
全斗煥と金大中 韓国の友人への回答を語る[編集部によるインタビュー]『小日本』17、11月1日<<赤坂一郎>>
国際展望－権力存亡の法則『小日本』18、12月1日<<くさなぎのたける>>
なぜ試案を緊要とするか『小日本』18、12月1日

1981(昭和 56)年

流転する海外事情『小日本』19、1月1日[対談：鹿島武夫]<<赤坂一郎>>
古ぼけた米国憲法の大統領制『小日本』19、1月1日<<さがみふみを>>
風雪三十五年の追憶－新年に新報創刊時代を語る『神社新報』1644、1月5日[『選集昭 56 年版』収録]
金日成王朝の科学と神話 社会主義と世襲制のからみあい『小日本』20、2月1日[対談：鹿島武夫]<<赤坂一郎>>
平和エゴの日本人『小日本』21、3月1日<<さがみふみを>>
歴史・現代及び未来[談]『小日本』21、3月1日<<赤坂一郎>>
海空軍優位論の是非－その政治的判断を問う－[談]『小日本』24、7月1日<<赤坂一郎>>
『天皇譲位のすすめ』の矛盾を突く－一般人の未知に乗ずる清水提案の危険－[日本を守る研究情報より]『世界と日本』21-7、8月1日<<赤坂一郎>>
核の行使決断は必ずある『小日本』26、9月1日<<さがみふみを>>
レーガン「力の政策」 権力の法則と心情主義『小日本』26、9月1日<<赤坂一郎>>
「道徳教育」 歴史の歩み－教育勅語とゲバルト中学－『祖国と青年』54、9月1日<<赤坂一郎>>

頭山満という人「頭山満正伝」によせて『[西部版]毎日新聞[夕刊]』10月22日

ソウルの近況を聞く『小日本』27、11月1日<<赤坂一郎>>

不滅の光を残す[「ひむがし」復刻版の刊行を祝す]『不二』36-11、11月25日

頭山満という人「頭山満正伝」によせて『小日本』28、12月1日[『[西部版]毎日新聞[夕刊]』10月22日から転載]

1982(昭和57)年

国際情勢の展望 米ソは制覇へのゴールを進む—自由主義対社会主義の強弱『神社新報』1691、1月4日<<赤坂一郎>>

彼岸には必ず墓参り 遠さを追へば民の徳厚し『小日本』30、3月1日<<さがみふみを>>

中国とイタリアの共産党[「詠草」]『小日本』31、4月1日<<くさなぎのたける>>

神国意識を高めよ 土着大衆と知識人の開き[「詠草」]『小日本』31、4月1日<<赤坂一郎>>[『神社新報』1703、4月5日と同文]

孔子教を支援(シンガポール)[「詠草」]『小日本』31、4月1日<<さがみふみを>>

神国意識を高めよ 土着大衆と知識人の開き『神社新報』1703、4月5日<<赤坂一郎>>[『選集昭61年版』『神国の民の心』『昭和史を生きて』収録]

海外と日本—今日の問題『小日本』33、5月1日<<さがみふみを>>[鼎談：鹿嶋武夫、宮崎正顕]

クレムリンと平壤の独裁後継者『小日本』33、5月1日<<さがみふみを>>

世界は、今もヒットラリストか—国境、領土権と剣の論理—『小日本』33、6月1日<<赤坂一郎>>

好戦的か女宰相は『小日本』33、6月1日<<さがみふみを>>

内外社会時評三篇『小日本』34、8月1日<<さがみふみを>>【実戦経験ない将軍大統領と戦争をよく知る女流記者の対話、国際非常時への無感覚 鈴木首相と経済エリート、ロッキード裁判のもたつき 政治決着を逃げた三木内閣】

天皇陛下へ平和賞を 週刊誌記事作成の事情『小日本』35、9月1日

検定教科書の不見識 日本は列国共同植民地か『神社新報』1724、1725、9月13、20日

日本は世界共同植民地か—中国・韓国の教科書改変—干渉『小日本』36、10月1日[『神社新報』1724、1725、9月13、20日の転載]

ベイルート惨劇に感あり—武力と宗教とについて—『神社新報』1728、10月11日<<さがみふみを>>[『選集昭61年版』収録]

ヨーロッパの教科書 英仏独の色彩の鮮やかに『小日本』37、11月1日<<赤坂一郎>>

在英高校留学生の話『小日本』37、11月1日<<さがみふみを>>

ベイルートの惨事 国際世論の冷淡無責任さ『小日本』38、12月1日<<さがみふみを>>

国際潮流展望 アンドロポフの新戦略 外交の表相は変貌するか『神社新報』1736、12月13日<<赤坂一郎>>

1983(昭和 58)年

- ソ連戦略は変貌する プレジネフからアンドロポフへ『小日本』39、1月1日<<赤坂一郎>>
日本軍国主義の懸念『小日本』39、1月1日<<さがみふみを>>
神道学史上の今泉定助先生『日本大学今泉研究所紀要』1、1月15日 [『選集 3』収録]
建国記念の日 神武伝承と明治帝国『小日本』40、2月1日
中曽根内閣と日本の憲法情況『小日本』40、2月1日<<さがみふみを>>
浩宮御渡英の予算案『小日本』41、3月1日<<赤坂一郎>>
大祓ひ『小日本』41、3月1日<<さがみふみを>>
世界的経済異変と新しい戦略構想の発展『小日本』42、4月1日<<赤坂一郎>> [『神社新報』1750、4月4日と同文]
田中角栄と民主々義『小日本』42、4月1日<<さがみふみを>>
今日の国際問題 世界的経済異変と新しい戦略構想の発展『神社新報』1750、4月4日<<赤坂一郎>>
国際亡命者と日本国—赤坂一郎氏に聞く—[インタビュー]『小日本』43、6月1日<<赤坂一郎>>
宮中祭祀復古の動き『小日本』43、6月1日<<さがみふみを>> [座談：鹿嶋武夫、新井伸一]
参議院選挙の示すもの 永久与党と永久野党の定着『小日本』44、7月1日<<さがみふみを>>
香港の将来—東洋解放のゴール サッチャー対鄧小平の見識『小日本』45、8月1日<<さがみふみを>> [対談：くさなぎたけし]
マニラの流血の背景 中世紀的植民地政策の根は強い『小日本』46、10月1日<<赤坂一郎>>
金日成政権の狂暴抑圧と英知と勇氣ある権力の行使を『小日本』48、12月1日<<さがみふみを>>

1984(昭和 59)年

- 経済大国外交の将来—今年こそ路線決定のとき—『小日本』49、1月1日<<さがみふみを>>
皇室の祭儀礼典論『中外日報』23167、2月10日
祖国と青年編集者への書簡『祖国と青年』67、3月1日 [『祭祀と統治の間』(神道政治連盟、1971年)転載に際しての編集者への書簡]
『正伝』出版によせて 頭山満という人 徹底した平等観『小日本』52、5月1日
読史余談 西郷隆盛論『小日本』52、5月1日 [『新勢力』21-4、1976年4月15日から転載]
続読史余談 頭山満論『小日本』52、5月1日 [『新勢力』21-5、1976年5月15日から転載。『選集 2』収録]
筑前玄洋社史評論『小日本』52、5月1日 [『新勢力』20-8、1975年8月15日から転載。『選集 2』収録]
日本の右翼—その思想と行動『小日本』52、5月1日 [「右翼精神の系譜と現状—日本人の底にひそむ力強い精神潮流—」(『経済往来』21-9、1969年9月1日)の改題・再録]

*偉大な天才をしのぶ『みいつ』<稜威会>6月<神社本庁所蔵>

*『真』を学ぶ『自己維新』<稜威会>7月<神社本庁所蔵>

天子の御祭り『小日本』56、9月1日<<赤坂>>

神国日本よ、永遠なれ『小日本』56、9月1日<<赤坂>>

皇室の祭儀礼典論－国事私事両説解釈論の間で－『小日本』57、10月1日

日本帝国の戦友群像『小日本』58、11月1日[葦津珍彦述、鹿島武夫記]

伊藤芳男君の横顔－汪精衛が深く信頼した日本人－『小日本』58、11月1日[「地下活動に終始した故伊藤芳男君の横顔」(『新勢力』17-4、1972年4月15日)の改題・転載、『選集2』収録]

*右翼精神の系譜と現状『瑞穂』<瑞穂塾>11月<神社本庁所蔵>[「右翼精神の系譜と現状－日本人の底にひそむ力強い精神潮流－」(『経済往来』21-9、1969年9月1日)の再録か]

1985(昭和60)年

日本国に理想の目標『小日本』59、1月1日<<無署名>>[『葦津珍彦先生追悼録』(小日本社、1993年)210-211頁、参照]

天皇に私なし－内廷神事の端的な意味『神社新報』1832、1月7日<<赤坂一郎>>[『選集昭61年版』収録]

天皇に私なし－統一『神社新報』1833、1月14日<<赤坂一郎>>

神武建国と明治維新『祖国と青年』77、2月1日

あれから八十年 日本海海戦当時と現代の情勢[「国際展望」]『神社新報』1841、3月11日<<赤坂一郎>>

神社・神道 不当に冷遇[「ルポ'85 わたしの言い分」]『朝日新聞[夕刊]』3月25日[「神社神道と政教分離－インタビューに答えて」と改題、江藤淳・小堀桂一郎編『靖国論集 日本の鎮魂の伝統のために』<教文選書>(日本教文社、1986年)、新版『靖国論集 日本の鎮魂の伝統のために』(近代出版社、2004年)収録]

ソ連カムラン湾基地 太平洋上濤高し『小日本』62、4月1日<<赤坂一郎>>

国家神道とは何だったのか『小日本』63～67、6月1日、7月1日、8月1日、10月1日、11月1日<<矢島三郎>>[『国家神道とは何だったのか』(神社新報社、1987年)刊]

自由国家に真の教育権なし 教育自由化の道を求めて[「教育にとって自由とは何か」]『思想の科学[第7次]』64、7月1日

芸術と剛毅 林竹二さんを思う[「明治維新共同研究会のころ」]『思想の科学[第7次]』69、11月10日

米国西部日系人を訪ねて『小日本』67、11月1日

信教自由、政教分離の法理 それは破綻の時代に入った『小日本』68、12月1日<<矢島三郎>>

1986(昭和61)年

御在位六十年に際し切望す『小日本』69、1月1日[『神国の民の心』『選集1』『昭和史を生きて』収録]

米新植民地政変の方式 中曽根首相の非アジア心理 『小日本』 71、4月1日

人生についての暗示 「中村統子の愛」を三読して 『小日本』 72、5月1日

近代天皇論の系譜－福沢諭吉から橋川文三まで天皇を巡る思想のドラマ－『Voice』101、5月1日[対談：大原康男]

明治憲法の制定史話[28回連載] 『世界日報』5月19～23、26、28～30日、6月2～6、10～13、16～20、23～27日[全28話のうち24～28話を『選集1』収録、『明治憲法の制定史話』(神社新報社、2018年)刊]

日韓民族の不幸な歴史－虚像の前に卑屈な中曽根首相－『祖国と青年』95、8月1日[『新編日本史のすべて 新しい日本史教科書の創造へ』(原書房、1987年)収録、同書から『選集2』収録]

英国憲法の実像と虚像 『小日本』 75、9月1日<<矢島三郎>>

憲法・国防と神道 『小日本』 76、10月1日<<赤坂一郎>>[対談：宮崎正顕]

明治憲法の制定史話 『小日本』 78～81、83、12月1日、1987年1月1日、3月1日、4月1日、6月1日[「明治憲法の制定史話」(『世界日報』5月19～23、26、28～30日、6月2～6、10～13、16～20、23～27日)を加筆補修]

1987(昭和 62)年

故宮崎清平兄を語る－忠烈の雄姿と人物思想判断の直感力－ 『小日本』 82、5月1日

占領下と講和独立直後の－東京裁判の風景 『祖国と青年』104、5月1日[「東京裁判判決の反響」(『神社新報』122、1948年11月22日)、「天皇陛下と東京裁判の判決」(『神社新報』123、1948年11月29日)、「日本人もドイツ人も戦犯の釈放を要求する」(『神社新報』289、1952年5月19日)、「鷹司統理各国大使館訪問 戦犯人の全面釈放要望」(『神社新報』298、1952年7月28日)、「温い友情と共に鋭い批判 印度のパール博士の来日」(『神社新報』314、1952年11月24日)の転載]

明治維新史論の対話[インタビュー、文責在記者] 『神社新報』1966～1970、11月2、16、23、30日、12月7日

1988(昭和 63)年

韓国の大統領選 蘆泰愚の英知と勇氣[「国際時評」] 『神社新報』1973、1月4日<<赤坂一郎>>

明治維新史を語る 『諸君!』20・2、3、2月1日、3月1日[聞き手：大原康男]

国体と天皇の御祭り[談] 『小日本』 91、4月1日

明治維新史論私考 『神社新報』1995～2000、6月20、27日、7月4、11、18、25日[『小日本』95、8月1日に転載]

憲法二十条解釈確定す 『月曜評論』911、7月11日[『選集1』収録]

創立者宮川社長の英断－神社本庁創立と新報発刊－ 『神社新報』2000、7月25日[葦津泰国『日本の新聞百二十年』(神社新報社、1991年7月8日)、『50年史(下)』収録]

明治維新史論私考 『小日本』 95、8月1日[『神社新報』1995～2000、6月20、27日、7月4、11、18、25日から転載]

聖上追悼式へ行幸－非礼の世論残存を慨す－[「主張」] 『神社新報』2003、8月22日<<赤坂一郎>>[『50

年史(下)』収録、「戦争責任論の迷妄」と改題『天皇 昭和から平成へ』収録]
 憲法二十条解釈確定すー(最高裁憲法判決の法理)『小日本』96、10月1日[『月曜評論』から転載]
 聖上追悼式へ行幸『小日本』98、12月1日[『神社新報』2003、8月22日から転載]

1989(昭和64・平成元年)

大転回の世界潮流ー日本は致命的孤立化避けよー『神社新報』2020、1月2日<赤坂一郎>
 天皇陛下崩御 奉悼のことば[「社説」]『神社新報』号外、1月8日<無署名>[『50年史(下)』『天皇 昭和から平成へ』収録]
 祖宗の神器御承継 万世一系の莊嚴なる古儀[「社説」]『神社新報』号外、1月8日<無署名>[『50年史(下)』『天皇 昭和から平成へ』収録]
 「平成」の元号定まる 日本文化の伝統を守り[「社説」]『神社新報』号外、1月8日<無署名>[『50年史(下)』『天皇 昭和から平成へ』収録]
 平成の新帝への忠誠[「社説」]『神社新報』2021、1月23日<無署名>[『50年史(下)』『天皇 昭和から平成へ』収録]
 高雅で至聖なる不偏不党者[「わたしの天皇感覚」]『朝日ジャーナル』31-4<緊急増刊『総検証天皇と日本人』>、1月25日[73ページに掲載]
 明治憲法百周年を迎えて[「主張」]『神社新報』2023、2月6日<赤坂一郎>
 昭和天皇御歌の公開切望[「主張」]『神社新報』2024、2月13日<赤坂一郎>
 悲史の帝『文芸春秋』67-4[増刊「大いなる昭和」]、3月10日[『選集1』収録]
 民主主義とは何か[「解題」]『神社新報』2051~2055、9月4、11、18、25日、10月2日<南船北馬>【①世界大変動の予感と異質の各国民主主義史、②米国建設の政治思想、③南北戦争前後、④高度資本主義発展と民主主義の新しい進歩、⑤ウイルソン以後の帝国主義と民主主義】
 世界大変動の予感と異質の各国民主主義『小日本』106、10月1日<南船北馬>[「民主主義とは何か」(『神社新報』2051~2055、9月4、11、18、25日、10月2日)を転載]
 通俗昭和史への批判的異説ー天皇機関説論争史ー『小日本』107、11月1日<南船北馬>
 東洋法と西洋法の論理の対決と統合『小日本』108、12月1日<南船北馬>
 [「即位の礼・大嘗祭 識者の見方にも隔たり」]『朝日新聞』12月22日

1990(平成2)年

対決者への社会的平等権も保障すべきだ[談]『朝日ジャーナル』32-6、2月16日
 頭山統一君を追悼 クリアンサク宰相との信と親『小日本』113、5月1日
 小野祖教大兄の追想『神社新報』2090、7月2日[『選集3』収録]
 日本の君主制『神社新報』2091~2093、7月9、16、23日【昭和天皇の偉大な精神力、ルーマニア王朝の末路を見る、イタリア王国最後の非史、日本帝国終戦路線難航、最後の戦略思想 対決と統合、戦後の皇室(昭和から平成へ)】

昭和天皇の偉大な精神史『小日本』117、9月1日[「日本の君主制」(『神社新報』2091～2093、7月9、16、23日)を転載]

近代神道史の篤学者－阪本健一大人を偲ぶ－『神社新報』2103、10月15日

1991(平成3)年

近代日韓外交史話『小日本』119、1月1日<<南船北馬>>

日本はアラブ戦には絶対不介入を－国連盲従外交を捨てよ－『小日本』121、3月1日<<南船北馬>>

池田篤紀さんと胡蘭成さん『小日本』122、4月1日

国軍と国民の戦力－その別と関連－『小日本』123、5月1日<<南船北馬>>

神社の法学者 大石義雄先生追悼『神社新報』2131、2132、5月20、27日[「神社の法学者 大石義雄先生」と改題『選集3』収録]

神道的法学者の大石先生を追悼す『小日本』125、7月1日[一部修正し『神社新報』2131、2132、5月20、27日から転載]

世界動乱の展望『小日本』125、7月1日<<南船北馬>>

民族宗教と個人宗教－大石義雄先生追悼文の一節－『神社新報』2146、9月16日

激動の世界[「対談・時局展望」]『神社新報』2159、12月16・23日<<赤坂一郎>>[神社新報編集長・高井和夫によるインタビュー、文責・編集部]

1992(平成4)年

日本共産党史のデマと真相[談]『小日本』131、1月1日<<赤坂一郎>>

昭和天皇の三年祭迎え－その悲しき御憂念を思ふ－[談]『神社新報』2161、1月13日<<赤坂一郎>>[『50年史(下)』収録]

昭和天皇神去りまして三年『小日本』132、2月1日<<赤坂一郎>>[『神社新報』2161、1月13日と同文]

外人を日本化する「国際化」を『小日本』132、2月1日<<南船北馬>>

わが天皇思想について『小日本』134、5月1日<<赤坂一郎>>

国王の光栄と威厳『小日本』134、5月1日<<赤坂一郎>>[『選集1』収録]

民族の独立か個人の人権か『小日本』135、6月1日<<赤坂一郎>>

*ヤルタ・ポツダム体制とは『瑞穂』<瑞穂青年社>8月<神社本庁所蔵>